

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 日中交流センター事業費

### 1. 人物交流事業費

- (1) 受託事業（日中交流センター）
- (2) 中国高校生の招へい事業
- (3) ネットワーク整備事業（派遣）
- (4) ネットワーク整備事業（招へい）

### 2. 催し等事業費

- (1) 中国「ふれあいの場」事業（共同設置）
- (2) 中国「ふれあいの場」事業（助成）

### 3. 文化資料事業費

- (1) ネットワーク整備事業（ウェブサイト構築・運営）

### 4. 調査研究費

- (1) ネットワーク整備事業（交流担い手ネットワーク構築）

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (1) 受託事業 (日中交流センター)

日中交流の分野で、国際交流基金の業務趣旨に合致する事業を外部から受託し実施する。

合計額 12,219,313 円

	事業名	期間	事業内容
1	コミュニティサイト「心連心ウェブサイト」の運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	財団法人日中友好会館からの受託により、「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として同会館が日本に招へいする中国の高校生、中国に派遣する日本の高校生を対象に、来日を通して形成された人間関係の持続・発展を目的に、日中交流センターが管理運営する「心連心ウェブサイト」の一部を提供し、高校生交流のコミュニティ・ページを運営 URL: <a href="http://tanki.chinacenter.jp/">http://tanki.chinacenter.jp/</a>

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (2) 中国高校生の招へい事業

中国の高校生を招へいし、日本の社会と文化を知る機会を提供するとともに、日本の一般市民が中国人と直接交流し、中国の文化を知る機会を提供する。

合計額 87,023,958 円

	事業名	人数	期間	事業内容
1	中国高校生長期招へい事業（第4期生）	35	2009.09.01 ~ 2010.07.24	日中両国の青少年の間で、「人と人」の心の繋がりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的に、中国の高校生を11カ月間日本に招へいし、日本の社会と文化を知り、日本人と直接交流する機会を提供。第4期生として計35名を招へい
2	中国高校生長期招へい事業（第5期生）	38	2010.08.31 ~ 2011.07.23	日中両国の青少年の間で、「人と人」の心の繋がりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的に、中国の高校生を11カ月間日本に招へいし、日本の社会と文化を知り、日本人と直接交流する機会を提供。第5期生として計38名を招へい
3	中国高校生長期招へい事業 （フォローアップ）	—	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国高校生長期招へい事業で招へいした生徒が帰国した後、対日親近感の維持や卒業生同士のネットワーク拡大のため、交流会等のフォローアップを実施。また、必要に応じて、大学進学時のバックアップなどを実施

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (3) ネットワーク整備事業 (派遣)

中国各地で展開している対日理解促進のためのスペース「ふれあいの場」を中心に、日中の若い世代が主体的に参画することにより双方の友情と信頼関係を築くための派遣事業を行う。

合計額 8,321,634 円

	事業名	人数	受入機関	期間	事業内容
1	大学生交流事業 (広州)	11	中山大学	2011.03.08 ~ 2011.03.13	広州ふれあいの場において、日本の学生が中心となって企画を行なった日中交流事業(日本文化紹介イベント)を実施。日中学生会議を開催するとともに名古屋大学学生計11名が日中学生交流祭を実施
2	大学生交流事業 (南京)	5	金陵図書館	2011.03.10 ~ 2011.03.14	南京ふれあいの場において、日本の学生が中心となって企画を行なった日中交流事業(日本文化紹介イベント)を実施。名古屋大学大学院生5名が日本舞踊を実施
3	高校生「ふれあいの場」訪問事業	18	広島・四川中日友好会館	2011.03.20 ~ 2011.03.25	日中の青少年交流の促進と、ふれあいの場の知名度向上・活性化を目的に、成都ふれあいの場に、日本人高校生18名を派遣

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (4) ネットワーク整備事業 (招へい)

日中の若い世代で双方の友情と信頼関係に基づいたネットワークの形成を促進するための招へい事業を行う。

合計額 1,777,233 円

	事業名	人数	期間	事業内容
1	重慶ふれあいの場関係者招へい	7	2011.02.13 ~ 2011.02.18	平成22年度に新規開設した「重慶ふれあいの場」の担当者及び協力機関の関係者を招へいし、「ふれあいの場」運営のための研修を実施するとともに、日本事情の理解を深めるために視察を実施。 重慶大学、重慶師範大学、四川外語学院、西南大学から7名を招へい。東京、京都を訪問

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (1) 中国「ふれあいの場」事業（共同設置）

現代日本の最新情報に接する機会が少ない中国の地方都市において、日本情報を発信し、中国の市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する

合計額 15,317,773 円

	事業名	都市	共催・協力機関	期間	事業内容
1	成都ふれあいの場	成都	広島・四川中日友好会館	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国四川省成都市の広島・四川中日友好会館内に日中共同で「ふれあいの場」を設置。日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴のほか、日本語コーナー、新年会、日本の高校生訪中団受け入れ等の交流イベントに4,193人が参加
2	長春ふれあいの場	長春	長春図書館	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国吉林省長春市の長春図書館内に日中共同で「ふれあいの場」を設置。日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴のほか、仙台市訪問団、日本語教師研修会等のイベントに1,881人が参加
3	南京ふれあいの場	南京	金陵図書館	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国江蘇省南京市の金陵図書館内に日中共同で「ふれあいの場」を設置。日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴のほか、講演会、J-POPコンサート、日本舞踊ワークショップ等のイベントに3,934人が参加
4	ふれあいの場担当者訪日研修			2010.08.23 ~ 2010.08.31	中国の8地方都市に展開中である各「ふれあいの場」から1名ずつ現場の担当者を招へいし、「ふれあいの場」運営に資する機関訪問、相互のネットワーク作りのための研修・視察を実施。8カ所から各1名、合計8名の担当者が参加
5	ふれあいの場巡回公演事業			2011.03.12 ~ 2011.03.21	日本文化と接する機会が限られている中国の地方都市にて、日中の音楽を通じた交流を図り、日本への親近感・関心を高めるために、「ふれあいの場」とも連携しつつJPOP公演を実施。当初、南京、青島、重慶で実施予定であったが、東日本大震災の発生により南京公演のみ実施

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (2) 中国「ふれあいの場」事業（助成）

現代日本の最新情報に接する機会が少ない中国の地方都市において、日本情報を発信し、中国の市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。

合計額 10,454,411 円

	助成対象機関	都市	期間	事業内容
1	黒龍江大学東語学院	ハルビン	2010.04.01 ~ 2011.03.31	黒龍江大学東語学院に対し、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催するための「ふれあいの場」助成事業による包括的支援を実施。書籍、雑誌の閲覧のほか、日本語交流会、日本語スピーチコンテスト等のイベントに1,252名が参加
2	延辺大学日本学研究所	延吉	2010.04.01 ~ 2011.03.31	延辺大学日本学研究所に対し、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催するための「ふれあいの場」助成事業による包括的支援を実施。書籍、雑誌の閲覧のほか、運動会等のイベントに2,104名が参加
3	連雲港少年児童図書館	連雲港	2010.04.01 ~ 2011.03.31	連雲港少年児童図書館に対し、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催するための「ふれあいの場」助成事業による包括的支援を実施。書籍、雑誌の閲覧のほか、アニメ映画上映会、姉妹都市（佐賀市）訪問団との交流等のイベントに1,843人が参加
4	青海民族大学	西寧	2010.04.01 ~ 2011.03.31	青海民族大学に対し、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催するための「ふれあいの場」助成事業による包括的支援を実施。書籍、雑誌の閲覧のほか、日本語コーナー、留学生交流会等のイベントに6,966名が参加
5	重慶師範大学	重慶	2010.04.01 ~ 2011.03.31	重慶師範大学に対し、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催するための「ふれあいの場」助成事業による包括的支援を実施。書籍、雑誌の閲覧のほか、開設記念の日本文化祭、日本語朗読コンテスト、ジャパンデイ（茶道ワークショップ）等のイベントに3,661名が参加
6	中山大学	広州	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中山大学に対し、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを開催するための「ふれあいの場」助成事業による包括的支援を実施。書籍、雑誌の閲覧のほか、日本語作文コンテスト、日中学生交流祭等のイベントに975人が参加

日中交流センター事業費

3. 文化資料事業費 / (1) ネットワーク整備事業 (ウェブサイト構築・運営)

将来にわたり日中間のかけ橋となり得る人々のネットワークを構築し、日中交流の基盤強化を図るため、ウェブサイトを構築・運営。

合計額 20,999,166 円

	事業名	期間	事業内容
1	「心連心ウェブサイト」のサイト運営	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日中間の交流事業を通じて生まれた友情の輪をつなぎ、広げていくための専用ウェブサイト「心連心ウェブサイト」の運営
2	「心連心ウェブサイト」のコンテンツ管理	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「心連心ウェブサイト」において、日本と中国の若い世代の間で人気の高い、映像、音楽、ファッション、グルメ等の最新情報、日本と中国の現役大学生による大学の紹介、アニメを通じた日本の文化の紹介等の情報を発信
3	「心連心ウェブサイト」のサイト広報	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「心連心ウェブサイト」の周知を図り、閲覧者を増やすために必要な各種広報を実施。平成22年度は日本語・中国語併記の専用チラシを作成

4. 調査研究費 / (1) ネットワーク整備事業 (交流担い手ネットワーク構築)

日中交流促進にかかる環境整備 (中国での日本文化紹介ラジオ番組など)。

合計額 5,170,752 円

	事業名	期間	事業内容
1	上海世界旅遊資源博覧会でのブース出展・広報	2010.05.27 ~ 2010.05.29	上海国際博覧会 (上海万博) 期間中に開催された「上海世界旅遊資源博覧会」(10.05.27~29)にブースを出展。各種展示や動画、配布資料を通して「ふれあいの場」「心連心ウェブサイト」の広報を実施
2	上海国際博覧会で『中国高校生が見た日本』上映	2010.06.07 ~ 2010.06.10	上海国際博覧会 (上海万博) 日本館にて国際交流基金主催邦楽公演と組み合わせて中国高校生長期招へい事業の第3期生・第4期生計4名の留學生活の様子を紹介する映像を上映
3	ラジオ番組制作・放送事業	2010.07.01 ~ 2011.06.30	日本の「流行音楽」と「流行情報」を中国語で紹介するラジオ番組『音楽新幹線』を制作し、中国国内各地域の主要FMラジオ局で放送



# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 米州交流事業費

### 1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔米州〕
- (2) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔米州〕
- (3) 日本研究機関支援〔米州〕

### 2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 長期）〔米州〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔米州〕
- (3) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 短期）〔米州〕

### 3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔米州〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔米州〕
- (3) 人材育成グラント〔米州〕

米州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化 (主催) [米州]

学問分野を超えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 8,215,340 円

	事業名	対象国	共催機関	期間	事業内容
1	北米日本研究調査	米国、カナダ	ハワイ大学マノア校	2010.12.01 ~ 2011.03.31	北米における日本研究の実態を把握するための日本研究日本研究機関、研究者等に関する調査の実施

米州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究ネットワーク強化 (助成) [米州]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 7,247,066 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	カナダ日本研究学会	カナダ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	第23回年次大会「太平洋の隣国としての日本」(10.09.30~10.03)の実施に対し助成
2	ラテンアメリカ・アジア・アフリカ学会	メキシコ	2010.05.01 ~ 2011.03.31	コロンビアで開催された第13回ラテンアメリカ・アジア・アフリカ学会(11.03.23~25)の実施に対し助成

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援 [米州]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的かつ中・長期的に行い、当該国の日本研究の基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 67,318,825 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	京都アメリカ大学コンソーシアム (Kyoto Consortium for Japanese Studies)	米国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	歴史文献研究を行う学生・研究者に向けた古文の夏期集中研修、京都上級・古典日本語サマープログラム開催のための助成を実施
2	五大湖周辺私立大学連盟 (Great Lakes colleges Associations : GLCA)	米国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究を専門としない教員に対する日本理解セミナー、訪日プログラムのための助成を実施
3	ハワイ大学マノア校	米国	2010.06.01 ~ 2011.05.31	ハワイ大学沖縄研究センターによる調査研究、図書拡充等に対する助成を実施
4	ケンタッキー大学	米国	2010.07.01 ~ 2011.06.30	日本語、ビジュアル・アーツの担当教員拡充のための給与助成を実施
5	バージニア大学	米国	2010.07.01 ~ 2011.06.30	歴史、メディア研究、人類学の担当教員拡充のための給与助成、図書拡充のための助成を実施
6	フロリダ国際大学 (Florida International University)	米国	2010.07.01 ~ 2011.06.30	社会学の担当助教授マシュー・マー (Dr. MARR, Matthew D.) 拡充のための給与助成を実施
7	イリノイ大学	米国	2010.08.01 ~ 2011.07.31	中西部地域の大学に所属する様々な分野の教員を対象とした中西部日本研究セミナー実施に対し助成。域内の大学が持ち回りでホストとなり、年5回2名の専門家により歴史・文学・宗教・政治などをテーマとしたセミナーを実施
8	コロラド大学ボルダー校	米国	2010.08.01 ~ 2011.07.31	日本研究大学院課程設置に向け、江戸文学・言語学・日本研究司書・歴史の教員ポスト新設、図書館収集資料の拡充に対し助成
9	マサチューセッツ工科大学 (MIT)	米国	2010.08.01 ~ 2011.07.31	MIT内にあるウェブ公開用教育ツール「Visualizing Culture : 画像を通してのアジアの歴史と文化」に日本近代史教育用パートを開発し追加する事業に対し助成を実施

米州交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
10	フロリダ大学(Ubiversity of Florida)	米国	2010.08.15 ~ 2011.06.30	近代日本史担当助教授サラ・コブナー(KOVNER, Sarah C.)拡充のための給与助成を実施
11	ワシントン大学	米国	2010.09.15 ~ 2011.09.14	人文分野(建築、芸術史・歴史・演劇・宗教学等)での客員招へいを行い、周辺大学との連携、北西岸の大学における出張講義・セミナー等を行う事業に対して助成を実施
12	カリフォルニア州立大学サンタバーバラ校	米国	2010.09.20 ~ 2011.09.19	日本近代史担当教員拡充のための給与助成、夏期講座の開講、客員教授の招へいのための助成を実施
13	東西センター(East West center)	米国	2010.11.01 ~ 2011.10.31	人文社会系の学部教員向けに行う日本文化・社会に関する2回の短期集中ワークショップの実施のための助成を実施
14	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	メキシコ	2010.05.01 ~ 2011.03.31	アジアアフリカ研究センター修士課程における「近代日本文学」講義のための専門家を派遣。また、論文執筆のための資料収集等のための訪日研修、寄贈図書受入のための図書情報整理のための助成を実施
15	サンパウロ大学	ブラジル	2010.05.01 ~ 2010.12.31	哲学文学人間科学部における「日本古典文学」講義のための専門家を派遣。また、学日本の大学との協定締結のための準備業務に対する助成を実施

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ (学者・研究者 長期) [米州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 49,551,815 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	HARA, Kimie	ウォータールー大学歴史・政治学部 教授	カナダ	京都大学	2010.09.15 ~ 2011.03.14	サンフランシスコ後：対日講和条約と東アジア地域紛争
2	KNIGHT, Nancy Jane	トロント大学 特任教授	カナダ	早稲田大学	2010.11.23 ~ 2011.03.29	アジアにおける高等教育のリージョナライゼーション～日本の役割
3	QIN, Xiaoli	カナダロイヤルオンタリオ博物館 共同研究員	カナダ	独立行政法人奈良文化財研究所	2010.07.16 ~ 2011.07.15	カナダ・ロイヤルオンタリオ博物館所蔵の八木遺跡出土遺物に関する研究
4	BATES, Peter	ディキンソン大学 助教授	米国	立命館大学	2010.08.16 ~ 2011.07.15	地震の文化：関東大震災と大正時代の日本
5	BENDER, Shawn	ディキンソン大学 助教授	米国	東京大学	2010.08.20 ~ 2011.07.17	テクノユートピアが現実になる：ロボット工学と日本の高齢化社会マネジメント
6	BODIFORD, William Marvin	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 教授	米国	東洋大学	2011.02.01 ~ 2011.06.22	徳川時代の知的生活における仏教徒の印刷物及び書籍
7	DENECKE, Wiebke	コロンビア大学バーナードカレッジ 准教授	米国	国際日本文化研究センター	2009.08.11 ~ 2010.05.10	中国・ギリシャの足跡－日本語世界とラテン語世界の作者たちと文学伝統
8	HESSELINK, Reinier H.	北アイオワ州立大学 准教授	米国	東京大学史料編纂所	2009.08.11 ~ 2010.05.10	長崎キリスト協会の盛衰 (1560年～1640年)
9	CONDRIY, Ian Richard	マサチューセッツ工科大学 助教授	米国	早稲田大学	2010.09.02 ~ 2010.12.02	日米におけるソーシャルメディア：社会的ネットワーク形成、ウィルスの流行、モバイル/デジタル時代における創造性の政治に対する民族学的アプローチ
10	IGARASHI, Yoshikuni	ヴァンダービルト大学 准教授	米国	大阪大学	2010.05.12 ~ 2010.09.11	帰郷：失われた大日本帝国からの遅すぎた帰還
11	KIMBROUGH, Randle Keller	コロラド大学 助教授	米国	南山大学	2009.05.30 ~ 2010.05.29	中世・近世仏教文学（説経節および古浄瑠璃）の翻訳プロジェクト
12	MAEDA, Tamaki	ブリティッシュ・コロンビア大学 講師	米国	東京芸術大学	2010.09.06 ~ 2011.09.05	1910年代～1930年代の日中芸術交流
13	McKELWAY, Matthew Philip	コロンビア大学 准教授	米国	学習院大学	2010.09.16 ~ 2011.08.31	絵のゆらぎ：扇絵の社会的文化的動向
14	O' BRIEN, Suzanne Gail	ボストン大学 助教授	米国	早稲田大学国際教養学術院	2010.05.10 ~ 2010.08.22	煙と鏡：終戦直後の日本におけるタバコ消費と広告を通して見た男らしさの再構成
15	REITAN, Richard	フランクリン大学 助教授	米国	東京大学	2009.08.27 ~ 2010.08.11	ガイストから精神へ： 明治日本における精神の系統

米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
16	SANGO, Asuka	カールトン大学 助教授	米国	東京大学	2010.07.13 ~ 2011.07.12	後光：日本仏教儀礼における力と知識
17	SELINGER, Vyjayanthi Ratnam	ボウドイン大学 助教授	米国	国学院大学	2010.03.24 ~ 2010.08.10	14世紀日本の歴史文学における將軍像
18	SKABELUND, Aaron Herald	ブリガム・ヤング大学 助教授	米国	北海道大学	2010.03.23 ~ 2010.08.02	見えない男：戦後の日本の軍隊、1945-2005
19	HERNANDEZ CORRALES, Teresita	アジア博物館 館長	キューバ	東京大学資料編纂所	2010.07.03 ~ 2011.03.01	西洋における日本芸術のプレゼンス、芸術的・文化的特徴
20	BARRON SOTO, Maria Cristina Esperanza	イベロアメリカ大学 教授	メキシコ	京都大学	2010.01.16 ~ 2010.05.15	スペイン帝国時代のメキシコ、フィリピン、日本間の太平洋貿易
21	HIRATA, Helena Sumiko	フランス国立科学研究センター リサーチディレクター	ブラジル	一橋大学	2011.03.01 ~ 2011.07.31	介護に関する理論と実践ーフランス、ブラジル及び日本における高齢者介護労働者の比較研究
22	KUSANO, Darci Yasuco	サンパウロ大学 研究員	ブラジル	立教大学	2010.09.27 ~ 2011.09.26	寺山修司の世界

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェロースhip (論文執筆) [米州]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要がある者を招へいする。

合計額 98,121,445 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	BECK, Jodie Nicole	マックギル大学 博士課程	カナダ	日本大学	2010.09.02 ~ 2011.11.01	フィクションを議論する：日本のフェミニストによる思索的なSF
2	BERTHIN, Michael Edwin	ロンドン大学 博士課程	カナダ	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 知能ロボティクス研究所	2009.05.10 ~ 2010.05.09	日本における社会ロボットの民俗学的検証
3	CALLAGHAN, Sean Koji	トロント大学東アジア学部 博士課程	カナダ	立教大学	2009.08.14 ~ 2010.08.13	衝突する集団性：戦前日本における生命、国家、そして作用
4	CRAIG, Christopher Robin Jamie	コロンビア大学 博士課程	カナダ	早稲田大学	2009.06.02 ~ 2010.06.01	近代中流階級：地方名望家と地方の発展 1890~1930
5	FUJIWARA, Gideon	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	カナダ	弘前大学	2010.07.10 ~ 2011.07.09	19世紀日本における神霊とアイデンティティーー平田国学と津軽グループ
6	IVANOVA, Gergana Entcheva	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	カナダ	上智大学	2010.06.01 ~ 2011.07.31	日本近世・近代における平安女性像の考察ー受容と創造の観点からー
7	LEE, Victoria	プリンストン大学 博士課程	カナダ	北里研究所	2010.09.01 ~ 2011.08.31	1890~1930年日本の微生物学と産業における科学研究

## 米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
8	OSENTON, Sarah Catharine	トロント大学 博士課程	カナダ	和光大学	2010.05.18 ~ 2011.01.17	パロディ、パラドックス、サイボーグ：現代日本芸術における歴史、身体、及び物語を議論する
9	PETRUCCI, Maria Grazia	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	カナダ	九州大学	2010.06.28 ~ 2011.03.27	引潮に乗って：近世初期（1550～1640）日本の海賊ネットワーク
10	SERVICE, Jonathan Keith Ranta	ハーバード大学 博士課程	カナダ	東京大学	2009.09.16 ~ 2010.09.15	明治日本における音楽の近代化
11	TSENG, Chih-mien (Adrian)	マクマスター大学 博士課程	カナダ	東京農業大学	2010.09.06 ~ 2011.01.05	中世中国の道教における自然と仏教における自然の概念比較
12	ARNOLD, Michael John	ミシガン大学 博士課程	米国	明治学院大学	2009.07.01 ~ 2010.06.30	毎日午後のセックス 日本ピンク映画の形ーボディと映画写真主義の欠如
13	ATHERTON, David Carl	コロンビア大学 博士課程	米国	立教大学	2010.03.13 ~ 2011.03.12	神が人であった時：中世本地物における家族、苦、と異郷
14	BUENO, Alex	プリンストン大学 博士課程	米国	東京大学	2010.09.23 ~ 2011.09.22	デジタル時代の東京：団地、アニメと都市空間
15	CLERICI, Nathen	ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程	米国	北海道大学	2010.09.20 ~ 2011.09.19	「純」でも「大衆」でもない：現代日本文学におけるサブカルチャーのインパクト
16	COOK, Ryan Marshall	イェール大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010.09.30 ~ 2011.09.29	日本における映画と映画愛好家：戦後から現代に至るまでの芸術と政策
17	DEPIES, Gregory John	カリフォルニア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2009.09.05 ~ 2010.09.04	日本における国際赤十字
18	DES JARDIN, Molly Catherine	ミシガン大学 博士課程	米国	日本大学	2009.09.14 ~ 2010.09.05	アイデンティティ編集：明治後半の個人全集と「作家」
19	ERDMANN, Mark Karl	ハーバード大学 博士課程	米国	東京大学	2009.08.09 ~ 2010.08.08	安土を解く：織田信長の城・都・イメージ
20	GOVELLA, Kristi Elaine	カリフォルニア大学バークレー校 博士課程	米国	東京大学	2010.09.30 ~ 2011.09.29	浸透力のある政策決定：多数国間連携と日本における環境分野の協力
21	GUEST, Jeniffer	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010.08.26 ~ 2011.08.25	漢文教育と近代以前の日本文学文化の基礎 (900～1250)
22	HAAG, Andre Robert	スタンフォード大学 博士課程	米国	立命館大学	2009.09.02 ~ 2010.09.01	大正文化と文学における不逞鮮人像
23	HEDBERG, William Christopher	ハーバード大学 博士課程	米国	東京大学	2011.01.11 ~ 2011.07.10	徳川時代の日本における白話文学の翻訳と受容
24	HEWITT, Robert Shannon	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2009.09.14 ~ 2010.09.13	幕末劇作の教訓癖及び検閲：狂言、馬琴及び歴史小説

米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
25	ICREVERZI, Kimberly	カリフォルニア大学アーバイン校 博士課程	米国	明治学院大学	2010. 09. 15 ~ 2011. 09. 14	佐藤政権時代(1964~1972)の政治的映画の行き詰まり：「本当の女性」問題
26	MAYO, Christopher Michael	プリンストン大学 博士課程	米国	関西大学	2010. 08. 30 ~ 2011. 08. 29	絆：戦国時代の大友氏による贈与と商品取引
27	McCLIMON, Sarah Jane	ハワイ大学 博士課程	米国	東京藝術大学	2009. 05. 16 ~ 2010. 05. 15	戦争と平和の軍歌：音楽、政治と記憶、1930から現代まで
28	MITCHELL, Arthur Moncrieffe	イエール大学 博士課程	米国	早稲田大学	2009. 09. 16 ~ 2010. 08. 24	日本に於けるモダニズム文学、近代性と言語的批評
29	MORISHIMA, Yuki	ピッツバーグ大学 博士課程	米国	東京大学	2010. 09. 03 ~ 2011. 06. 02	天皇の肖像：政治的儀式的慣習
30	NAKAGAWA, Ikuyo	ニューヨーク市立大学 博士課程	米国	世田谷美術館	2009. 09. 14 ~ 2010. 06. 13	「世界のフジタ」論考：藤田嗣治作品におけるナショナリズムとインターナショナリズム
31	NELSON, Linsay Rebecca	南カリフォルニア大学 博士課程	米国	筑波大学	2010. 08. 20 ~ 2011. 07. 19	日本文学及び映画におけるモンスターチルドレン
32	NOONAN, Patrick James	カリフォルニア大学バークレー校 博士課程	米国	明治学院大学	2009. 09. 29 ~ 2010. 09. 28	カウンターパブリックの創造：日本の1960年代における抵抗の美学と政治問題
33	RIO, Aaron Michael	コロンビア大学 博士課程	米国	東京大学	2010. 08. 01 ~ 2011. 07. 31	中世日本の禅画における漢詩と神聖な像
34	SAEKI, Eiko	ラトガース大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010. 09. 09 ~ 2011. 09. 08	曖昧な生命の境界：西洋医学と日本の地方の知識の結合
35	SAILE, Florian	カリフォルニア大学バークレー校 博士課程	米国	龍谷大学	2010. 09. 01 ~ 2011. 08. 31	成仏の可能性に関する議論—中世の法相論議における「五姓各別」の解釈の展開の研究
36	SCHIEDER, Chelsea Szendi	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010. 09. 04 ~ 2011. 09. 03	女性殉教者、革命派と魔性の女達：日本の新左翼におけるジェンダー、コミュニティ、暴力
37	TAKAI, Shiho	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010. 09. 26 ~ 2011. 09. 25	社会的垣根を越えて：江戸時代の人気舞台における犯罪と女性及び法
38	TIEDT, Andrew David	フォーダム大学 博士課程	米国	日本大学	2010. 06. 01 ~ 2010. 12. 31	高齢日本人のうつ病、社会的支援と孤独
39	TILTON, Ellen Cystal Boling	イエール大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010. 08. 05 ~ 2011. 08. 04	4人の戦後日本女性作家作品における家族と文学形式
40	VEKASI, Kristin E	ウィスコンシン大学マディソン校 博士課程	米国	東京大学	2010. 09. 02 ~ 2011. 09. 01	お役所仕事、米ドル紙幣：日中関係における政治紛争と経済論理
41	WALKER, Gavin	コーネル大学 博士課程	米国	一橋大学	2009. 09. 15 ~ 2010. 07. 15	分配経済：地域、時間、そして日本マルクス主義の危機、1922~1973



米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
42	YANG, Timothy Ming-Chih	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2009.09.20 ~ 2010.09.19	モダニティの科学：植民地期とポスト植民地期の台湾
43	YI, Christina	コロンビア大学 博士課程	米国	早稲田大学	2010.09.19 ~ 2011.09.18	強制的なコラボレーション：1930年代から80年代にかけての韓国人作家による日本語文学作品制作と受容
44	SILVA, Victor Hugo Martins Kebbe	サンパウロ・サン・カルロス州立大学 博士課程	ブラジル	静岡大学	2010.06.01 ~ 2011.05.31	出稼ぎ労働者の親族関係

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェロシップ (学者・研究者 短期) [米州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 18,390,687 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	COATES, Kenneth Stephen	ウォータールー大学文学部 学部長	カナダ		2010.12.11 ~ 2011.01.04	日本のデジタルメディアコンテンツ革命
2	COMMONS, Anne Elisabeth	アルバータ大学 准教授	カナダ		2010.10.19 ~ 2010.12.16	「俊頼髓脳」
3	HOLROYD, Carin Lee	ウォータールー大学 助教授	カナダ		2010.12.02 ~ 2011.01.04	日本におけるナショナル・イノベーションと環境テクノロジー
4	MEYER, Rudiger	ノバ・スコシア芸術工芸大学デザイン学部 助教授	カナダ		2010.06.07 ~ 2010.07.20	包装：文化的側面と環境保護に資するデザイン
5	ADAL, Raja	ハーバード大学 教授	米国		2010.06.30 ~ 2010.08.27	現代的審美感の出番：日本とエジプトの美術教育
6	CLARK, Scott	ローズ ハルマン工科大学 教授	米国		2010.09.09 ~ 2010.11.03	住宅建築の文化的社会的過程
7	GEWERTZ, Deborah	アマーフト大学 教授	米国		2010.08.30 ~ 2010.09.28	麺の歴史物語
8	IWASAKI, Shoichi	カリフォルニア大学ロサンゼルス校アジア言語文化学部 教授	米国		2010.06.21 ~ 2010.08.04	危機に瀕した琉球言語、池間の研究に対するナラティブ・アプローチ
9	KAWANA, Sari	マサチューセッツ大学ボストン校 助教授	米国		2010.05.26 ~ 2010.07.24	どこにでも行ける扉を通して：エデュテイメント、マンガ及び日本のビジュアル文学様式
10	KIETLINSKI, Robin	コロンビア大学 研究員	米国		2010.08.24 ~ 2010.09.23	昭和時代の女性スポーツ
11	LONG, Hoyt	バード大学 助教授	米国		2010.10.05 ~ 2010.11.04	人々を結びつける技術：日本語と文学文化における社会ネットワーク

米州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
12	McDANIEL, Susan A.	レスブリッジ大学 教授	米国		2011.01.01 ~ 2011.01.31	高齢化し変化しつつある日本における厚生資本主義と生産/保護の結びつき
13	OTA, Pauline Ayumi	デポー大学 助教授	米国		2010.06.16 ~ 2010.07.28	有益な交換：丸山応挙と三井家
14	SHIBATANI, Masayoshi	ライス大学 教授	米国		2010.07.01 ~ 2010.08.28	日本の方言文法の論理的解説
15	SUNG, Hou-mei	シンシナティ美術館 キュレーター	米国		2010.05.24 ~ 2010.07.17	三つの分野：シンシナティ美術館の日本絵画
16	TOMONARI Noboru	カールトン大学 准教授	米国		2010.07.22 ~ 2010.09.07	兄弟の絆：在日韓国人監督映画作品における男性らしさとアイデンティティ
17	MARTINEZ RODRIGUEZ, Mauricio	ロスアンデス大学言語社会文化学部 講師	コロンビア		2010.06.30 ~ 2010.07.31	スペイン語版ウェブ百科事典「日本芸能（北海道編）」
18	NINOMIYA, Masato	サンパウロ大学法学部 教授	ブラジル		2010.11.19 ~ 2011.01.16	民事および刑事における日伯間の司法共助について
19	OKANO, Michiko	サンパウロカトリック大学 研究員	ブラジル		2011.02.07 ~ 2011.03.10	多文化共生の街—日本における中国、韓国及びブラジル移民の街
20	TSUKAMOTO, Ruth Youko	ロンドリナ州立大学 准教授	ブラジル		2011.01.08 ~ 2011.02.27	日本における家族経営農家及び農業政策

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議 (主催) [米州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議、セミナー、ワークショップ等) を開催する。

合計額 4,020,072 円

	事業名	開催国	都市	会場	共催・協力機関	期間	事業内容
1	米国アジア研究学会 (AAS) ・アジア日本研究ラウンドテーブル	米国	ホノルル	ハワイ・コンベンション・センター	米国アジア研究学会 (AAS)	2011.03.30 ~ 2011.03.31	米国アジア研究学会 (AAS) の2011年次大会において「グローバルな観点から見たアジアの日本研究の現状と課題：アジアの時代における日本の位置づけ」ラウンドテーブルを実施。寺田貴教授 (早稲田大学アジア研究機構アジア研究所教授) をモデレーターとし、アジアのパネリスト4名 (タイ、フィリピン、ベトナム、インド) より各国事情のプレゼンテーションを実施
2	第2回日亜交流シンポジウム	アルゼンチン	ブエノス・アイレス	外交官学校	在アルゼンチン大使館	2011.03.29 ~ 2011.03.29	日本とアルゼンチン両国間の関係を学術・文化的視点・テーマから考察、議論するシンポジウムをブエノスアイレスで実施。日亜両国における自然観、日亜両国における現代美術の動向と社会におけるその受けとめ方等のテーマで議論

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (助成) [米州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議等) に対し、経費の一部を助成する。

合計額 13,710,033 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	日本専門家ワークショップ「現代日本の文化・社会へのアクセス」	韓国、オーストラリア、ニュージーランド、米国、スイス、ドイツ、ノルウェー、フランス	国際文化会館	2010.04.01 ~ 2011.03.31	海外の日本情報専門家や若手日本研究者が国境や職業の枠を超えて結びつき、多様な面での相乗効果を得られる国際相互理解を通して人的ネットワークを構築することを目的に、現代日本情報の探索、収集技術に関するワークショップを開催
2	研究プロジェクト「子どもの移動と教育ー戦前・戦中期ブラジル日系移民子弟教育と在日ブラジル人児童・生徒の教育の状況比較研究ー」	米国、ブラジル	早稲田大学移民・エスニック文化研究所	2010.04.01 ~ 2011.03.31	現在の金融危機がマイノリティである在日外国人の子どもたちの教育に負の影響を及ぼしつつある状態が、戦前のブラジル移民の子女教育において多くの言語的・文化的衝突を孕んでいた状態と類似することから、両者の実態を把握して共通点や相違点を見出し、子どもたちの移動と教育における問題点、解決策を模索。その成果を東京での国際会議の場で議論
3	「法と開発」をめぐる日本・ブラジルの対話 ~南米における「法と開発」の経験に関するグローバル・ガバナンスからの再検討~	ブラジル	名古屋大学	2010.05.01 ~ 2011.03.31	南米における「法と開発」の経験に関し、日本とブラジルの法学者がグローバル・ガバナンスの視点から検討する学術シンポジウムを日本で開催。南米を舞台として1960年代前後に行われたが十分な成果を上げなかった「法と開発」運動の再検討、最新の研究動向等を検討
4	カナダ・日本・韓国社会政策研究協力シンポジウム「成功社会に向けての政策イノベーション」	カナダ	トロント大学	2010.09.01 ~ 2010.11.30	カナダ・日本・韓国の3カ国の社会政策の研究者、政策立案者、研究機関や財団関係者などが会し、少子高齢化、人口多様化、家族問題、雇用と労働市場等に関し、カナダにおいてシンポジウム及び専門家によるワークショップを開催
5	リオデジャネイロ国際環境教育フォーラム	ブラジル	日伯文化協会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本及びブラジル国内の環境政策及び環境教育 (特に廃棄物関係) の専門家を招へいし、2016年オリンピック開催に向けてリオ市が解決すべき重要問題の一つである廃棄物問題についてブラジルで国際環境教育フォーラムを開催し、日本の環境教育・政策、社会システムを紹介
6	第8回国際日本研究学会及び第21回全伯日本語・日本文学・日本文化学会	ブラジル	ブラジリア大学	2010.04.01 ~ 2011.03.31	経済危機を踏まえ、アカデミズムの取りうる方法やオルタナティブな対処方法を提示することが問われている中で、日本研究のあり方等をどのように示すかを課題とし、「日本研究: 危機・挑戦・新パラダイム」のテーマの下、ブラジル、日本、米国、カナダの日本研究者が情報交換するとともに、研究成果を内外に向けて発信

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 人材育成 Grant [米州]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 750,000 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	日本カナダ学術コンソーシアムフォーラム	カナダ	明治大学	2011.02.21 ~ 2011.02.27	「日本カナダ学術コンソーシアム」に属する日加両国大学の学生及び若手研究者が「資源と貿易」をテーマに、ディスカッション、ワークショップ等の共同作業を通して、両国における課題を検証し、解決策を探る。また、学生同士の交流を深め両国社会や文化に触れる機会とし、相互理解を促進

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## アジア・大洋州交流事業費

### 1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔アジア・大洋州〕
- (2) 北京日本学研究センター派遣（北京外国語大学）
- (3) 北京日本学研究センター派遣（北京大学）
- (4) 北京日本学研究センター招へい（北京外国語大学）
- (5) 北京日本学研究センター招へい（北京大学）
- (6) 北京日本学研究センター研究支援（北京外国語大学）
- (7) 北京日本学研究センター研究支援（北京大学）
- (8) 日本研究機関支援〔アジア・大洋州〕
- (9) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔アジア・大洋州〕

### 2. 人物交流事業費

- (1) 受託事業（アセアン）
- (2) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 長期）〔アジア・大洋州〕
- (3) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔アジア・大洋州〕
- (4) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 短期）〔アジア・大洋州〕
- (5) 日本研究フェローシップ（高砂熱学工業）
- (6) 知的リーダー交流（招へい）〔アジア・大洋州〕

### 3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（助成）〔アジア・大洋州〕
- (2) 知的交流会議（企画参画助成）〔アジア・大洋州〕
- (3) 知的交流会議（主催）〔アジア・大洋州〕
- (4) 人材育成グラント〔アジア・大洋州〕

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化 (主催) [アジア・大洋州]

学問分野を超えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本人留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 12,561,590 円

	事業名	開催国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	東アジア日本研究フォーラム	韓国	済州	ホテルロッテ済州	韓国日本学会 (Korea Association of Japanology)	2010.12.04 ~ 2010.12.05	東アジアにおける日本研究のネットワークづくりを目指す韓国日本学会主催の「東アジア日本研究フォーラム」にあたり、記念講演実施のため上垣外(かみがいと)憲一(大手前大学教授)を派遣
2	北京日本学研究中心設立25周年国際シンポジウム	中国	北京	北京外国語大学		2010.09.01 ~ 2010.10.30	「世界の日本学研究の趨勢と協力」をテーマに国際シンポジウムと分科会、複数の論文コンテストを2日間(10.10.16~17)実施。海外における日本研究の内容や役割が大きく変化しつつある中、世界各地の日本研究の抱える様々な課題を討議し、今後の関係者間での連携、ネットワーク形成を促進。中国側から徐永吉(中国教育部国際合作与交流司長)や陳雨露(北京外国語大学学長)等、日本側から丹羽宇一郎(駐中国大使)、青木保(元文化庁長官)等の要人の出席のもと開催
3	日本研究セミナー	インドネシア  タイ	ジャカルタ  ジョクジャカルタ  バンコク  チェンマイ	インドネシア大学文学部講堂  ガジャマダ大学文学部講堂  タマサート大学教養学部  チェンマイ大学人文学部IT教室	インドネシア大学文学部  インドネシア日本研究学会  ガジャマダ大学文学部  タマサート大学教養学部(タープラチャン・キャンパス)  チェンマイ大学日本研究センター	2011.01.24 ~ 2011.02.02	平成21年度に、浜口美由紀(国際交流基金関西国際センター図書館専任司書)がインドネシアで日本研究専攻の大学院生を対象に行った「日本研究:大学院生のための基礎文献セミナー:文化・言語・文学編」が好評を得、同様のセミナー開催の要望が強いことから、本年度は、同司書が歴史及び社会科学分野の基本文献を紹介するセミナーを実施。インドネシア、タイの2カ国を巡回

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	開催国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
4	日本研究セミナー (フェロー・フォローアップ・セミナー)	インドネシア	ジャカルタ  スラバヤ	ジャカルタ日本文化センターホール  アイルランガ大学 人文学部講堂	アイルランガ大学 人文学部	2011.02.24 ~ 2011.03.02	平成20年度知的交流フェローシップ(招へい)プログラムで来日した、モフタル・パボットインギ(PABOTTINGI, Mochtar)を招き、日本研究フェローシップ事業のフォローアップの一環として開催する研究成果発表セミナーを開催。日本からも小熊英二(慶応義塾大学教授)を派遣し、「ナショナル・ユニティと民主主義」をテーマに講演を実施
5	日本研究セミナー	シンガポール  タイ	シンガポール  バンコク  バンコク	シンガポール国立大学  タマサート大学  チュラロンコン大学		2011.03.01 ~ 2011.03.06	山脇啓造(明治大学国際日本学部教授)をタイとシンガポールに派遣。チュラロンコン大学、タマサート大学、シンガポール大学の3カ所にて、学生、教員、専門家等を対象に、日本における外国人労働者を巡る諸問題と取り組みに関する講演を実施
6	日本研究セミナー	ベトナム   インド	ハノイ  フエ  ホーチミン  ニューデリー	ベトナム国家大学 附属人文社会科学 大学  フエ外国語大学  ホーチミン市人文 社会科学大学  ニューデリー日本 文化センター	ベトナム国家大学 附属人文社会科学 大学  フエ外国語大学  ホーチミン市人文 社会科学大学	2011.02.20 ~ 2011.03.01	平成21年度にインドネシアで『日本研究：大学院生のための基礎文献セミナー：文化・言語・文化編』を開催し好評を得た。本年度は同様のセミナー開催のニーズが高いインド、ベトナムの2カ国を栗田淳子(国際交流基金JFICライブラリー主任司書)が巡回し、日本研究分野の大学生に基礎文献を紹介するセミナーを開催
7	日本研究セミナー	マレーシア	クアラルンプール  ペナン  コタ・キナバル	マラヤ大学  マレーシア科学 大学  マレーシア サバ 大学		2011.03.13 ~ 2011.03.19	渡邊頼純(慶応義塾大学総合政策学部教授)による、国際政治経済論(FTA/EPA)に関する講義をマラヤ大学(クアラルンプール)、マレーシア科学大学(ペナン)、マレーシア サバ大学(コタ・キナバル)にて実施
8	日本研究セミナー	オーストラリア	キャンベラ  シドニー  ブリスベン	オーストラリア国立 大学  シドニー大学  クイーンズランド 大学	オーストラリア国立 大学  シドニー大学  クイーンズランド 大学	2011.01.01 ~ 2011.03.31	ロジャー・バルバース(劇作家/東京工業大学世界文明センター所長)及びエドワード・リップセット(通訳・翻訳家/株式会社インターカム社長)を派遣、アニメやマンガ、現代アートの分野に比べ、比較的なじみの薄い日本文学に親しみを持ってもらうことを目的として、日本文学の中でも「ファンタジー」(幻想文学、SF、怪奇小説)を取り上げ、その歴史や魅力を紹介。他国の文学と比べながら、そこに「日本的な想像力」というものが見出せるのか、あるとすれば、どのような特徴があるのかなどについて、パネルディスカッションを実施



アジア・大洋州交流事業費

	事業名	開催国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
9	日本研究セミナー	米国	ホノルル	ホノルル・コンベンション・センター	国立公文書館アジア歴史資料センター	2011.03.31 ~ 2011.04.03	米国アジア研究学会 (The Association for Asian Studies : AAS) の70周年記念総会にて国立公文書館アジア歴史資料センターが実施するパネルセッションに、濱下武志 (東京大学名誉教授)、赤木完爾 (慶應義塾大学法学部教授) 及び小谷賢 (防衛省防衛研究所戦史部主任研究官) の3名を講師として派遣
10	韓国における日本研究調査	韓国	-	-	世宗研究所日本研究センター	2011.02.15 ~ 2011.03.31	韓国における日本研究の現状を把握するため、日本研究機関・日本研究者に関する調査を実施
11	中国における日本研究調査結果の公開・刊行	中国	-	-	中華日本学会 南開大学日本研究院	2010.04.01 ~ 2010.08.30	平成21年度にデータベース化までを完了した中国における日本研究機関及び日本研究者に関する調査結果を、電子版ディレクトリー化してインターネット上で一般公開するとともに、各分野の専門家の執筆によるエッセイを加えた『中国的日本研究 (中国の日本研究)』を印刷・配布 ( <a href="http://www.jpfbj.cn/Rerearch05.asp">http://www.jpfbj.cn/Rerearch05.asp</a> )

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 北京日本学研究中心派遣 (北京外国語大学)

北京外国語大学で実施される現代日本研究講座に対し、専門家、行政官等有識者を派遣する。

合計額 32,217,889 円

	氏名	現職	期間	事業内容
1	竹内 信夫	東京大学名誉教授	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本側主任教授として、北京日本学研究中心の教育・研究活動及び運営方針の策定・実施にかかる助言を基金およびセンターに与えるとともに「日中文化比較」の講義を担当
2	畔上 和子	北京日本学研究中心日本側事務主任	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本側事務主任として、日本側主任教授、派遣教授を補佐するとともに、北京日本学研究中心内の日本側事務局の運営事務を担当
3	北村 明久	東北大学附属図書館事務部長	2010.04.19 ~ 2010.07.17 2010.08.27 ~ 2010.12.24 2011.02.21 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心図書資料館の運営に関する助言等を行う図書館専門家を派遣
4	加藤 弘之	神戸大学 教授	2010.05.10 ~ 2010.06.03	北京日本学研究中心において、経済コースの講義・学生指導を担当
5	豊島 正夫	東京外国語大学 教授	2010.05.17 ~ 2010.06.12	北京日本学研究中心において、文学コースの講義・学生指導を担当
6	佐々木 泰子	お茶の水女子大学 教授	2010.06.10 ~ 2010.06.30	北京日本学研究中心において、言語教育学コースの講義・学生指導を担当
7	別所 興一	愛知大学 教授	2010.06.16 ~ 2010.07.09	北京日本学研究中心において、文化コースの講義・学生指導を担当
8	田中 公明	(財) 東方研究会 研究員	2010.06.28 ~ 2010.07.03	「日中文化比較」の講義の一部を担当
9	川島 真	東京大学大学院 総合文化研究科	2010.08.31 ~ 2010.09.24	北京日本学研究中心において、社会コースの講義・学生指導を担当
10	小出 慶一	埼玉大学教養学部 教授	2010.09.12 ~ 2010.10.01	北京日本学研究中心において、言語教育学コースの講義・学生指導を担当
11	吉田 忠	東北大学 名誉教授	2010.10.12 ~ 2010.11.09	北京日本学研究中心において、文化コースの講義・学生指導を担当
12	川村 湊	法政大学国際文化学部教授	2010.11.01 ~ 2010.11.30	北京日本学研究中心において、文学コースの講義・学生指導を担当
13	花崗 誠	名古屋大学経済学研究科 准教授	2010.12.06 ~ 2010.12.30	北京日本学研究中心において、経済コースの講義・学生指導を担当
14	定延 利之	神戸大学大学院国際協力研究科 教授	2010.12.08 ~ 2011.01.06	北京日本学研究中心において、経済コースの講義・学生指導を担当
15	稲田 篤信	首都大学東京大学院人文科学研究科 教授	2011.03.03 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心において、日本文学コースの講義・学生指導を担当

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (3) 北京日本学研究中心派遣 (北京大学)

北京大学で実施される現代日本研究講座に対し、専門家、行政官等有識者を派遣する。

合計額 4,986,843 円

	氏名	現職	期間	事業内容
1	角南 篤	政策研究大学院大学 准教授	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本側主任教授として、日本側主任教授として、現代日本研究センターのコース運営等を担当
2	神長 善次	宇都宮大学国際学部 客員教授	2010.04.14 ~ 2010.04.17	北京大学現代日本研究センター博士第5期生に対する「日本文明とその国際比較」科目の講義
3	小林 三郎	一橋大学大学院国際企業戦略研究科 客員教授	2010.04.17 ~ 2010.04.21	北京大学現代日本研究センター博士第5期生に対する「未来価値創造論 (ホンダDNA: 挑戦・独創・革新の文化~本質的熟慮のススメ)」科目の講義及び講演「創造的な技術を生み出すホンダの企業文化」の実施
4	富本 幾文	政策研究大学院大学 特任教授	2010.04.25 ~ 2010.04.27	北京大学現代日本研究センター博士第5期生に対する「日本の政府開発援助 (ODA) と中国への期待」科目の講義
5	岡崎 健二	政策研究大学院大学 教授	2010.04.27 ~ 2010.04.29	北京大学現代日本研究センター博士第5期生に対する「日本の防災政策」科目の講義
6	原 洋之介	政策研究大学院大学 政策研究科 教授	2010.11.15 ~ 2010.11.18	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「農業と経済発展 日本の経験」科目の講義
7	岡崎 健二	政策研究大学院大学 教授	2010.12.06 ~ 2010.12.09	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「災害リスク・マネジメント」科目の講義
8	吉野 直行	慶應義塾大学 経済学部 教授	2010.12.29 ~ 2010.12.31	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「財政金融政策 (日本と中国との比較)」科目の講義
9	鈴木 賢	北海道大学 法学研究科 教授	2011.03.06 ~ 2011.03.09	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「日本の法制度—日中比較の観点から」科目の講義
10	道下 徳成	政策研究大学院大学 准教授	2011.03.10 ~ 2011.03.12	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「日本の外交・安全保障政策」科目での講義
11	堀江 正弘	政策研究大学院大学 教授	2011.03.14 ~ 2011.03.17	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「日本における国・地方関係と地方自治」科目の講義
12	樋原 伸彦	立命館大学経営学部 准教授	2011.03.22 ~ 2011.03.26	北京大学現代日本研究センター博士第6期生に対する「ベンチャー企業経営とベンチャーのためのEco-System 創出」科目の講義

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (4) 北京日本学研究中心招へい (北京外国語大学)

北京外国語大学で実施される北京日本学研究中心事業に関し、日本研究者の招へいを行う。

合計額 26,019,087 円

	事業名	氏名	現職	人数	受入機関	期間	事業内容
1	フェローシップ (博士9期)	王 雪 (WANG, Xue)	北京日本学研究中心 博士課程	1	東京大学 大学院 総合文化研究科	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心博士課程の学生に対し 博士論文執筆のための訪日研究フェローシップ を供与
2	フェローシップ (博士9期)	黄 毅燕 (HUANG, Yiyao)	北京日本学研究中心 博士課程	1	関西学院大学大学 院 言語コミュニ ケーション文化研 究科	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心博士課程の学生に対し 博士論文執筆のための訪日研究フェローシップ を供与
3	訪日研究 (修士24 期生) 招へい	—	北京日本学研究中心 修士課程	20		2010.03.30 ~ 2010.08.03	北京日本学研究中心の修士課程学生に訪日 研究の機会を提供。日本各地の大学・研究機関 等の教授・研究者が受入教官となり、修士論文 の草稿作成・資料収集を指導
4	訪日研究 (修士25 期生) 招へい	—	北京日本学研究中心 修士課程	20		2011.03.30 ~ 2011.08.02	北京日本学研究中心の修士課程学生に訪日 研究の機会を提供。日本各地の大学・研究機関 等の教授・研究者が受入教官となり、修士論文 の草稿作成・資料収集を指導

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (5) 北京日本学研究中心招へい (北京大学)

北京大学で実施される北京日本学研究中心事業に関し、日本研究者の招へいを行う。

合計額 10,250,438 円

	事業名	人数	期間	事業内容
1	博士第5期訪日研修招へい	23	2010.05.13 ~ 2010.05.27	北京大学現代日本研究センターの講座受講生 (第5期博士課程20名、その他随行3名) に対して、北京で受けた講義の定着を目的に訪日研修を実施
2	博士第6期訪日研修 (招へい準備)			北京大学現代日本研究センターの講座受講生 (第6期博士課程20名、その他随行3名) に対して、北京で受けた講義の定着を目的に実施する訪日研修の準備

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (6) 北京日本学研究中心研究支援 (北京外国語大学)

北京外国語大学北京日本学研究中心の日本研究者育成を支援する。

合計額 13,192,645 円

	事業名	期間	事業内容
1	現地経費 (教育・研究)	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心が実施する紀要「日本学研究」ほか日本研究図書の出版、研究プロジェクト及び同センター教授による地方講演にかかる経費等の支援
2	教材等購送	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心に対し講義用教材、図書館資料を購送
3	文献複写	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心図書資料館が日本国内の図書館に対して文献複写依頼を行う経費を支援
4	図書館システム	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心図書資料館で使用中の図書館情報システムにかかるソフトウェア保守費を支援
5	ネットワーク支援	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京日本学研究中心設立25周年記念国際シンポジウム「世界における日本研究の趨勢と連携一次世代研究者への継承」(10.10.16~17)に関する実施経費の一部を負担

1. 日本研究事業費 / (7) 北京日本学研究中心研究支援 (北京大学)

北京大学北京日本学研究中心の日本研究者育成を支援する。

合計額 345,644 円

	事業名	期間	事業内容
1	教材等購送	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北京大学現代日本研究センターに対し講義用教材、図書館資料を購送

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (8) 日本研究機関支援 [アジア・大洋州]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、当該国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 89,427,118 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	高麗大学校	韓国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	研究・会議助成。日本研究の分野における日中韓3カ国の専門家や若手研究者を集め、東アジア国家間の交流と各国間の相互認識について多角的に議論する公開討論(2010.05)。東アジア共同体における日本研究の学問的な客観性を確保し、各国の文化ナショナリズムを警戒しつつアカデミズムによる東アジアの未来関係の構築を目指す
2	国民大学校	韓国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	図書拡充支援として、政治学・政治史学分野を中心に近現代の日本に関する基礎資料を購送。図書出版助成として、各大学への教材としての導入を期待する基本図書「日本国内政治基本書」シリーズの第2弾(『日本の市民社会』『日本と東アジア』)を刊行
3	全南大学校	韓国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	研究・会議助成として、国際シンポジウム「他者から見た日韓関係」を開催(2010.10)。図書拡充支援として、明治～大正期の朝日新聞の復刻版セット等を購送
4	ソウル大学校	韓国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	会議助成により、日本専門家招へいセミナー(日本関連の学者、言論人、文化人などを招へいし、日本理解を深めるセミナー)、大学院生現地資料調査(大学院生の訪日調査研修事業)、教授引率日本現地研修の3種の事業を実施。図書拡充支援により、サブカルチャー関連の書籍、社会学、文学に関する単行本及び全集と、雑誌などを寄贈
5	翰林大学校	韓国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	図書拡充支援により、日本学データベース及び近代日本思想史関連の図書を中心に基礎資料を寄贈
6	四川外語学院	中国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	会議助成により、講習会「日本学の方法論とその実践～日本研究の視点と姿勢を中心に～」を実施。図書拡充支援により、黄瀛とその交友関係、『銅鑼』同人の関係資料及び日中交流史、日本外交史、日本学研究に関する本、また一部の作家論など計37冊を寄贈。出版助成により、『詩人黄瀛～詩歌編・研究編』、『宮沢賢治と中国』、『「中国西南地域から考える日本～中国西南地域と日本学の可能性～」国際シンポジウム論文集』を出版
7	浙江工商大学日本語言文化学院	中国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	シンポジウム「漢字文化溯源-文字から書籍へ」及び「奈良時代と隋唐文明」に対する支援及び学術書2件の出版を支援。さらに、中国社会科学院日本研究所との共催で、若手研究者向けの「日本歴史文化」高級研修班事業にも協力
8	天津社会科学院	中国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	故・渡辺健(元・外務省職員)遺族より託された寄付金の運用益を活用し、日本研究関連図書を寄贈(渡辺健基金事業)
9	東北師範大学	中国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	学術誌『外国問題研究』及び学術書2件の出版を支援するとともに、教員、大学院生の訪日研修を実施
10	南開大学	中国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	客員教授2名を派遣するとともに、シンポジウム「日米欧文化外交」「『東アジアモデル』と地域発展」の開催を支援。図書拡充支援を行うとともに、機関誌、学術書の出版と研修事業への支援を実施

アジア・大洋州交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
11	復旦大学日本研究センター	中国	2010.04.01～2011.03.31	客員教授派遣により、伊藤正直（東京大学教授）が国際金融危機の歴史的位相をテーマに集中講義を実施。会議助成により、復旦大学日本研究センター設立20周年記念国際シンポジウム「東アジア共同体の構築における中日の競争と協力」を実施。図書拡充支援により、経済・政治に関連する図書300冊相当を寄贈。出版助成により、「復旦大学日本研究センター設立20周年記念文集」を出版
12	遼寧大学	中国	2010.04.01～2011.03.31	図書拡充として、日本研究関係の基本図書・研究文献を送付
13	国立政治大学	台湾	2011.03.01～2011.03.31	図書拡充として、日本研究関係の基本図書・研究文献を送付
14	インドネシア大学大学院日本地域研究科	インドネシア	2010.04.01～2011.03.31	日本研究客員教授派遣（直接派遣）、日本研究客員教授派遣（経費助成）、日文研・インドネシア大学大学院日本地域研究科国際シンポジウム（日本研究リサーチ・会議（助成））、修士課程運営支援、により包括的に支援を実施
15	シンガポール国立大学	シンガポール	2010.04.01～2011.03.31	現代の東南アジア諸国における日本文化の役割について講義を実施するために日本から専門家を派遣するほか、同テーマによる日本文献研究、訪日プロジェクト、大学院生研究を支援
16	タマサート大学	タイ	2010.04.01～2011.03.31	修士課程の学生6名を対象とした約2週間の訪日研修事業、日本研究科の学生を対象とした講義の講師謝金、図書寄贈を支援
17	チュラロンコン大学文学部	タイ	2010.04.01～2011.03.31	修士課程の学生に対して講義を行うための日本人専門家派遣、タイを中心にアジア各国から15名の発表者が参加し、日本語、日本文化、日本文学の3つの分科会からなる国際日本研究会議、修士課程の学生3名を対象とした約2週間の訪日研修の3プログラムを支援
18	アテネオ・デ・マニラ大学	フィリピン	2010.04.01～2011.03.31	国際会議「食と日本の現在」と図書寄贈を支援
19	デ・ラサール大学国際研究学科	フィリピン	2010.04.01～2011.03.31	国際研究学科日本研究プログラムの学部・修士課程の学生に対して講義を行うための日本人専門家派遣と、国際会議「民主党政権下の日本：政権交代と東アジアに与える影響」への助成を実施
20	フィリピン大学アジアセンター	フィリピン	2010.10.01～2011.03.31	政治、経済、社会、芸術分野の書籍を中心に図書を送付
21	ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学-東洋学部日文学科	ベトナム	2010.04.01～2011.03.31	会議助成により、日本の近現代及び記憶という観点から日本社会を考えるとというテーマのもと「日本学集中講座」を実施。出版助成により、平成21年度から支援の日本研究論文集シリーズ第2巻『法制史』を編集・出版
22	貿易大学	ベトナム	2010.04.01～2011.03.31	客員教授派遣により、高橋由明（経営学：中央大学教授）を約3週間派遣。「企業経営の国際化」をテーマに日本の企業経営・経営学の発展についての集中講義と講演を実施。ハノイとホーチミンの貿易大学での講義・講演を行うほか、中部の経済中心都市ダナンでも講演
23	ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学	ベトナム	2010.04.01～2011.03.31	客員教授派遣により、島善高（早稲田大学教授）が日本近代史、法制史をテーマに集中講義を実施。会議助成により、日本とメコン川流域の歴史的関係、新政策、日本の果たす役割を分析・展望するシンポジウム「日本とメコン川地域－歴史的かかわり」を実施。図書拡充支援により、日本関連図書、特に歴史・国際関係・経済・文学・日本ベトナム関係などの分野に関する図書を送付



アジア・大洋州交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
24	マラヤ大学人文社会学部東アジア研究 学科日本研究プログラム	マレーシア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	石井由香（立命館アジア太平洋大学教授）を客員教授として派遣（10.07.01～09.28） したほか、4件の研究・会議に対して助成
25	ジャワハルラル・ネルー大学	インド	2010.04.01 ~ 2011.03.31	北條賢三（大正大学名誉教授）を客員教授として派遣（11.01.11～03.04）した他、 英文の日本研究図書を寄贈
26	デリー大学東アジア研究科	インド	2010.04.01 ~ 2011.03.31	伊勢崎賢治（東京外国語大学教授）を客員教授として派遣（10.08.01～10.03）した ほか、図書拡充支援を実施
27	オーストラリア国立大学	オーストラリア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	大学院生・学生向けのワークショップ「アジア・パシフィックウィーク2011」への支 援、日本研究に関する電子出版支援、日本研究者のディレクトリー調査支援を通じた 包括的な支援を実施

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (9) 日本研究ネットワーク強化 (助成) [アジア・大洋州]

国境・学問分野を超えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 23,672,017 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	韓国日本文化学会 (The Japanese Culture Association of Korea)	韓国	2010.04.01 ~ 2010.07.03	韓国の主要な日本研究学術団体が年1回共催する国際学術大会。平成22年度は、「日韓関係100年、過去・現在・未来」というテーマで南ソウル大学校で開催
2	韓国日本学会 (Korea Association of Japanology)	韓国	2010.12.04 ~ 2010.12.05	東アジア共同体形成のための共通価値や理念について日・中・韓の研究者が討論する国際フォーラム。済州島で開催
3	インドネシア日本研究学会	インドネシア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	1990年に設立された同学会は、インドネシアにおける唯一の日本研究学会であり、国際シンポジウムの開催や地方での一般向けレクチャー実施、ウェブサイト運営、ジャーナル発行に係る活動経費の一部を支援
4	タイ国日本研究ネットワーク	タイ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	タイの主要大学の若手・中堅の日本研究者が中心となり2007年5月に設立された全国的ネットワークが実施する事業。年次総会 (学会併催) をチェンマイ大学で開催 (2010.10) したほか、日本に関する研究発表の場を提供すべく、22年度より新たにアカデミック・ジャーナルの企画を開始。また、タイ学術研究基金 (TRF) との協力で、メコン諸国から日本研究者を年次総会に招へいた
5	《元日本留学生会》 インドネシア元留学生協会 (PERSADA)	インドネシア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するインドネシアの元日本留学生協会の活動を支援
6	《元日本留学生会》 カンボジア元日本留学生同窓会 (JAC)	カンボジア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するカンボジアの元日本留学生協会の活動を支援
7	《元日本留学生会》 シンガポール元日本大学卒業生協会 (JUGAS)	シンガポール	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するシンガポールの元日本留学生協会の活動を支援
8	《元日本留学生会》 タイ国元日本留学生協会 (OJSAT)	タイ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するタイの元日本留学生協会の活動を支援
9	《元日本留学生会》 元日本留学生フィリピン連盟 (PHILFEJA)	フィリピン	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するフィリピンの元日本留学生協会の活動を支援
10	《元日本留学生会》 ベトナム元日本留学生会 (JAV)	ベトナム	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するベトナムの元日本留学生協会の活動を支援
11	《元日本留学生会》 東方政策元留学生同窓会 (ALEPS)	マレーシア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	マレーシアの「東方政策」により日本へ留学した後、帰国した元留学生が組織する同窓会の活動を支援
12	《元日本留学生会》 マレーシア元留日学生協会 (JAGAM)	マレーシア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会) に加盟するマレーシアの元日本留学生協会の活動を支援

アジア・大洋州交流事業費

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
13	《元日本留学生会》 ミャンマー日本留学者協会 (MAJA)	ミャンマー	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ASEAN各国の元日本留学生同士の交流を目的として設立されたASCOJA (ASEAN元日本留学生評議会)に加盟するミャンマーの元日本留学生協会の活動を支援

2. 人物交流事業費 / (1) 受託事業 (アセアン)

日本研究・知的交流分野での国際交流基金の業務趣旨に合致する事業を外部から受託し実施する。

合計額 65,461,952 円

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
1	JENESYS Programme 次世代リーダー招 へいプログラム グループ G	CHA, Boyoung  YAN, Mingdan  SAPUTRO, Muhammad Endy  SIM, Satta  KAN, Shuyi  SRISUPAN, Pinwadee  BANAAG, Leoncio Anilao  MARALI, Ak Fairol Rezal Malek Faesal Pg Hj  JAKA, Inra  HO, Sheau Fung	Intangible Cultural Heritage Centre for Asia & the Pacific  Department of Cr- eative Industry, Zhengdon Group  Graduate School, Gadjah Mada University  Ministry of Culture and Fine Arts  Asian Civilisa- tions Museum, National Heritage Board  Ubon Ratchathani University  National Commis- sion for Culture and the Arts  Brunei Press  Association of Anthropology in Hochiminh City Cham subbranch  Programme Officer, Penang Heritage Trust (Local NGO)	韓国  中国  インドネシア  カンボジア  シンガポール  タイ  フィリピン  ブルネイ  ベトナム  マレーシア	2010. 04. 01 ~ 2010. 04. 13	「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表 (15カ国、15名を招へい。日本人参加者2名)。テーマは「文化の多様性の再認識：アジア・オセアニア地域の可能性」。2011年1月に英文報告書 <i>Re-Acknowledging Cultural Diversity: Roles and Possibilities in the Asia and Oceania Region</i> を発行

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
		EI, Min Tun	National University of Arts and Culture	ミャンマー		
		KINGSADA, Somkiethtisack	Ministry of Information and Culture	ラオス		
		PRUTHI, Kanika	Jawaharlal Nehru University	インド		
		BENNETTS-KNEEBONE, Laura Jane	Research Officer, Department of Families, Housing, Community Services and Indigenous Affairs	オーストラリア		
		WAITI, Jordan Aramoana	Research Centre for Maori Health and Development	ニュージーランド		
2	JENESYS Programme 次世代リーダー招 へいプログラム グループ H	KIM, Young-Bin	大韓赤十字社京畿 道支社 幹事	韓国	2010.06.21 ~ 2010.07.02	「21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Programme）」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。（14カ国、19名を招へい。日本人参加者1名）テーマは「防災と人々のつながり：災害に強い社会の構築を目指して」。2011年1月に英文報告書 <i>Disaster Prevention and People: Working Towards the Creation of a Strong Society</i> を発行
		PARK, Sang-Hyun	韓国国立防災研究所 工業研究士	韓国		
		ZAO, Xu	Shining Stone Community Action	中国		
		AMRI, Avianto	プラン・インターナショナル・インドネシア 緊急対策マネージャー	インドネシア		
		ANSHARYANI, Ida	サマワ大学 講師	インドネシア		
		YIN, Sopheaktra Bun	カンボジア赤十字災害リスク軽減マネージャー	カンボジア		
		SANLEE, Dawan	アンダマン救済ネットワーク基金 (SAN)	タイ		
		ABON, Catherine Cristobal	フィリピン大学 国立地学研究所	フィリピン		

アジア・大洋州交流事業費

事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
	ABUDUL SAMAT, Mas Diana Binti	サイディナオスマン学校	ブルネイ		
	PG HAJIA MUHAMMAD, DK Siti Ummikalthum	ブルネイ教育省	ブルネイ		
	NGUYEN, Ninh Trong	プラン・インターナショナルベトナム事務局	ベトナム		
	LIM, Choun Sian	東南アジア災害防止研究所	マレーシア		
	MOE MYINT, Tay Zar	国連開発計画	ミャンマー		
	DOUANGPHACHONE, Khounkham	Own Village Association	ラオス		
	PRASAD, Manish	地域経済・発展相談センター	インド		
	SHARMA, Prerna	地域経済・発展相談センター	インド		
	BRACEY, Heath Owen	タスマニア消防庁	オーストラリア		
	CLANCY, Jennifer Kate	オーストラリア国際開発局	オーストラリア		
	COSTLEY, Nichola Ann	ニュージーランドウエストコースト地区区役所	ニュージーランド		

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
3	JENESYS Programme 次世代リーダー招 へいプログラム グループ I	RENDRA, Kurnia Hasan	環境省	インドネシア	2010. 09. 12 ~ 2010. 09. 18	「21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Programme）」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。（8カ国、14名を招へい。日本人参加者1名）テーマは「アジアの気候変動対策：日常生活や社会・経済構造の見直し」。2011年3月に英文報告書 <i>Climate Change Measure in Asia: A Review of Daily Life and Social/Economic Structure</i> を発行
		SABITAH, Irwani	環境省	インドネシア		
		CHANTHEARITH, Ou	環境省気候変動局	カンボジア		
		LEANG, Sophal	環境省気候変動局	カンボジア		
		YEO, Daryl	貿易産業省	シンガポール		
		KANANURAK, Jakkanit	タイ温室ガス対策 団体	タイ		
		SAIYASITPANICH, Phirun	天然資源環境政策 局	タイ		
		SALUDO, Jonas Paolo Magsino	フィリピン大統領 官邸気候変動委員 会	フィリピン		
		DANG, Phuong Loan	資源・環境省国際 協力部	ベトナム		
		DO, Hoang Viet	資源・環境省国際 協力部	ベトナム		
		MAUNG, Hlaing Min	森林省国土環境委 員会	ミャンマー		
		SHWE Cin Mya Htun	外務省経済局国際 機関経済課	ミャンマー		
		BUIHAVONG, Thounheuang	水資源環境行政局	ラオス		
		SOMBATHDOUANG, Vilayphone	水資源環境行政局	ラオス		

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
4	JENESYS Programme 次世代リーダー招 へいプログラム グループ J	JEON, Inseung  AGEUNG, Ivan Valentina  HOUT, Huy  LEONG, Chua Swee  SUPITAX, Kanokphun  MEDINA, Ilagan Karol Anne  VILLANUEVA, Charmaine Quintua  AMPUAN HAJI RAZID, Ampuan Noorirawati  MOHD SARIF, Hassan  TUN, Zaw Lin  WIN, Aye Nandar  XAIYASARN, Ketsana	韓国消防防災庁  インドネシア防災 協会 防災に関す る法律と政策マ ネージャー  カンボジア・ミン チェイ地区行政事 務所 総務財務局 チーフ  シンガポール市民 協会  NGO RRAFA財団 プ ログラム・オフィ サー (Foundation for Reclaiming Rural Agriculture and Food Sovereignty Action)  フィリピン調査報 道センター (PCIJ)  フィリピン科学技 術省  ブルネイ・テンプ ロン地区行政事務 所 総合統括行政 官  マレーシア国家安 全会議  ミャンマー社会福 祉救済復興省救済 復興局  ミャンマー社会福 祉救済復興省救済 復興局  ラオス水資源環境 庁	韓国  インドネシア  カンボジア  シンガポール  タイ  フィリピン  フィリピン  ブルネイ  マレーシア  ミャンマー  ミャンマー  ラオス	2011.01.20 ~ 2011.01.31	「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら、文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。(13カ国、16名を招へい。日本人参加者1名) テーマは「防災と人々のつながり：災害に強い社会の構築を目指して」。2011年7月に英文報告書 <i>Disaster Prevention and People: Working Toward the Creation of a Strong Society</i> を発行



アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
		VYAS, Nikhilkumar Rameshchandra	クルタ (CRUTA) 財団 (Foundation for Conservation and Research of Urban Traditional Architecture)	インド		
		FITZGERALD, Kate	オーストラリア司 法省 アシスタ ント・ディレクター	オーストラリア		
		SCHELL, Patrick Joseph	オーストラリア・ ニューサウス ウェールズ州地方 消防局	オーストラリア		
		WILSON, Thomas McDonald	カンタベリー大学	ニュージーランド		
5	JENESYS Programme 東アジア大学院生 日本研究特別招へ いプログラム (第3 年次)	HESTI, Nurhayati	インドネシア大学 大学院日本地域研 究科	インドネシア	2010. 07. 21 ~ 2010. 09. 03	「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。東アジア首脳会議 (EAS) 参加国地域で日本研究 (東アジア研究を含む) を専攻中で、今後の活躍が期待される大学院生に対し、日本の大学院・研究機関等で研究・調査活動を行う機会を提供 (9カ国、14名)
		SAFITRI, Meinard Maya	インドネシア大学 大学院日本地域研 究科	インドネシア		
		MODERN, Chem	王立ブノンペン大 学大学院	カンボジア		
		HEEBKAEW, Saowalak	タマサート大学大 学院日本研究科	タイ		
		MORENO, Luna Carla	デ・ラ・サール大 学日本研究プログ ラム大学院	フィリピン		
		NGO, Tra Mi	ホーチミン国家大 学人文社会科学大 学大学院	ベトナム		
		VU, Luan Duong	ハノイ国家大学ベ トナム研究開発科 学研究所大学院	ベトナム		
		HUSSIN, Mohd Tramizi	マレーシア科学大 学 助手/博士課 程	マレーシア		

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
		Hnin Nwe Nwe Aung	ヤンゴン大学国際関係学部大学院	ミャンマー		
		Hnin Shwe Yi	ヤンゴン大学国際関係学部大学院	ミャンマー		
		TIN, Moe Hlaing	ヤンゴン大学国際関係学部大学院	ミャンマー		
		RAY, Sudeshna	デリー大学東アジア研究科修士課程	インド		
		THAMBI, Simi	デリー大学東アジア研究科修士課程	インド		
		VINK, Thomas Luke	ビクトリア大学ウェリントン校大学院	ニュージーランド		
6	JENESYS Programme 次世代リーダー事業 フォローアップ・プログラム	INOUE, Naomi KANEKO, Yukiko TAKAHASHI, Akiko YOSHIMASU, Miho ARSUKA, Nirwan Suprianto SENG, Hun LIM, Joe SUKPONG, Petchrung ALIPPIO, Arthur Joseph Paul FONBUENA, Carmela JOSE, Jerry LIOSAS, Racquel MANGANSAKAN, Teng		日本 日本 日本 日本 インドネシア インドネシア カンボジア シンガポール シンガポール フィリピン フィリピン フィリピン フィリピン フィリピン	2010.06.12 ~ 2010.06.17	JENESYS次世代リーダー招へい事業の総括として、各国の次世代リーダーの連携を通じた東アジアコミュニティの強化を目的に、フィリピン・マニラ首都圏において、フォローアップ事業『JENESYS新しい始まり：東アジアコミュニティの推進—共通の未来を構築する若手リーダーの役割』を実施。過去の次世代リーダー招へい事業の参加者有志がフィリピンに集まり、事業参加によって得た経験の活用方法について情報を共有。またリーダーシップスキルを向上するためのワークショップやスタディーツアーへの参加を通じて、「アジアの強固な連携」を構築するための相互理解や連携の促進を目指した。プローブメディア財団(Probe Media Foundation, Inc)と共催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
		RAYMUNDO, Sarah Jane		フィリピン		
		RIMANDO Minette		フィリピン		
		TANG, Yasmin		フィリピン		
		ZAPANTA-BABATE, Maria Silvana		フィリピン		
		ABDUL RAHMAN, Umi A' Zuhrah		マレーシア		
		JOHARI, Sofia		マレーシア		
		SAIMY, Intan Sazrina		マレーシア		
		KYAW, Thiha		ミャンマー		
		NANDI, Htwe Tra		ミャンマー		
		TUN, Maw Maw		ミャンマー		
		BOUAHOM, Bounthanom		ラオス		
		MAKAN, Shikha		インド		
		SURI, Simar		インド		
7	JENESYS Programme次世代リーダー招へいプログラムグループF（報告書作成等）				2010.04.01 ～ 2010.07.31	「21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Programme）」の一環として、平成21年度に実施した、JENESYS Programme次世代リーダー招へいプログラム・グループF（テーマ「アジア・オセアニア地域の青年が担う包括的平和構築：文化、教育の可能性」：2010.03.02～15）の実施及び英文報告書 <i>Comprehensive Peacebuilding Initiatives of young leaders in Asia and Oceania: The Potentials of Culture and Education</i> の作成・配布にかかる経費
8	JENESYS次世代リーダー招へいプログラムグループK（実施準備）				2010.11.01 ～ 2011.03.31	2011年5月に実施予定のJENESYS Programme次世代リーダー招へいプログラム・グループK（テーマ「エネルギー安全保障」）の参加者招へい準備

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (学者・研究者 長期) [アジア・大洋州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 132,725,765 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	崔 祐溶 (CHOI, Woo Yong)	東亜大学校 副教授	韓国	九州大学大学院	2010.03.26 ~ 2011.02.28	地方分権の進展下における住民訴訟制度の展開に関する研究
2	全 在晟 (CHUN, Chaesung)	ソウル大学校外交学科 教授	韓国	慶応大学法学部	2010.09.01 ~ 2011.07.31	北東アジアの国際関係の理論化と日韓関係
3	田 英洙 (JEON, Young Soo)	漢陽大学校国際大学院助 教授	韓国	慶応義塾大学経済学部	2010.02.26 ~ 2011.02.25	雇用延長と老人福祉に関する研究：老後所得を中心に
4	鄭 炳浩 (JUNG, Byeong-Ho)	高麗大学校日語日文学科 副教授	韓国	立命館大学文学部	2011.02.26 ~ 2012.02.25	近代初期 (1890~1920) 韓国における日本語文学の形成過程研究—韓国居留日本人社会の日本語新聞・雑誌を通して
5	康 根亨 (KANG, Kun-Hyung)	国立済州大学校政治外交 学科 教授	韓国	慶応義塾大学法学部	2010.08.30 ~ 2011.08.29	鳩山由紀夫政権の対外政策と米日関係
6	金 基正 (KIM, Ki-Jung)	延世大学校 教授	韓国	慶応義塾大学法学部政治 学科	2010.09.20 ~ 2011.05.19	韓日文化的対話の東北亜地域秩序形成における意味
7	金 相助 (KIM, Sang Jo)	国立済州大学校 教授	韓国	天理大学国際文化学部	2009.09.02 ~ 2010.09.01	朝鮮通信使と日本接待使の相手に対する理解の比較研究
8	金 裕殷 (KIM, Youen)	漢陽大学校国際大学院 准 教授	韓国	早稲田大学アジア太平洋 研究センター	2009.08.05 ~ 2010.08.04	北東アジアにおける多国間安全保障組織設立のための日韓協力について
9	金 永鍾 (KIM, Young Jong)	慶星大学校社会福祉学科 教授	韓国	日本福祉大学社会福祉学 部	2010.07.09 ~ 2011.01.08	日本と韓国における地域福祉推進の運営体系に関する比較研究
10	具 度完 (KU, Do Wan)	環境社会研究所 所長	韓国	東北大学大学院文学研究 科	2010.05.10 ~ 2011.05.09	日本と韓国の環境運動比較研究：気候変動問題を中心に
11	李 啓煌 (LEE, Gye-Whang)	仁荷大学校 教授	韓国	京都大学文学部	2010.07.12 ~ 2011.02.11	日本近世史における主なテーマに関する学説・研究史
12	李 明姫 (LEE, Myung Hee)	新羅大学校 教授	韓国	学習院大学文学部日本語 日本文学科	2010.02.17 ~ 2011.02.16	日本語レベル別読解技術指導に関する研究
13	李 昇柱 (LEE, Seungjoo)	韓国中央大学校政治外交 学科 副教授	韓国	慶応義塾大学法学部政治 学科	2011.02.01 ~ 2012.01.31	断片化した東アジア地域主義の国内起源：日本と韓国の比較研究
14	閔 炳杰 (MIN, Byung-Geol)	ソウル女子大学デザイン 学部 助教授	韓国	武蔵野美術大学	2009.07.15 ~ 2010.07.14	浮世絵の伝統を継承した日本のグラフィックデザインに関する考察

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	朴 天秀 (Park, Cheun Soo)	慶北大学校人文大学考古 人類学科教授	韓国	大阪大学大学院 文学研 究科	2011.03.01 ~ 2012.02.29	考古学から見た新羅と倭の 関係に新たな照明を当てる
16	庾喆仁 (Yoo, Chul-In)	済州大学校 教授	韓国	東北大学大学院教育学研 究学科	2010.08.31 ~ 2011.08.30	日本の東北地方における 外国人配偶者
17	白 智立 (BAI, Zhi Li)	北京大学政府管理学院 副 教授／副院长	中国	京都大学大学院法学研 究科	2010.09.29 ~ 2011.03.28	国家統治における日本の 政治的官僚の行動とその 法制化問題の研究—比較 行政論的アプローチから
18	陳 喜儒 (CHEN, Xiru)	中国作家協会作家、翻 訳家	中国	慶応大学	2009.10.11 ~ 2010.04.10	野間宏研究
19	陳 秀武 (CHEN, Xiuwu)	東北師範大学日本研 究所 助教授	中国		2009.10.11 ~ 2010.04.10	坂本龍馬の国家意識 について
20	淳干 淼洽 (CHUNYU, Miaoling)	西南政法大学政治と公 共事務学院 教授	中国	日本政治総合研 究所	2009.09.03 ~ 2010.09.02	日本における公共サー ビス改革についての研 究とその中国への示唆
21	杜 穎 (DU, Ying)	黒龍江省社会科学院 副 研究員／副主任	中国	北海道大学大学院文学 研究科	2010.09.27 ~ 2011.09.26	黒龍江省における残留 日本人孤児と養父母関 係問題研究について— 帰国後の肉親関係を中 心に
22	郭 冬梅 (GUO, Dongmei)	東北師範大学日本研 究所 助教授	中国	慶應義塾大学総合政策 学部	2009.07.05 ~ 2010.07.04	モッセの日本地方自治 観
23	郭 美松 (GUO, Mei Song)	西南政法大学 副教授	中国	京都大学	2010.09.22 ~ 2011.09.21	人事訴訟手続における 比較研究
24	金 香海 (JIN, Xianghai)	延辺大学人文社会科学 学院 教授	中国	大阪産業大学経済学 部	2010.09.01 ~ 2011.08.31	中朝経済関係の進展に 対する日本の政策研 究
25	井 志忠 (JING, Zhizong)	東北師範大学日本研 究所	中国	日本大学	2010.07.04 ~ 2011.07.03	日本のエネルギー戦略 と中日合作
26	林 永強 (LAM, Wing Keung)	香港教育学院 准教授	中国	京都大学大学院文学研 究科	2010.01.16 ~ 2010.07.15	歴史を再考する—西田 幾多郎と新儒教
27	李 濟滄 (LI, Jicang)	南京師範大学六朝歴史 文化研究中心 副主任	中国	龍谷大学文学部	2010.08.31 ~ 2011.08.30	近代日本における中国 史研究—宮崎市定を中 心に
28	李 晶 (LI, Jing)	広東海洋大学外国語学 院 日本語学科 主任／ 教授	中国	東北大学大学院文学研 究科	2011.02.23 ~ 2011.08.22	現代日本における農家 と社会—秋保町馬場村 の調査を中心に
29	李 宇玲 (LI, Yuling)	中国同済大学外国語学 院 日語系 副教授	中国	東京大学大学院人文 社会系研究科	2010.02.11 ~ 2011.02.10	古代日本文化の形成過 程における唐代宮廷文 化の受容と変容
30	魯 義 (Lu, Yi)	国際関係学院 教授	中国	関西学院大学法学部	2010.08.20 ~ 2010.11.19	日本の公務員汚職防止 対策に関する研究

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
31	沈 海濤 (SHEN, Haitao)	吉林大学東北アジア研究 院 所長	中国	東京財団	2010. 11. 07 ~ 2011. 02. 06	民主党政権下「日中戦略的互惠関係」の現状 及び行方に関する研究
32	史 桂芳 (SHI, Guifang)	首都師範大学 教授	中国	大阪大学大学院	2010. 10. 11 ~ 2010. 12. 10	日本の台湾植民地における文化統制政策
33	王 霞 (WANG, Xia)	中国人事社会保障部労働 賃金研究所 副研究員	中国	政策研究大学院大学	2010. 06. 30 ~ 2010. 09. 29	日本国の賃金調査システム
34	王 益鳴 (WANG, Yi Ming)	華南師範大学 助教授	中国	東京大学	2010. 09. 30 ~ 2011. 09. 29	平安朝密教文献整理研究
35	魏 志江 (WEI, Zhijiang)	中山大學 准教授	中国	東京大学大学院総合文化 研究科	2009. 09. 01 ~ 2010. 06. 30	中日韓三国の安全保障とアジア東北部におけ る安全保障機構の構築
36	武 向平 (WU, Xiangping)	中国吉林省社会科学院満 鉄資料センター 研究員	中国	新潟大学	2009. 06. 29 ~ 2010. 04. 20	中日満鉄研究の現状と比較
37	楊 偉 (YANG, Wei)	四川外語学院日本学研究 所 所長	中国	法政大学 国際日本学研 究所	2011. 02. 16 ~ 2012. 02. 15	多文化間アイデンティティの課題と可能性 —国境を越えた詩友黄瀛、草野心平、宮沢賢 治などを例に—
38	尹 曉亮 (YIN, Xiaoliang)	南開大学日本研究院 教 師	中国	早稲田大学	2011. 01. 15 ~ 2011. 07. 14	日本における省エネルギー政策及び中国への 示唆
39	張 伯玉 (Zhang, Boyu)	中国社会科学院日本研究 所 副研究員	中国	慶応義塾大学法学部	2010. 09. 30 ~ 2011. 03. 29	1950年代における中国の対日戦略と中日関係
40	支 菲娜 (ZHI, Feina)	北京電影学院 講師	中国	東京大学大学院	2009. 07. 11 ~ 2010. 07. 10	新世紀の裂変と多岐—中日両国青年監督の映 画作品の中における社会訴求比較研究
41	TSED, Batchuluun	モンゴル国立馬頭琴交響 楽団 指揮者/芸術監督	モンゴル	大阪大学	2010. 05. 22 ~ 2011. 03. 27	日本とモンゴルの伝統音楽の比較研究
42	SUWANRADA, Attaya	チュラロンコン大学文学 部 講師	タイ	大阪大学	2009. 11. 01 ~ 2010. 05. 31	平安文学における五行の象徴とその機能
43	HOLMES, Ronald Everette David	デ・ラサール大学政治学科 教授	フィリピン	茨城大学人文学部	2010. 09. 01 ~ 2011. 03. 15	中央政府と地方自治体の関係に関する日比比 較研究
44	TIONGSON, Nicanor G.	フィリピン大学フィル ム・インスティテュート 教授	フィリピン	京都大学東南アジア研究 センター	2010. 03. 25 ~ 2010. 10. 31	ネイション・ビルディングにおける統合の要 素としての文化の役割
45	LE, Tam Thi Thanh	ホーチミン市国家大学人 文社会科学大学言語学部 講師	ベトナム	東京外国語大学	2010. 09. 10 ~ 2011. 09. 09	禅の俳句とベトナムの古典詩への影響

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
46	PHAM, Huong Quynh	ベトナム社会科学学院社会学研究院 上席研究員	ベトナム	東京大学医学部健康科学・看護学科	2010.08.01 ~ 2010.12.23	日本とベトナムにおける性教育と性に関する文化が若者の性行動に及ぼす影響に関する研究
47	SOE, Shwe	認定NPO法人「難民を助ける会」プロジェクト・アシスタント	ミャンマー	東北大学大学院	2010.08.02 ~ 2011.06.01	環境評価と心理的健康に関する楽観性と悲観性の関係についての環境心理学的研究
48	TANKHA, Brij Mohan	デリー大学中国日本研究学科 教授	インド	一橋大学	2009.11.02 ~ 2010.10.31	明治期日本における宗教と近代化に向けた課題
49	ATHAMBAWA, Azeez Abdul	コロンボ大学経営学部 上級講師	スリランカ	早稲田大学	2010.03.11 ~ 2011.02.28	スリランカにおける日本の外国直接投資：アメリカと日本の外国直接投資の影響の比較
50	ESHAM, Mohamed	サバラガムワ大学	スリランカ	鳥取大学	2011.03.11 ~ 2012.03.10	日本の農協とスリランカの農民企業の比較
51	RATNAYAKE, Mudiyansele Patrick Ferdinands	ケラニア大学	スリランカ	日本大学	2010.07.31 ~ 2011.06.30	現代映画に反映される文化的価値と革新：日本とスリランカ映画の比較
52	POKHAREL, Madhav Prasad Sharma	国立トリブバン大学 教授	ネパール	神戸大学	2009.05.14 ~ 2010.05.13	ネパール語、日本語間の、分類詞を通じた対象物の抽象化における認識的類似点
53	THAPA, Ganga Bahadur	トリブバン大学 教授	ネパール	東京大学	2011.01.11 ~ 2012.01.10	公の監視のもとに：日本における議会の透明性
54	MALIK, Ahmad Rashid	イスラマバード政策研究所	パキスタン	尚美学園大学	2010.05.14 ~ 2011.03.18	恒久的自由作戦—海運断絶作戦：日本、米国と関連地域との関係
55	RAHMAN, Ataur Md	ダッカ大学 教授	バングラデシュ	名古屋大学大学院国際開発研究科	2009.08.31 ~ 2010.08.30	選挙制度と政治改革に関する日本の視点
56	MORRIS-SUZUKI, Teresa Irene Jessica	オーストラリア国立大学 教授	オーストラリア	東京大学大学院情報学環・学際情報学府	2009.12.16 ~ 2010.04.15	草の根からのアジア地域統合の試み：地方都市における市民グループの活動が、日本とアジア近隣諸国の関係構築に果たす役割について
57	BAFFELLI, Erica	オタゴ大学 講師	ニュージーランド	東京大学大学院人文社会科学系研究科宗教学・宗教史学研究室	2010.11.01 ~ 2011.01.31	日本におけるメディア、宗教と文化：1995年以降の日本の「新宗教」の研究

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ (論文執筆) [アジア・大洋州]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要がある者を招へいする。

合計額 84,536,965 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	崔 子明 (CHOI, Jamyung)	ペンシルバニア大学史学 科 博士課程	韓国	東京大学法学部	2010.08.01 ~ 2011.07.31	東京帝国大学と近代日本中間階級社会の成立
2	金 度亨 (KIM, Do Hyung)	成均館大学校 博士課程	韓国	東京大学大学院総合文化 研究科	2009.10.05 ~ 2010.10.04	韓国近代啓蒙期における日本啓蒙思想の転移 と変容に関する研究
3	金 喜敬 (KIM, Hee-kyoung)	ソウル大学校 博士課程	韓国	東京大学	2010.06.06 ~ 2011.06.05	現代日本の地域社会における老年の社会文化 構成に関する研究：長野県佐久市を中心に
4	李 相佰 (LEE, Sangbaik)	カリフォルニア大学バー クレー校 博士課程	韓国	東京大学大学院総合文化 研究科	2010.08.01 ~ 2011.07.31	資源依存と日本政治経済：20世紀の石炭・石 油産業の事例を通じて
5	林 恩廷 (LIM, Eunjung)	ジョンズ・ホプキンス大 学高等国際問題研究大学 院 博士課程	韓国	財団法人日本エネルギー 経済研究所	2010.09.29 ~ 2011.01.28	分裂する国家、合致する国家：エネルギー政 策から見た日韓比較政治経済
6	石 楯 (SEOK, Hyang)	東西大学校日本語学科 非 常勤講師	韓国	立命館大学文学部	2010.05.10 ~ 2011.05.09	現代日本社会の変容と「ジェンダー・バック ラッシュ」についての考察
7	宋 京淑 (SONG, Kyung Sook)	成均館大学校大学院政治 外交学科 博士課程	韓国	法政大学大原社会問題研 究所	2009.09.01 ~ 2010.08.31	1980年代以後の日本における労資関係の変化 と国家一労働規制緩和の政治を中心に
8	艾 菁 (AI, Jing)	復旦大学国際関係公共政 策学院 博士課程	中国	京都大学人文科学研究所	2010.09.01 ~ 2011.08.31	冷戦後の日本におけるナショナリズムの研究
9	白 如純 (BAI, Ruchun)	中国社会科学院日本研究 所 講師	中国	日本貿易振興機構アジア 経済研究所地域研究セン ター	2009.09.17 ~ 2010.08.16	日本の東アジア地域協力政策の研究—中国の 関連政策との比較及び日中関係の視点から
10	陳 霜麗 (CHEN, Shuangli)	香港大学 博士課程	中国	京都大学大学院教育学研 究科	2009.11.09 ~ 2010.07.31	女子身分を構築し、近代性を再解釈する：明 治期 (1868~1912) におけるキリスト教女子 教育
11	方 勇男 (FANG, Yongnan)	吉林大学 博士課程	中国	学習院大学	2010.10.03 ~ 2011.10.02	中国における成年監護(後見) 制度の将来像
12	馮 慧 (FENG, Hui)	南京大学 博士課程	中国	早稲田大学文学学術院	2010.08.29 ~ 2011.08.28	正倉院宝物を中心とした東西文化交流の研究
13	李 含 (LI, Han)	中国社会科学院大学院 博 士課程	中国	同志社大学法学部	2009.08.01 ~ 2010.07.31	近代日本における平和思想の軌跡
14	梁 宝衛 (LIANG, Baowei)	復旦大学 博士課程	中国	東京大学東洋文化研究所	2009.09.10 ~ 2010.09.09	戦後日本のシベリアン・コントロール



アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	梁 明霞 (LIANG, Mingxia)	北京大学外国語学院 博士課程	中国	国際日本文化研究センター	2009.09.26 ~ 2010.09.25	近代日本仏教の形成と発展の研究—政教関係を中心に—
16	陸 旭 (LU, Xu)	ペンシルバニア大学 博士課程	中国	同志社大学社会学部	2010.07.15 ~ 2011.06.30	帝国の「特使」：日本プロテスタント海外伝道者と太平洋兩岸の日本移民社会、1890-1941
17	饶 建華 (RAO, Jian Hua)	西南大学 博士課程	中国	立命館大学アート・リサーチセンター	2010.06.20 ~ 2010.10.19	東山魁夷の絵画における美学思想研究
18	孫 紹紅 (SUN, Shaohong)	清華大学 博士課程	中国	早稲田大学アジア太平洋研究科	2010.11.11 ~ 2011.11.10	北東アジア安全協力に対する日本の発想、政策及び役割について
19	田 雪梅 (TIAN, Xuemei)	復旦大学 博士課程	中国	慶応義塾大学法学部	2009.09.20 ~ 2010.09.19	近・現代日本における「国民」の鑄造—明治維新から第二次世界大戦まで
20	王 璟 (WANG, Jing)	トロント大学 博士課程	中国	東京大学大学院総合文化研究科	2010.08.26 ~ 2011.08.25	植民地近代性（コロニアル・モダニティ）をめぐる都市空間と日本近代文学
21	謝 志海 (XIE, Zhihai)	北京大学国際関係学院 博士課程	中国	日本大学国際関係学部	2010.08.01 ~ 2011.07.31	GHQの対日宣教政策と占領期日本におけるクリスチャンブーム（1945～1951）
22	徐 鵬 (XU, Peng)	吉林大学 博士課程	中国	早稲田大学法学学術院	2009.08.30 ~ 2010.08.29	日本における民法典システムの研究
23	楊 向峰 (YANG, Xiangfeng)	南カルフォルニア大学 博士課程	中国	早稲田大学政治経済学部	2010.07.01 ~ 2011.06.30	政治思想、国家の実力と日本の価値外交
24	姚 永竜 (YAO, Yonglong)	中国社会科学院 准教授	中国	北海道大学	2010.07.21 ~ 2011.01.20	農業規模化経営推進の関連政策に関する日中の比較研究
25	ASHGAI, Delgermaa	モンゴル文化教育大学日本語学科 日本語教師	モンゴル	筑波大学大学院人文社会科学部	2010.05.10 ~ 2010.11.09	日本語・モンゴル語の慣用句の比較対照研究（日モ語の翻訳を事例に）
26	DASHDULAM, Dashdeleg	モンゴル国立大学 講師	モンゴル	大東文化大学国際関係学部	2009.09.28 ~ 2010.09.27	1930年から1945年までの日露関係におけるモンゴル
27	CHSURI, Asadayuth	チュラロンコン大学文学部東洋言語学科日本語・日本文学科 専任講師	タイ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科	2010.05.10 ~ 2011.07.09	タイ人日本語学習者の独話における助詞「ネ」の機能の研究
28	JAMORNSURIYA, Winai	ナコーンラーチャシーマー・ラーチャパット大学 講師	タイ	野上記念法政大学能楽研究所	2010.06.01 ~ 2011.05.31	謡曲における恋の苦しみ
29	LEAOKITTIKUL, Rungruedee	シラバコーン大学 講師	タイ	麗澤大学外国語学部外国語学科	2009.06.07 ~ 2010.06.06	日本語における複合動詞とその複合動詞の前項動詞としての単純動詞との意味的な関係
30	HOANG, Minh Hang	ベトナム社会科学院付属東北アジア研究所日本研究センター 講師	ベトナム	国際日本文化研究センター	2010.05.22 ~ 2010.11.21	1970年代の福田ドクトリンと東南アジアにおける日本の政治的台頭

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
31	NGUYEN, Anh Thi Ngoc	国民経済大学 講師	ベトナム	京都大学経済研究所	2010.06.16 ~ 2010.12.15	日越企業文化比較研究—組織の移植と適応
32	BASU, Titli	ジャワハルラル・ネルー大学 博士課程	インド	東京大学社会科学研究所	2010.11.01 ~ 2011.10.31	気候変動に対する企業の反応：日本の展望
33	FAISAL, Mohd	ジャワハルラル・ネルー大学	インド	早稲田大学	2009.09.16 ~ 2010.09.01	日本の海外直接投資：1991年から2006年の製造業ケーススタディ
34	TENNETI, Vijay Suryakant	国立英語外国語大学 准教授	インド	国際日本文化研究センター	2011.01.15 ~ 2012.01.14	社会文化的理解と異文化交渉
35	KING, Emerald Louise	タスマニア大学 博士課程	オーストラリア	お茶の水女子大学	2009.09.15 ~ 2010.08.14	日本の女性文学における享楽主義的モチーフの系譜：河野多恵子から渡辺やよいまで
36	LOVELL, Stefan James	ラトロープ大学社会学部 博士課程	オーストラリア	神戸大学発達科学部	2010.08.01 ~ 2011.07.31	日本におけるマイノリティ共同体：多言語ラジオFMわいわい
37	SAITO, Kaori	オーストラリア国立大学 アジア太平洋研究科博士課程在籍	オーストラリア	早稲田大学、アジア太平洋研究科	2010.12.20 ~ 2011.08.19	日本の開発援助政策決定におけるアイデアとインスティテューションの役割

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (4) 日本研究フェローシップ (学者・研究者 短期) [アジア・大洋州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 13,931,738 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	鄭 麟夏 (JUNG, Inha)	漢陽大学校建築学部 教授	韓国		2010.07.03 ~ 2010.08.29	日本建築の傳統論と東アジア近代建築の解釈への適用可能性探究
2	姜 仁旭 (KANG, In Uk)	釜慶大学校 助教授	韓国		2011.01.10 ~ 2011.02.22	東北アジア青銅器文化の観点から見た弥生時代の新認識
3	金 相準 (KIM, Sangjoon)	延世大学校政治外交学科 副教授	韓国		2010.06.10 ~ 2010.08.07	日本の政治移行と改革：政治家と官僚
4	蔡 亮 (CAI, Liang)	上海師範大学人文与伝播学院 ポスト・ドクター	中国		2010.06.26 ~ 2010.08.23	日本の上海へのODAについての研究
5	鍾 健平 (CHUNG, Chien-Peng)	嶺南大学校 准教授	中国		2010.03.01 ~ 2010.04.04	中国主導のアジア・太平洋地域機構における日本の役割
6	葛 涛 (GE, Tao)	上海社会科学院歴史研究所 副研究員	中国		2010.07.01 ~ 2010.08.28	日本語文献に映る近代上海
7	韓 釗 (HAN, Zhao)	陝西省文物交流中心 主任 / 研究員	中国		2010.08.01 ~ 2010.09.28	中日古代墓誌の比較研究
8	胡 樹 (HU, Shu)	内モンゴ大学外国語学院 院長 / 主任教授	中国		2010.07.10 ~ 2010.08.26	日本の村づくりとそれを支える都市と農村の交流活動に関する研究
9	李 国慶 (LI, Guo Qing)	中国社会科学院都市発展・環境研究所 教授	中国		2011.01.06 ~ 2011.03.05	テキスト『日本の社会』の改訂に伴う「日本の農村社会学」と「日本の環境社会学」2章の資料収集・執筆
10	張 維良 (TEO, Ee-Leong Victor)	香港大学日本研究学科 研究助教授	中国		2010.06.10 ~ 2010.08.04	日本と露・印の結び付き・中国という要素
11	張 維薇 (ZHANG, Wei Wei)	広東外語外貿大学 東方語言文化学院 博士課程	中国		2010.06.30 ~ 2010.08.26	親鸞における「信」についての思想史的考察
12	BOONTHARM, Davisi	シンガポール大学デザイン・環境学部建築科 准教授	シンガポール		2010.11.29 ~ 2011.01.09	流行と街：東京の持続的な発展と流行の役割
13	YONG, Chen Chen	マラヤ大学中国研究所 上級講師	マレーシア		2010.09.02 ~ 2010.10.30	日系多国籍企業の業績分析のための指標構築
14	MACNAUGHTAN, Chelle	RMIT大学デザイン・建築学部 博士課程	オーストラリア	東アジア都市学研究所	2010.10.23 ~ 2010.12.20	日本の枯山水庭園と建築における空間の聴覚的認識

アジア・大洋州交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	OGURO, Susan Gail Johns	シドニー工科大学 芸術・社会学部 講師	オーストラリア	早稲田大学大学院 日本語教育研究科	2010.09.23 ~ 2010.10.26	継承言語としての日本語：日系豪州人の学習ニーズとカリキュラムについて

2. 人物交流事業費 / (5) 日本研究フェローシップ (高砂熱学工業)

インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの日本研究専攻の学生に奨学金を供与する。

合計額 1,746,773 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	NGUYEN, Anh Thi Ngoc	国民経済大学 講師	ベトナム	京都大学経済研究所	2010.06.16 ~ 2010.12.15	日越企業文化比較研究—組織の移植と適応

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (6) 知的リーダー交流 (招へい) [アジア・大洋州]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 17,391,131 円

	事業名	氏名	現職	所属国	期間	事業内容
1	アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム	安 秉玉 (AHN, Byungok)  郭 志远 (GUO, Zhiyuan)  RITHDEE, Kong  PERERA, Sasanka  SAEED, Fouzia  関 薫子	気候変動活動研究所 代表  安徽大学 教授  コロンボ大学 教授  バンコクポスト コラムニスト  NGOメヘルガル 所長  国際連合事務局 人道問題調整室 政策担当官	韓国  中国  タイ  スリランカ  パキスタン  日本	2010. 09. 13 ~ 2011. 11. 12	日本を含むアジア諸国において社会的影響力の大きい知識人6名を選抜、フェローとして2カ月間日本に滞在する機会を提供する。フェローは、 <i>Asia in Dialogue: Visions and Action for a Humane Society</i> という共通テーマの下での共同作業、個々のフェローの関心に基づく研究活動を通してネットワーク形成を図ることにより、当該地域が直面する様々な課題に対する共通の問題意識を醸成する。さらに、それら問題の解決に取り組むための知的基盤作りを促進する

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議 (助成) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議等) に対し、経費の一部を助成する。

合計額 57,390,317 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	「ポスト2010年」の日韓「ニュー・センテニアル」に向けた2010年の検証—「現代史」の試み	韓国	現代日本学会	2010.04.01 ~ 2010.11.30	韓国併合100年の節目にあたり、日韓両国で企画される多数のイベントを政治・経済・社会・文化・歴史の3部門に分類して記録すると同時に、その企画意図や内容を国際シンポジウムで検証する日韓の共同事業。シンポジウムは仁荷大学にて実施 (2010.11.26~27)
2	日韓次世代学術フォーラム 第7回国際学術大会 (光州大会)	韓国	東西大学校	2010.04.01 ~ 2011.03.31	国際学術会議 (分科会発表及び特別講演及び討論)。細分化して実社会と乖離してしまったきらいのある日韓両国に中国を加えた東アジアの人文・社会科学分野において、学際的・学融合的な研究のできる若手研究者を育成するため、修士・博士課程の大学生に討論の場を与える学術会議。光州市の全南大学にて実施 (2010.06.25~28)
3	辺境・島嶼からみる北東アジア	韓国 中国 ロシア	東北アジア文化研究所	2010.04.01 ~ 2011.03.31	シンポジウムと国際学術会議。東北アジア文化研究所は東北アジアを「海」を媒介して結びつく地域と捉え、同地域の文化の多様性と相互関連性を明らかにする研究を活動の柱とする。今次シンポジウムのテーマは「辺境・島嶼からみる北東アジア」。国際学術会議では、シンポジウムよりもテーマの幅を広げ、文学、語学、社会、歴史、政治・経済などの分科会に分かれて研究発表を行う。申請機関にて実施 (2010.10.15~17)
4	日韓中の地球温暖化と域内協力量案	韓国	韓日未来フォーラム	2010.04.01 ~ 2011.03.31	各国の利害関係にとらわれ共同対策が進みにくい地球温暖化問題について、その解決に向けて日中韓が検討すべき共同協力への道筋を議論するため、3国の専門家、ジャーナリスト、政策担当者が参加する国際会議。ソウル・プレスセンターで実施
5	アジアの女性と工芸	韓国	梨花女子大学校アジア女性センター	2010.05.01 ~ 2010.10.30	女性学の知見を活用しつつ、工芸を切り口としてアジアの多様性と共通性を見出すとともに、日韓関係史を考察する専門家ワークショップ及び国際会議を開催。日韓の工芸家、理論家、活動家、政策担当者等が参集し、申請機関にて実施 (2010.05-10)

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
6	コミュニティデザイナー養成と持続可能な地域づくりのための韓日コミュニティ知的交流事業	韓国	希望製作所	2010.06.01 ~ 2010.10.30	「まちづくり」で長い歴史と基盤を有する日本が蓄積してきた市民参加型の社会変革の取り組みやノウハウを参考とし、韓国社会に応用するために韓国内でのセミナー及び国際ワークショップを実施。平成21年度からの継続事業。日本から自治体、地域市民社会、地域住民、専門家を招へいし、ソウル他韓国の3地域で実施（2010.09.30-10.02）
7	東アジア共同研究構築と日中両国の役割に関するセミナー	中国	吉林大学東北アジア研究院	2010.04.01 ~ 2010.12.31	鳩山由紀夫民主党政権の登場を機に再び活性化している東アジアの地域統合や地域協力について、民主党の政策の行方を展望し、日中両国の役割や戦略的互惠関係の枠組み等について議論する専門家会議。日中の大学・研究の関係者が50-70名集まり、吉林大学東北アジア研究院にて実施（2010.07.10~12）
8	働く女性のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた中日研究比較	中国	中華女子学院	2010.04.01 ~ 2011.03.31	仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）について日中間で経験と知見のシェアを行い、政府への提言等を通して、よりよい社会作りに役立てるための国際シンポジウム。北京で実施（2010.10.26~28）
9	近・現代日中文化交流から見られる現代性とアイデンティティーの模索	中国（香港）	香港中文大学日本研究学科	2010.04.01 ~ 2011.03.31	明治時代から現代にかけて、日中両国の知識層が捉えた現代性やアイデンティティーの問題について、日中の文化交流史から探る国際会議。日、中、米、カナダから11名の研究者が参加し、同大学日本研究学科にて実施（2010.11.13~14）
10	中日米関係及び東アジア共同体	中国	上海交通大学日本研究センター	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日、中、米それぞれが展開する東アジア共同体構想の相違点やその要因、可能な妥協点と協調のあり方等について各国の研究者、ジャーナリスト、政府関係者が議論し、均衡のとれた三国関係への道を模索する専門家会議。上海にて実施（2010.07.18~21）
11	日中二大国の勃興と将来の東アジアの秩序	中国（香港）	嶺南大学	2010.05.01 ~ 2011.03.31	将来の東アジアの秩序と平和的発展を視野に、東アジアにおける日本と中国の関係、また日中と東アジアの他の国々、米国との権力関係について議論する国際会議。日、中、韓、豪、米、英から専門家が参加し、申請機関にて実施（2010.10.15）

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
12	世界の日本学研究フォーラム in 北京	中国	中国人民大学教育研究所	2010.05.03 ~ 2011.02.20	世界各国・地域より日本研究者を北京に招き、日本学研究の最新動向と展望を語る国際シンポジウム。2010年7月に設立された申請機関付属日本政策研究センターの設立記念事業。中国人民大学逸夫会議センターにて実施(2010.11.04~06)。欧米、アジア地域から16名(中国からは政策立案者、メディア関係者、高等学校校長)が参加
13	日中青年作家会議2010	中国	中国社会科学院外国文学研究所	2010.09.06 ~ 2010.09.10	現在、一線で活躍している若手を中心に日中の作家、研究者を北京に集め、創作活動や相互の文化状況に関する報告及び議論を行なう国際会議。中国社会科学院外国文学研究所にて実施(2010.09.06~10)。日中若手作家間のネットワーク形成、相互理解の深化に寄与
14	東アジア共同体の可能性と日中米関係	中国	清華大学日本研究センター	2010.12.01 ~ 2011.03.31	鳩山由紀夫政権が積極的に提唱したことで再び注目を集めている東アジア共同体構想について、中国、日本、韓国、アメリカ、東南アジアなど多様な国際的視点から検討する国際共同研究シンポジウム。清華大学にて実施(2010.09.25~26)。日本、中国、韓国、台湾から20名ほどの研究者の参加があり、東アジア共同体研究を深化
15	カルチュラル・タイフーン2010:映像で結ぶ公共圏とアジア	日本	カルチュラル・タイフーン運営委員会	2010.04.01 ~ 2010.10.31	アジア各地から映像文化の最先端を担う研究者とクリエイターが、「映像」という科学技術と社会・文化との関係について検証する国際会議。「映像で結ぶ公共圏とアジア」をテーマに、アジアと日本の歴史的関係を検証するほか、消費文化のなかで創出され続けてきた多様な「映像」が構成する現代アジアの社会文化状況について分析する。駒沢大学旧三越迎賓館シルバーパビリオンにて開催(2010.07.02~04)
16	シンポジウム「ヒマラヤから現代社会を問う—世界の矛盾とヒマラヤ文化の役割と可能性」	日本	特定非営利活動法人ヒマラヤ・アーカイブ・ジャパン	2010.04.01 ~ 2010.11.20	ヒマラヤ映画祭 Tokyo 2010 関連企画としてのシンポジウム。ヒマラヤ地域が抱える諸問題の紹介及び多文化社会としての同地域と日本との相互交流イベントも実施。会議開催日は2010.11.20
17	第5回東アジア環境市民会議	日本	東アジア環境情報発信所	2010.04.01 ~ 2011.03.31	韓国光州にて、地球温暖化問題、特に「低炭素社会の実現」に関して、日中韓の参加者約150名が集う国際会議を開催(2010.10.16~20)



アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
18	日中韓・東アジア文学フォーラム2010 in 北九州	日本	東アジア文学フォーラム日本委員会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	2008年に韓国で実施した東アジア文学フォーラムの第2回目。「21世紀文学の海へ！今東アジアをどう書くか」を総合テーマに、貧富と欲望、場所の想像力、恋愛と文学などについて日中韓の文学者が議論する国際会議。近代化の過程で生じた遺恨を抱える3国が文学を通して他者を理解しあうと同時に、将来は東アジア地域の文学者のネットワーク構築を目指す。北九州市にて一般公開のもと実施（2010.12.03～07）
19	融合、共生、インタラクション—第2回中日文化比較研究国際シンポジウム	日本	東北大学中日文化比較研究所	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日中両国から、文学及び科学技術分野の研究者が100名ほど集まり、両分野を横断的に相互融合させながら、情報社会化や支援環境の破壊、世界経済の一体化やブロック化などの問題に対する学際的、多次元的な対応を検討する国際会議。同研究所にて実施（2010.09.09～12）
20	気候変動に対処するための青少年教育促進に関する会議	日本	東南アジア教育省連合・考古学・芸術センター	2010.04.01 ~ 2011.03.31	気候変動の緩和に向けて、アセアンと日本のNGO・国際機関で働く若手スタッフが、ネットワークを構築し、次世代を担う若手としてその解決に向けて必要な協力や活動のあり方について議論する。若手の発表とワークショップからなる公開会議で、アセアン及び日本から若手が約40名が参加し、200-250名の聴衆を集める。バンコクで実施（2011.01.14-16）
21	世界海垣サミット in しらほ	日本	財団法人世界自然保護基金（WWF） ジャパン	2010.04.01 ~ 2011.03.31	伝統的な漁具「海垣」をテーマに、伝統的漁業（知恵）の再認識、生物多様性の保護、持続可能な社会の形成等について話し合う国際シンポジウムを開催（2010.10.30～31）
22	第11回東アジア国際シンポジウム	日本	東アジア総合研究所	2010.08.23 ~ 2010.08.26	鳩山由紀夫民主党政権による東アジア共同体構想を受け、それを具体化する方途としての日中韓3国の経済協力事業を議論する国際会議。具体的には、環日本海フェリー、日韓中3国海底トンネル構想、北東アジアガスパイプライン構想の現状と課題、展望について討議。3国の研究者38名が参加し、韓国の仁川にて実施（2010.08.24）
23	第3回ウランバートル国際シンポジウム「日本・モンゴルの過去と現在—20世紀を中心に」	モンゴル	モンゴル科学アカデミー国際研究所	2010.04.01 ~ 2010.11.30	20世紀中の日・モ関係（特にノモンハン事件～日・モ国交回復）を焦点として、北東アジア地域の複雑な歴史状況を視野に入れつつ、研究者が様々な文献資料の分析、事件・戦争体験者の聴き取り調査等に基づく最新の研究成果を持ち寄り、シンポジウムを行う。ウランバートル市で実施（2010.09.10）

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
24	第3回「日本から学ぶ」国際シンポジウム	インドネシア	インドネシア大学大学院警察学科	2010.05.01～2010.12.31	都市問題について考える「日本から学ぶ」国際シンポジウム・シリーズの第3回目。今回のテーマは「日本の都市の安全とセキュリティ」を取り上げる。同大学において、プレ・シンポジウム(06.24)、シンポジウム(10.14)を実施。主な対象者は行政関係者や警察関係者、研究者、マスコミ関係者等で、成果を政策提言にまとめた
25	第3回フィリピン日本NGOパートナーシップ会議—専門性と経験の交換	フィリピン	開発NGOネットワーク協会	2010.04.01～2010.10.21	両国NGOのパートナーシップ強化を目指し、災害リスクマネジメント、貧困、平和構築、人口変化と文化、ODAの効率性等について議論する国際会議。日本とフィリピンの研究者、NGO、政府関係者、メディア、金融機関から約110名が参加し、ダバオで実施(2010.08.25～27)
26	世界経済及び環境の危機におけるコミュニティ・ディベロプメント教育の振興に関する第2回アジア地域会議	フィリピン	シカイ・キロス開発協会	2010.04.01～2011.03.31	環境問題、貧困、経済危機等の社会問題に対する地域開発学の有効性を検証し、高等教育機関向けのカリキュラム改訂や標準化に向けた研究や教材開発につなげるための国際会議。アセアン各国、日本の研究機関やNGOから教育関係者196名が参加し、ロスバニョスのフィリピン大学にて実施(2010.10.20～22)
27	東南アジアのイスラム、子供、平和の文化構築	フィリピン	サイコソシアル・サポートと子供の人權リソースセンター	2010.05.01～2010.10.31	東南アジアのムスリム児童の幼児期の経験や環境に注目し、人間形成に与える影響を人間の安全保障の視点から検証する専門家会議(平和構築事業)。日本、インドネシア、タイ、フィリピン、モルディブから政府関係者、研究者、市民社会団体、宗教関係者など179名が参加し、ケゾン市のフィリピン大学にて実施(2010.09.29～30)
28	近代アジア文学の検証～西欧文学理論的アプローチ	ベトナム	ベトナム社会科学院文学研究院	2010.04.01～2010.11.30	日・中・韓・米から文学の専門家を招へいし、前近代及び現代の東アジアの文学作品について、西欧の理論との比較の観点から議論する国際会議。2010年11月の2日間、ハノイにて実施
29	日本の中小企業から学ぶ成功への道(第2回)	ベトナム	ホーチミン市国家大学人文社会科学大学	2010.04.25～2010.11.25	第1回目のシンポジウム(2009年6月)のフォローアップとして、アジア各国の経済専門家を召集し、日本の中小企業の動向や現状を分析。ベトナムをはじめとするアジア諸国の経済発展に向け適切な指標を探る国際会議。ホーチミンにて実施(2010.10.14～15)
30	第24回アジア太平洋ラウンドテーブル「アジア太平洋の相互協力的安全保障強化」	マレーシア	マレーシア戦略国際問題研究所(ISIS)	2010.04.01～2010.08.31	アジア太平洋地域の相互協力的安全保障の強化をテーマに、同地域に存在する各論的問題について話し合う国際会議(2010.06.07～10)を開催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
31	南アジアのセキュリティー・セクターの改革：日本の事例に学ぶ	バングラデシュ	バングラデシュ国際戦略研究機関	2010.04.01～2011.03.31	南アジアの総合的な安全保障としてのセキュリティー・セクターの改革（SSR）について考える国際会議。南アジアのセキュリティー・セクターの現状について分析するとともに、モデル・ケースとして日本のセキュリティー・セクターの紹介も実施。会議実施時期は2010.12.07～08
32	大逆事件百年を顧みて	オーストラリア	ボンド大学	2010.04.01～2011.02.28	大逆事件から100周年を記念し、国際会議を開催。同事件はそれに続く思想統制と合わせて、大戦に至る日本の歴史において、政治、法律、社会、文化等の諸側面で多大の影響を与えた。日本、オーストラリア、ニュージーランド、欧州等から専門家を招き、同大学を会場として実施（2010.08.21～22）
33	Women's Voices—芸術表現を通じた主張と変化	オーストラリア	オーストラリア国立大学	2010.04.01～2011.03.31	アジアにおける女性の地位に関する主張と社会の変化を、特に詩を中心とした芸術表現に焦点を当てて考察する。学者、詩人、ジャーナリストなど分野横断的な参加者を集め、インターネット上のフォーラム、講演会、詩の朗読会、シンポジウムなどを複合的に、同大学等で実施（2010.09.29～10.01）。同時期に当該大学で行われる第10回アジア国際女性会議の関連事業として実施
34	アジア大洋州における食糧問題：食料の安全保障に関する地域枠組の検討	オーストラリア	オーストラリア国立大学	2010.05.01～2011.03.31	「食料の安全保障」をテーマに、2008年の食料危機を事例として、アジア大洋州における食料の安全保障に関する地域的枠組と、実際の取り組みを分析し、政策提言にまとめる。シンガポール大学の非伝統的安全保障研究所や大阪大学を中心とする日本の「人間の安全保障研究教育コンソーシアム」が協力。オーストラリア国立大学で実施（2010.10.06～08）
35	日本研究者を対象とした日本古文・旧字体日本語の読解講習	オーストラリア	マードック大学	2010.06.01～2011.02.28	日本研究者・大学院生を対象に、日本の古文・旧字体で書かれた文章の読解に関する集中講座を実施。講師は日本とオーストラリアの大学の専門家で、受講者は、オーストラリア、ニュージーランド、東南アジアの12大学から計〇名が参加。マードック大学で実施（2010.06.29～07.03）
36	三菱現代日本セミナー	オーストラリア	モナシュ大学日本研究センター	2011.03.18～2011.03.31	日本の経済と科学技術の現状と課題について、日本、中国、インドネシアより研究者を招くと共に、オーストラリアの研究者、ビジネス関係者を交えたセミナーを開催。日本からは、高橋豊治（中央大学教授）、永野博（総合政策大学院大学教授）を招へい

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
37	国際ワークショップ「アセアンと日本からみた大学の社会的役割及びその持続性—より良いコミュニケーションづくりにむけて」	東南アジア地域区分困難	アセアン大学ネットワーク	2010.09.13 ~ 2010.09.15	知識型社会の構築に向けて大学が果たす社会的責任について、高等教育機関の使命やコミュニティの発展、大学内ガバナンスの視点から検討する専門家ワークショップ。各国の事例を共有しながら、アセアンとして掲げる大学の社会的責任のコンセプトや具体的な活動等に関して議論する。3カ年計画事業の1年目。アセアン諸国のメンバー大学関係者や日本人講師35名が参加し、タイ・チョンブリのプラパー大学にて実施（2010.10.20～22）
38	アジアの文化産業：インド、日本、韓国の比較研究		一般財団法人社会文化研究センター	2010.12.21 ~ 2010.12.22	日本、インド、韓国の文化産業に関する比較研究。インドにおける日本及び韓国からの輸入及び同国への輸出について調査を行い、3カ国間の文化産業の流通について総合的に議論する会議

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (企画参画助成) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議等) に対し、経費の一部を助成する。

合計額 57,149,337 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	社会的企業をめぐる日韓会議	韓国	希望製作所	2010.04.01 ~ 2011.03.31	平成20年度、21年度に国際交流基金主催・希望製作所共催で実施した社会的企業をめぐる日韓交流事業「社会的企業が拓く日韓の新たな出会い」により得られた日韓の社会的企業研究者・実践者の相互理解とネットワークを活用して、社会的企業家を目指す日韓青年交流プログラム (ヤング・チャレンジ) 及び同プログラムの成果を踏まえ、日韓を含むアジア全体の社会的企業セクターの発展を視野に入れた専門家会議を実施
2	東アジアの平和・ガバナンス・発展についてのEAIフェロープログラム	韓国	(East Asia Institute:EAI)	2010.07.01 ~ 2011.03.31	非アジア圏に居住する研究者5名を対象とするフェローシップ事業。フェローは、日本・慶應義塾大学をはじめとする東アジアの大学において研究・論文執筆を行うと同時に、セミナーや講義を実施。日本に関係する研究を行っているフェローについて助成
3	日・中・韓芸術家交流展覧会シンポジウム	韓国 中国	日中韓芸術家交流実行委員会	2010.11.15 ~ 2010.11.18	奈良県薬師寺にて、日・中・韓それぞれの国を代表する芸術大学の有識者が一堂に会し、3カ国の「美」の特徴や関わりについて比較考察するとともに、ヨーロッパが東アジアの芸術文化をどのように捉えてきたのか、その歴史的変遷を明らかにし、日・中・韓3カ国の文化共同体運動の指針、方途を検討するシンポジウムを実施 (2010.11.15~18)
4	東アジア共同体に向けてー日本と朝鮮半島	韓国	東北アジア研究会	2011.03.01 ~ 2011.03.31	東アジア共同体の形成にむけてアメリカ、韓国、北朝鮮、日本が果たす役割と課題について政治、安全保障、経済、外交など多様な側面から議論する国際シンポジウム。朝鮮半島や東アジア共同体に関する研究者や実務家を招へいすることで、各地域からの専門家交流を促進させて東アジア共同体の土台となる「知の共同体」の形成をはかるもので、若手研究者や大学院生を積極的に参画させ、東アジア共同体の形成・発展に関する議論を継承する次世代の育成も目的のひとつとする

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
5	第6回東京－北京フォーラム	中国	特定非営利活動法人言論NPO	2010.04.01～2011.03.31	アジアや日中の共通課題の解決に向けて、両国の有識者や国民が広く共に考え、政府関係の悪化に左右されない本音で真剣に議論ができる民間対話の場を実現することをめざす継続対話事業。常設である「メディア」「政治」「経済」「地方」対話を実施するほか、今回は「安全保障」「文化交流」「環境」の3分科会を設置。東京にて実施（2010.08.30～31）
6	日韓共同研究会議	日本	慶應義塾大学東アジア研究所	2010.04.01～2011.03.31	北東アジアの地域安全保障、国内社会福祉問題等の日韓両国の共通課題につき、日韓の若手研究者が共同研究を行い、その成果を日韓双方で開く学術会議で発表
7	日中韓における日本研究－伝統、範囲、方法	日本	日本研究サーベイ実行委員会	2010.04.01～2011.03.31	日中韓国における日本研究を論じられ、理解が変容してきたかを両国の有力な研究者の視点で分析・発表してもらい、日本側研究者と共に議論することにより、理解を深める。また、日・中、日・韓という二国間関係にとどまらない東アジア圏あるいはグローバル社会の中での日本のあり方につき議論。前年度は政治学と国際関係論をテーマに、発表・討議したが、本年度は、社会学と歴史学について扱った
8	「文化による平和構築」セミナー	日本	国際文化会館	2010.04.01～2011.03.31	文化・芸術を通じて平和構築に貢献している各界の活動家が、それぞれの活動への思いや、文化や芸術が、世界の様々な地域や国でどのような対話の場を生み、平和に貢献しているかを語り、その可能性や課題について考える連続講座。国際文化会館（東京）にて実施（2011.02.07～03.02）
9	福岡国際文化シンポジウム2010	日本	一般財団法人福岡ユネスコ協会	2010.08.01～2011.03.31	四方田犬彦（明治学院大学教授）、香港のメアリー・ウォン（嶺南大学講師／文学・映画研究）、タイのプラブダー・ユン（作家／脚本家）、後小路雅弘（九州大学教授／現代美術）、李鳳宇（映画プロデューサー）による、アジアにおける現代文化の交流に関するシンポジウムを開催
10	尖閣諸島問題と日中の世論悪化を考える有識者緊急会議	日本	特定非営利活動法人言論NPO	2011.03.31～2011.04.03	2010年9月に発生した尖閣諸島海域での衝突事件にともない、日中関係が悪化し、双方の国民の感情も悪化している。こうした対立の原因や改善方法について、日本の有識者が訪中し、中国側関係者と会議を開催

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
11	国際的対話による経済パラダイムの再考	日本	特定非営利活動法人懐かしい未来	2011.03.01 ~ 2012.03.31	一国の経済や国民の生活に多様な影響を及ぼし、さらに南北格差を促進した経済に焦点をあて、協働を基盤とした新しい社会づくりに向けて、従来とは異なる新たな経済パラダイムのあり方や可能性を探究する連続会議事業。アジア太平洋地域を軸に「経済のローカル化」を議論する会議を開催。豪州バイロン・ベイにて準備会議（2010.03.29～30）を実施、本会議（2012.03.23～25）は米国パークレイにて実施
12	中国・ベトナム知識人の対話と日本	日本	早稲田大学	2011.03.07 ~ 2012.03.31	中国、ベトナム両国の知識層とパイプのある日本人有識者および在留のベトナム・中国人研究者が第三者として参画することで、より客観的な立場から中越間の知識人対話を促進し、中長期的には韓国や東南アジアの知識人を含めた地域知識人フォーラムの設立を目指す会議事業。2011年3月実施予定であったが、東日本大震災のため翌年度に延期（2011.05.28に実施）
13	アチェの子どもたちと創る演劇ワークショップ2010	インドネシア	コムニタス・ティカール・パンダン (Kommunitas Tikar Pandan)	2010.12.05 ~ 2010.12.12	インドネシアのアチェにおいて30年に亘って続いてきた紛争の終結後に、地域の復興と住民同士の信頼感の醸成を目的として平成19年度から実施している事業の最終年度。21年度に実施予定であったが、アチェ地域における外国人襲撃事件の発生により実施が延期されていたもの。次世代を担う子どものエンパワーメントに主眼を置いたワークショップ実施にあたり、現地での実施経費を助成
14	平和の光：ヴィジョンからアクションへ、紛争から平和へ	フィリピン	イスラム民主主義フィリピンセンター	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ミンダナオにおける紛争解決には女性による草の根レベルでの貢献とネットワークの構築が必須であるという認識から、アジアの関係国から女性ムスリム指導者や平和構築分野の専門家が参加し、女性ムスリムの能力開発・指導者育成を行う事業の第2年目。ザンボアンガにて実施（2011.02）
15	ミンダナオの青少年による平和構築のための映画製作事業	フィリピン	ブループ・メディア財団	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ミンダナオ各地の青少年(高校生)を対象に実施する、日本とフィリピンによる平和構築事業。ミンダナオ各地のムスリム地域、クリスチャン地域、先住民地域の13～17歳の青少年を対象にジャーナリストや映像関係者が映像製作を指導し、平和に関する3分間の映像を製作。作品を一堂に集めて上映会とセミナーを開催。2010年7月から12月の間にミンダナオで製作

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
16	東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)	東南アジア地域区分困難	SEASREP財団	2010.04.01 ~ 2011.03.31	今後の東南アジアの経済発展及び人口移動の観点から、3カ年計画の国際共同研究「現代の東南アジアにおける中国移民：ベトナム、マレーシアにおける事例研究と日本への中国移民」の第1年目として、マレーシア、ベトナム、日本における華僑に関する事例研究を通年で実施。また東南アジア諸国における人文・社会科学分野の研究者間の相互理解促進とネットワーク構築を促進することにより、同地域における東南アジア研究を促進するプログラム (SEASREP) の運営に対して助成
17	大規模自然災害に関する語り継ぎ文化	フィリピン	フィリピン大学国際研究センター	2011.02.25 ~ 2011.02.28	2010年2月に実施した国際会議「大規模災害回避・軽減のための経験と教育：日本と東南アジア防災文化」の継続事業。過去の災害体験や教訓を伝承し、災害時の避難行動や普段の備えに生かす「防災文化」をコンセプトに、東南アジア、南太平洋、米国、欧州から専門家が参加し、特に日・比における歴史的な火山噴火に関する語り継ぎと、防災・減災害教育についての経験を共有
18	国際共同研究：アジア地域における「人間の安全保障」への新しいアプローチ	オーストラリア	オーストラリア国立大学	2010.04.01 ~ 2011.03.31	アジア・大洋州地域において、「人間の安全保障」政策に対する「狭義」及び「広義」のアプローチがいかに調整され、地域的な特性をもって実施されているかを検討する国際共同研究・会議。2009年から開始された事業の2年目。2010年は日・豪・中より7大学が参加し、研究プロジェクトを推進するとともに、9月にはプロジェクト参加者の他、関係専門家や政策関係者を招へいし、会議を行った
19	アジア文学シンポジウム：作家と味わい、考えるアジア文学の豊饒	中国 モンゴル	アジア文学シンポジウム実行委員会	2011.01.01 ~ 2011.05.31	2011年3月12日、日本財団ホールにて、5年間にわたってアジア10カ国の作家を訪ね、交流してきた高樹のぶ子（作家）の活動の総まとめとして開催された国際シンポジウム。同氏のほか、作家の辻原登、楊逸、モンゴルから児童文学者のジャンビーン・ダシドンドグを招いて、「アジア各国の作家たちはなぜ書くのか」「我々はアジアの文学を通じてどんな滋養を受け取ることができるのか」を討論



アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 知的交流会議（主催）〔アジア・大洋州〕

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 43,283,625 円

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1	日中韓次世代リーダーフォーラム2010	韓国 中国	韓国国際交流財団 中華全国青年連合会	2010.07.29 ~ 2010.08.08	日中韓3カ国の各界（政・官・学・財・ジャーナリズム・NPOの6分野）の次世代リーダー同士が、互いに信頼感を醸成し、長期的なネットワークを構築するために、共通の課題について対話を行う機会をつくることを目的に、3カ国を巡る合宿形式のプログラムを実施。本年度は、韓国（済州）、日本（沖縄）、中国（上海・寧波）を訪問
2	日韓多文化共生都市セミナー	韓国	韓国多文化共生学会	2011.08.19	日本や韓国では、外国人住民の多い自治体を中心に、国籍や民族等の異なる住民が共に生きていく地域づくりを進めるために「多民族共生」や「多分化社会」という観点から様々な政策が進められているが、欧州では、新しい都市政策として「インターカルチュラル・シティ」の考え方が注目されている。 本セミナーは、特に地域住民の多文化理解、住民と外国人との間の異文化交流への努力をどのように維持していくのかについて、欧州の「インターカルチュラル・シティ」に基づく取組みを参考に、日本や韓国の都市のあるべき姿を探ることを目的としたもの。 当初2011年3月に実施予定であったが、東日本大震災の発生により延期。内容を一部拡大した上、平成23年度に「日韓欧多文化共生都市セミナー」として2011年8月19日にソウルにて開催
3	中国知識人・研究者個人招へい	中国	財団法人農林中金総合研究所 慶應義塾大学総合政策学部 東京大学大学院情報学環 東京大学東洋文化研究所 日中市民社会ネットワーク 日本エネルギー経済研究所 中東研究センター 日本莫邦富事務所	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本に滞在した経験の少ない中国の若手・中堅の知識人及び研究者8名を日本に招へい。 董郁玉（光明日報論説委員）、趙静（南方都市報コラムニスト）、梁書民（中国農業科学院農業経済発展研究所副研究員）、呉曉佳（中国農業部農村経済体制・経営管理士主任科員）、江迅（亜洲週刊シニア特派員）、張巳瑛（愛自然教育コンサルティングセンターセンター長）、張玫（上海国際問題研究院研究員）、葉彤（生活・読書・新知三聯書店編集者）。 日本社会・文化などに触れる機会を提供することで日本についての理解を促進するとともに、日本人研究者、専門家等との交流・対話などを通じて個人的な関係を築くことにより将来的な日中間の知的ネットワークを形成

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
4	中国知識人・研究者グループ招へい	中国		2011.02.16 ～ 2011.02.28	日本研究を専門としないが対日理解・関心を促すことに長期的な効果が期待される研究者、有識者8名を中国から招へい。国務院台湾事務弁公室グループ（4名）（2011.02.16～21）及び共産党中央対外連絡部グループ（4名）（2011.02.21～28）が、それぞれ訪日、同分野の日本人研究者・専門機関とのネットワーク形成を促進
5	第6回日中韓文化交流フォーラム	中国 韓国	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	2010.11.15 ～ 2010.11.18	北東アジアにおける民間主導の文化交流を積極的に推進し、同地域の共同繁栄と発展に寄与することを目的に、日中韓3カ国の委員19名が一堂に会し薬師寺で開催。テーマは「東アジア共同体形成における文化の役割—過去・現在・未来—」
6	東南アジア若手イスラム知識人グループ招へい	インドネシア シンガポール タイ フィリピン マレーシア		2010.11.10 ～ 2010.11.19	東南アジア諸国の若手イスラム知識人を日本に招へいし、日本が歩んだ近代化の過程を紹介しながら意見交換を行い、ネットワーク構築をはかる事業。インドネシア5名、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポールから各1名の計9名を招へい
7	アチェの子どもたちと創る演劇ワークショップ 2010	インドネシア	コムニタス・ティカール・パンダン (Kommunitas Tikar Pandan)	2010.12.05 ～ 2010.12.12	インドネシアのアチェにおいて30年に亘って続いてきた紛争の終結後に、地域の復興と住民同士の信頼感の醸成を目的として平成19年度から実施している事業の最終年度。21年度に実施予定であったが、アチェ地域における外国人襲撃事件の発生により実施が延期されていたもの。 花崎 攝（はなさき・せつ：教育演劇専門家）、すずきこーた（教育演劇専門家）を派遣し、次世代を担う子どものエンパワーメントに主眼を置いたワークショップを実施。 別途知的交流会議（企画参画助成）〔アジア・大洋州〕プログラムにより、現地の共催団体に対し現地での実施経費を助成
8	南上座部仏教関係者招へい事業	ミャンマー スリランカ	ルフナ大学 ペラデニア大学 国際マビダルマ大学	2010.07.15 ～ 2010.10.31	アジア諸国から宗教学・宗教文化の専門家を講師として招へいし、宗教倫理、哲学、人類学などの学際的な視点から仏教とヒンドゥー教がもたらした精神文化を問い直し、アジアがともに手を取り合って建設的な未来を創造していくための基底文化である宗教とその役割について、宗教・宗派を超えた対話を行う知的交流事業を実施
9	「社会的企業をめぐる日韓会議」報告書作成	韓国	希望製作所	2010.04.01 ～ 2011.03.31	平成20、21年度に韓国希望製作所との共催で実施した2回の社会的企業をめぐる日韓会議「社会的企業が拓く日韓の新たな出会い」の成果をまとめ、報告書『社会的企業の自立は可能なのか』を作成
10	スリランカ文化人グループ招へい（事前調査）	スリランカ		2010.04.01 ～ 2011.03.31	今後の招へい実施のために、現地に足羽與志子（一橋大学教授）、佐藤万帆（笹川平和財団研究員）を派遣し、事前調査を実施

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (4) 人材育成グラント [アジア・大洋州]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 8,280,143 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	東アジアの百年を考える日韓ユースキャンプ	韓国	在日コリアン連合 (KEY) 東京	2010.08.02 ~ 2010.08.09	日韓両国で生活する多様な青年が、「東アジア」という視野の下で、両国の歴史・平和・人権問題について、フィールドワーク等を通じて共同で学び考えるプログラムを両国で連続開催することにより、両国の青年間の相互理解と対話関係を深めるとともに、今後の日韓青年交流事業の担い手を育成する
2	第25回日韓学生会議東京大会	韓国	日韓学生会議	2010.08.05 ~ 2010.08.19	日韓学生会議に所属する18名と韓日学生会議に所属する18名が通訳6名を交え、2週間にわたる共同生活を行いつつ、ボランティアやフィールドワーク調査などを通じて新たな日韓友好の方策を探求する
3	第1回日中韓模擬国連会議日本開催事業	日本	公益財団法人日本国際連合協会	2010.09.12 ~ 2010.09.16	日本、中国、韓国の若者を招へいし、模擬国連会議を実施する。また、各国の若者には日本文化に直接触れてもらうため、文化施設訪問を通じた国際交流を図る。最後には有識者を招き、日中韓それぞれの若者の意見を交換し、相互理解に努める
4	LEAFフォーラム2010 日本セッション	日本	Linking East Asian Future (LEAF) 日本実行委員会	2010.09.26 ~ 2010.10.02	日中韓の大学・大学院より約20名ずつ選ばれた計60数名の参加者が、日本において7日間の共同生活とフィールドワークを通じてリーダーシップを学び、東アジア地域の課題に対する解決策を提示し、東アジア地域の課題を解決するためのパートナーとなるような、生涯続く強い絆の獲得を目指す
5	北東アジア学生ラウンドテーブル	日本	北東アジア学生ラウンドテーブル	2011.01.12 ~ 2011.01.16	韓国及びモンゴルから大学生各5名を招き、共通の課題について忌憚のない意見交換と議論を深めると共に、これらを正式な国際会議の形式と手続きにて実施することにより、学生が将来、真の国際人となる実践の機会とするための国際会議、及び関連の交流活動を行う
6	第29回日中学生会議中国開催	日本 中国	第29期日中学生会議実行委員会	2010.08.06 ~ 2010.08.26	日中の学生が中国を舞台に、分科会での討論、文化交流、フィールドワークなどさまざまな活動を3週間にわたって行う中で、相互理解と友情を醸成し、学生からの日中友好を推進する。中国での本会議活動の前には、東京で2日間の事前合宿を行う。本会議での成果は、報告会などを通して社会へ発信する
7	日本の公益経済学習交流プロジェクト	日本	特定非営利活動法人日本エコツアーリズムセンター	2010.08.10 ~ 2010.09.13	上海で民間公益組織 (NGO) の設立と育成を行うNPI公益組織発展センターと協力し、上海万博期間中にソーシャル・イノベーション展示・交流施設The Nestで、中国国内外の社会的企業、NGOが集まる活動展示・交流プロジェクトに参加し、日中の公益経済分野の交流と相互理解、ネットワーク形成を図る
8	STeLA Leadership Forum 2010	日本	STeLA (Science and Rechnology Leadership Association) 日本支部	2010.08.15 ~ 2010.08.22	米国・フランス・中国・日本より計40名の学生を集め、中国・北京で、持続可能な科学技術発展のあり方をテーマとした講演・議論・共同作業などを通じて国際的リーダーの育成を行う

アジア・大洋州交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
9	京論壇 2010	日本	京論壇東京大学実行委員会	2010.09.15 ~ 2010.10.03	東京大学、北京大学の学部生・院生による日中の大学生間の討論・交流プログラム。北京セッション（9.15～21）、東京セッション（9.26～10.3）で構成。2週間寝食を共にしながら日中間の課題を話し合い、相互理解及び信頼醸成を目指すほか、報告会・報告書出版を通じて社会発信を行う
10	国際ワークショップ「歴史都市・京都における都市居住の現代的課題」	日本	NPO法人西山卯三記念 すま い・まちづくり文庫	2010.08.15 ~ 2010.08.20	日本の都市居住のあり方やそれに関する政策の現代的課題を学ぶためのワークショップを京都で開催。日本の住まい・町づくりの実態、研究上の課題、実践上の課題について学生が討議
11	第4回日本ベトナム学生会議 本会議	日本	日本ベトナム学生会議	2010.08.05 ~ 2010.08.22	学生という立場から日越友好に貢献するという理念のもと、将来を担う両国学生が率直な討論や交流活動を通じて、相互理解並びに友好を増進させる
12	第14期日本インド学生会議 本会議	日本	日本インド学生会議	2010.08.15 ~ 2010.09.11	日印間の相互理解を促進させるための草の根交流を目指す。日本とインドの両国の学生を主体とする国際学生会議の分科会、文化交流会、企業訪問などからなる本会議を日本側委員会として運営
13	災害に関するアジア諸国共同 トレーニング	日本	国際医学生連盟（IFMSA） 日本支部	2010.08.23 ~ 2010.08.24	近年アジアで多発する災害に対し、医療系学生の意識を高め、有事の際に中心となって災害医療に携わることのできる人材を育成

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 欧州・中東・アフリカ交流事業費

### 1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究ネットワーク強化（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究ネットワーク強化（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究機関支援〔欧州・中東・アフリカ〕

### 2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 長期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究フェローシップ（学者・研究者 短期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (4) 知的リーダー交流（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕

### 3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 人材育成グラント〔欧州・中東・アフリカ〕

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究ネットワーク強化 (主催) [欧州・中東・アフリカ]

学問分野を超えた日本研究者・研究機関相互の連携と協力を推し進め、各国・地域における中核的な知日層とわが国の長期的な関係を維持発展させるため、海外の日本関連学会や元日本留学生の組織化・活動を支援する。

合計額 2,482,380 円

	事業名	対象国	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	日本研究巡回セミナー	ウズベキスタン  ロシア	タシケント  モスクワ	ウズベキスタン日本人材開発センター  タシケント国立繊維・軽工業大学  モスクワ国立繊維大学		2010.10.09 ~ 2010.10.13	当該国における幅広い対日関心の喚起と、日本研究の活性化のために、織田晃（杉野服飾大学教授）と澤柳直志（デザイナー）を派遣し、「ユニバーサル・ファッション」をテーマに講演会を実施。日本のグローバルな知的貢献の事例として、日本社会における弱者や環境への眼差し、また、もの作りの伝統を紹介

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究ネットワーク強化 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

国境・学問分野を超えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 21,373,472 円

	助成対象機関	対象国	期間	事業内容
1	英国日本研究協会(BAJS)	英国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	英国日本研究協会の年次総会(ロンドン)について、日本からの基調講演者として参加する上野俊哉(和光大学教授)の旅費を支援(10.09.09~10)
2	北欧アジア研究研究所(NIAS)図書情報センター	デンマーク	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ニアスリンク(NIAS Link: 北欧5カ国の大学・研究機関連合の図書館部門)への日本関連データベース購入費用の支援
3	ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)	欧州地域区分困難	2010.04.01 ~ 2011.03.31	ヨーロッパ日本研究協会事務局運営及びウェブサイト・データベース作成・更新費を一部支援
4	フランス日本研究学会	フランス	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「愛」をテーマにフランス日本研究学会第9回国際大会をパリにて開催(10.12.16~18)。大会開催費用として、交通費、滞在費等を支援
5	ロシア日本研究者協会	ロシア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	学生論文コンクール、事務局経費、ウェブマガジン(Meet Japan)、教科書・紀要等出版助成
6	ハイファ大学	イスラエル	2010.04.01 ~ 2011.03.31	第9回イスラエル・アジア研究年次学会をハイファにて開催(10.04.26~27)
7	トルコ日本研究学会	トルコ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「2010年トルコにおける日本年」事業の一環として、1993年に発足し、現在約100名の会員がいるトルコ日本研究学会の「トルコ日本研究会議」(イスタンブール)開催を支援

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援 [欧州・中東・アフリカ]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的かつ中・長期的に行い、当該国の日本研究の基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 59,157,261 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	国立アイスランド大学	アイスランド	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究分野の図書を寄贈
2	アイルランド国立大学ヨーク校	アイルランド	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究分野の図書を寄贈
3	ヴェネチア大学 (カ・フォスカリ大学)	イタリア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	イタリア最大の同大学日本研究学部専属図書館の充実、「近代と現代日本における死と欲望」をテーマとする国際会議、「日本の近・現代宗教運動」に関する集中講義のため、島蘭進 (東京大学教授) の客員教授派遣及び日本語・日本文学等の講義を担当する教員の雇用経費助成
4	エディンバラ大学	英国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「現代日本社会」「日本語」等の講義を担当する教員の雇用経費助成
5	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS)	英国	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本経済分野の研究者を専任教員として雇用する経費を助成
6	バルセロナ自治大学通訳・翻訳学部	スペイン	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「日本語」「日本文学」「日本のポップカルチャー」等の講義を担当する教員の雇用経費助成
7	ケルン大学	ドイツ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究分野の図書を寄贈
8	ハイデルベルク大学	ドイツ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	世界で初めて設置された日独語の通訳養成修士課程に対する支援の2年目。実践的な講義を担当する教員の雇用経費助成
9	ボン大学人文学部	ドイツ	2010.04.01 ~ 2011.03.31	馬場章 (東京大学大学院学際情報学府教授) を客員教授として派遣。「コンテンツビジネスと東アジア共同体」をテーマにした国際会議への支援をしたほか、日本研究分野の図書寄贈及びボン大学の研究者7名の訪日研修を支援
10	オスロ大学	ノルウェー	2010.04.01 ~ 2011.03.31	巽孝之 (慶応義塾大学教授) を日本から派遣し、集中講義及び国際会議を実施。また日本研究分野の図書も寄贈
11	パリ国立政治学財団	フランス	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本講座 (ジャパン・チェア) への支援。前期 (10~2月) に駒田泰士 (上智大学准教授) が、後期 (2~6月) に吉田徹 (北海道大学准教授) が集中講義を実施
12	ルーヴァン・カトリック大学 (EAJRS)	ベルギー	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究分野の図書を寄贈
13	タシケント国立東洋学大学	ウズベキスタン	2010.04.01 ~ 2011.03.31	客員教授として下斗米伸夫 (法政大学教授)、青木三郎 (筑波大学教授) を派遣。国際関係論及び文化と言語についての講義を実施。
14	ザグレブ大学哲学部	クロアチア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究分野の図書を寄贈
15	コメニウス大学	スロバキア	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本研究分野の図書を寄贈
16	エオトヴェシ・ロラーンド大学	ハンガリー	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本語・日本文学関連の講義を担当する教員の雇用経費の助成



欧州・中東・アフリカ交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
17	ヴィタウタス・マグヌス大学	リトアニア	2010.04.01～2011.03.31	池上嘉彦（昭和女子大学教授）を客員教授として派遣。シンポジウム「ヨーロッパ・メディアにおいて表象された日本—その分析方法論と理論」及びその成果出版を助成。日本研究分野の図書を寄贈
18	ロシア極東国立総合大学付属東洋学大学	ロシア	2010.04.01～2011.03.31	ホワンチュク（同大学准教授）のモスクワにおける国内研修及び研究成果である『日本とロシア沿海州：相互理解への道』の出版助成
19	エルサレム・ヘブライ大学	イスラエル	2010.04.01～2011.03.31	堀田江理（日本近現代史研究者）を客員教授として派遣し、学部及び大学院生に対する政治学・歴史学に関する講義を実施
20	バグダッド大学文学部歴史学科	イラク	2010.04.01～2011.03.31	イラクにおける日本研究の維持・向上のため、イラク（エルビル市）にて日本—イラク間学術交流を行う会議を実施
21	テヘラン大学外国語・外国文学部	イラン	2009.09.01～2010.06.30	テヘラン大学日本語学科において翻訳論、日本思想論を担当する研究者の雇用経費助成
22	テヘラン大学外国語・外国文学部	イラン	2010.04.01～2011.03.31	五十嵐小優粒（大阪産業大学非常勤講師）及び近藤正憲（愛媛女子短期大学非常勤講師）を客員教授として直接派遣し、日本文化交流史及び日本語教授法等に関する集中講義を実施
23	テヘラン大学世界研究学部	イラン	2010.04.01～2011.03.31	モハマト・ナギザデ（Mohammed Naghizadeh：明治学院大学教授）を客員教授として直接派遣し、日本経済の講義を実施
24	ダマスカス大学	シリア	2010.04.01～2011.03.31	松尾昌樹（宇都宮大学国際学部准教授）を客員教授として直接派遣し、学部学生へ現代日本社会事情の講義及び研究論文の執筆指導を実施
25	バフチェシェヒル大学	トルコ	2010.04.01～2011.03.31	日本の建築、庭、デザイン等を中心とした図書を寄贈
26	アインシャムス大学外国語学部	エジプト	2010.04.01～2011.03.31	大学院生等に対して、今井雅晴（筑波大学教授）による文学批評論に関する講義及び遠隔論文指導を実施
27	カイロ大学政治経済学部アジア研究センター	エジプト	2010.04.01～2011.03.31	日本の政治経済に関わる導入的講義と専門性の高い講義を提供する日本研究集中講義を支援
28	プレトリア大学ゴードン経営学研究所	南アフリカ	2010.04.01～2011.03.31	新設される日本研究センターに、ビジネス関連書籍及びDVDを中心に図書寄贈を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ (学者・研究者 長期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 61,105,360 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	CENTONZE, Katja	カラブリア大学 非常勤講師	イタリア	早稲田大学演劇博物館	2009.06.13 ~ 2010.05.11	身体論と技術：舞台芸術から土方巽の舞踏へ。パフォーマンスとテキストにおける身体とメディアをめぐって
2	BRUCE, David Simon	ロンドンメトロポリタン大学 上級講師	英国	京都大学経済学部	2009.10.01 ~ 2010.09.30	グローバリズムと日本経済に関する図書執筆
3	GARDINER, Michael	ウォーリック大学 助教授	英国	青山学院大学	2009.12.14 ~ 2010.06.12	欧米の文学論における世界文学論と1920~1970年日本文学におけるモダニズム
4	GERMER, Andrea	ニューキャッスル大学 日本学 講師	英国	広島市立大学	2010.07.01 ~ 2011.06.30	日本とドイツの戦時ビジュアル・プロパガンダ：文化、民族、ジェンダーに関する比較
5	GERSTLE, Andrew	ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 教授	英国	立命館大学	2009.09.11 ~ 2010.09.10	十八世紀の女性向け教訓書とその春本パロディ
6	HANSEN, Paul Simon	ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) 研究員	英国	国立民族学博物館	2009.06.14 ~ 2010.06.13	日本の都市生活におけるペットと家族の結びつき
7	PATESSIO, Mara	マンチェスター大学言語学部 講師	英国	お茶の水女子大学ジェンダー研究センター	2010.07.01 ~ 2010.09.12	長谷川時雨と近代日本女性史
8	STEGEWERNS, Dick	オスロ大学文化研究・東洋言語学部 准教授	オランダ	京都大学人文科学研究所	2011.01.15 ~ 2011.12.14	戦争の再演：戦後日本映画における自己と他者の表現
9	KAVALLARIS, Faidros	作曲家	キプロス	東京藝術大学	2010.12.01 ~ 2011.11.30	松風とオイディプス王・能と古代ギリシャ劇の歌詞、音楽及び構成
10	BORGGREEN, Gunhild	コペンハーゲン大学芸術・文化研究科 助教授	デンマーク	東京藝術大学音楽学部 音楽環境創造科	2011.02.01 ~ 2011.07.31	芸術と技術：日本のロボットの視覚文化
11	SCHOLZ, Stanca Emilia	トリア大学日本学科教授、日本学科長	ドイツ	早稲田大学演劇博物館	2010.10.01 ~ 2011.02.28	社会批判と現代日本における政治演劇の声
12	MIDFORD, Paul	ノルウェー科学技術大学 社会・政治学科 助教授	ノルウェー	同志社大学法学部	2010.07.20 ~ 2011.07.19	東アジアにおける多国間の安全保障協力—安心感を高める論理と日本のリーダーシップ
13	PEETERS, Bruno Henri Albert	セント・ルーカス大学 教授	ベルギー	東京大学大学院新領域創成科学研究科	2010.02.01 ~ 2011.01.28	高齢化、縮小化する社会状況における日本の都市計画の潜在性、転換の可能性及び再評価
14	PYANOVA, Elena Viktorovna	タシケント国立東洋学大学歴史学部 講師	ウズベキスタン	早稲田大学	2010.10.01 ~ 2011.07.30	近代日本研究：久米邦武の経験に学ぶ宗教、教育と進歩について

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
15	TUYCHIEV, Muchiddin	タシケント国立東洋学大学 研究員	ウズベキスタン	法政大学	2010.06.10 ~ 2011.05.31	日本と上海協力機構から考える、アフガニスタンの安全保障と安定への道
16	BEKES, Andrej	リュブリャナ大学 正教授	スロベニア	東京工業大学	2010.02.01 ~ 2010.09.30	南不二男による文の階層構造モデルの話し手・聞き手の確立論的言語能力モデルとしての再解釈：日本語会話における統語的共起のコーパス研究
17	SATO, Noriko	ブタペスト商科大学 准教授	ハンガリー	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科	2010.05.23 ~ 2010.10.02	ハンガリーの日系企業における通訳者の役割－企業内通訳(者)の役割に対する期待と通訳者の職業意識－に関する研究
18	BATOR-LUKASIEWICZ, Joanna Maria	ポーランド科学アカデミー 上級准教授	ポーランド	東京工業大学大学院社会理工学研究科	2010.10.01 ~ 2011.09.30	おたく文化とそのジレンマ
19	MAJEWICZ, Alfred Franciszek	アダム・ミツケヴィチ大学東洋研究所日文学科 正教授	ポーランド	埼玉大学教養学部	2011.01.10 ~ 2011.11.09	B.ピウスツキとW.シェロシェフスキの観た明治期の日本（百年後遠景）
20	STARECKA, Katarzyna Violetta	ワルシャワ大学 助教授	ポーランド	東京大学文学部・大学院人文社会系研究科	2010.02.17 ~ 2011.02.16	近・現代日本における愛国心教育の問題点
21	KOVALCHUK, Marina Konstantinovna	極東国立総合大学東洋学大学 助教授	ロシア	大阪大学大学院言語文化研究科	2009.07.05 ~ 2010.06.30	日清戦争期の日本の新聞に見るロシアとイギリス『国民新聞』と『時事新報』の見解・比較的分析
22	STONOGINA, Yulia Borisovna	国際ビジネス・コミュニケーション協会ロシア支部 国際関係担当副会長	ロシア	新潟経営大学	2010.09.01 ~ 2011.03.15	日露ビジネスにおける現代社会・文化のアスペクト
23	BEJARANO, Shalmit	ピッツバーグ大学 美術・建築史学科	イスラエル	神奈川大学	2010.09.28 ~ 2011.09.27	伝承とカノン：近代画譜における耕作モチーフの検討
24	PASHAEI, Nastaran	ファララバン出版 翻訳者	イラン	北海道大学	2010.06.10 ~ 2010.12.09	『法華経』に関する芸術と曼荼羅及びその日本芸術・文化における位置づけに関する研究
25	SALEH, Adel Amin Mahmoud	カイロ大学日本語日本文学科 専任講師	エジプト	早稲田大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	世界における日本型の国語形成の位置づけ：欧米諸言語とアラビア語の対比において

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (論文執筆) [欧州・中東・アフリカ]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要がある者を招へいする。

合計額 77,842,564 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	WALSH, Dermott	ライデン大学 博士課程	アイルランド	京都大学	2011.01.15 ~ 2012.03.14	「空」の問題と近代日本哲学の倫理
2	CLOSE, Natalie Frances	オーストラリア国立大学 博士課程	英国	上智大学	2010.06.13 ~ 2011.09.12	日本の都市の共同体による祭のアイデンティティと役割
3	SEIDL, Bernhard	ウィーン大学東アジア研究所 非常勤講師	オーストリア	東京国際大学	2009.08.17 ~ 2010.08.16	日本語は「回帰」するのか：日本のポップス曲歌詞に見る外来語使用の変化とその社会的意義について
4	SEIGER, Fiona-Katharina	シンガポール国立大学 博士課程	オーストリア	龍谷大学	2010.09.15 ~ 2011.01.14	日本とフィリピンにおける日系フィリピン人青年：移住の軌跡によるアイデンティティ構築と再構築
5	DOGLIA, Arnaud	ジュネーブ大学東洋学部 教員 助手/博士課程	スイス	東京外国語大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	現代日本における過去の構築と脱構築：日本の戦争残虐の集合的記憶の形成
6	HUTTER, Roland Ryu	チューリッヒ大学文学部 美術史学科東洋美術史研究室 博士課程	スイス	国立歴史民族博物館	2010.06.30 ~ 2011.08.30	輪島漆器が「日本一」と呼ばれる理由について
7	GUSTAFSSON, Karl Anders	ストックホルム大学 博士課程	スウェーデン	東京大学	2009.05.15 ~ 2010.07.11	日中関係の記憶とアイデンティティ：平和・戦争記念館の事例から
8	LOPEZ-VIDAL, Lluç	ボンペウ・ファブラ大学 講師	スペイン	慶応義塾大学	2009.05.17 ~ 2010.04.03	冷戦後の日中関係における安全政策、ヘッジへの戦略？
9	MORENO, Nieves	マドリッド自治大学 博士課程	スペイン	早稲田大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	日本映画における活弁の思考と定着 (1908-1915)
10	FERSTL, Katja	ミュンヘン大学 博士課程	ドイツ	東京大学	2009.06.13 ~ 2010.06.12	現代日本の消費行動における私的写真の役割：年齢・ジェンダーを特定した比較
11	LANGE, Julia Janine	ボッフム大学東アジア研究部 日本史学科 専任講師	ドイツ	一橋大学	2010.05.10 ~ 2011.05.09	移民、文化、統合：東京のラテンアメリカ人
12	MELZER, Juergen	プリンストン大学東アジア研究学部 博士課程	ドイツ	東京大学 大学院総合文化研究科	2010.09.01 ~ 2011.08.31	戦間期における日本の航空開発とドイツ
13	SCHMIDT, Jan	ボッフム大学東アジア研究部 日本史学科 専任講師	ドイツ	一橋大学	2009.10.06 ~ 2010.04.05	いわゆる「欧州大戦」—1914年から1938年まで日本における第一次世界大戦と列国戦時下の動員体制の受容と解釈

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
14	CASTEL, Coralie Yolande	ナンテール大学 博士課程	フランス	多摩美術大学	2010.09.01 ~ 2011.08.31	日本における自己表現—社会的な視点からの「プリクラ」研究
15	TAJAN, Nicolas	トゥルーズ第二大学 博士課程	フランス	京都大学	2011.03.15 ~ 2011.05.14	日仏ひきこもり比較研究
16	MOSKALYOV, Dmitriy Petrovich	ウクライナ国立科学アカデミー付属東洋学研究所大学院生	ウクライナ	北海道大学スラブ研究センター	2010.06.01 ~ 2010.06.30	現代日本語におけるモダリティの文末の複合表現
17	NAGORNA, Valentyna	交通経済工業国立大学 助手	ウクライナ	天理大学国際文化学部	2010.06.01 ~ 2011.05.31	多義語・同音異義語・オノマトペ語から見た日本語の構造と特性（対照的な分析視点から）
18	KAVEDZIJA, Iza	ザグレブ大学 研究助手	クロアチア	大阪大学	2009.09.17 ~ 2010.11.16	よき生活、理想の家—現代日本において変化している「グッド・ライフ」についての考え
19	MATOSEC, Matjaz	ユトレヒト大学人文学部 博士課程	スロベニア	立命館大学	2011.01.20 ~ 2011.07.19	オペラのカストラートと歌舞伎の女形の比較—声に着目して
20	PLSEK, Ivo	カリフォルニア大学 博士課程	チェコ	東京大学社会科学研究所	2010.09.01 ~ 2011.08.31	日本のエリートと戦後和解：1920年代から80年代にかけての政治の連続性
21	VASZKUN, Balazs	コルヴィヌス大学 博士課程	ハンガリー	早稲田大学	2009.10.01 ~ 2010.08.31	ネットワーク経済の構造と特徴：限界と利益
22	TODOROVA, Albena	ソフィア大学 非常勤講師	ブルガリア	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部現代文芸論研究室	2010.08.01 ~ 2011.09.30	『アンナ・カレーニナ』と『或る女』における女性像の比較研究
23	GLUCH, Dariusz	ワルシャワ大学東洋学研究所 博士課程	ポーランド	東京大学大学院人文社会系研究科	2010.11.01 ~ 2011.12.31	テキストによる言語間的コミュニケーションの実用論。日本語における和文と対照した漢文の問題
24	RUTKOWSKA, Iga Katarzyna	ワルシャワ大学東洋学部 博士課程	ポーランド	東京大学文学部・大学院人文社会系研究科	2009.09.30 ~ 2010.06.29	地芝居と中央歌舞伎比較研究。田舎における町人演劇
25	SONNENBERG, Katarzyna Anna	ヤギエロン大学 博士課程	ポーランド	お茶の水女子大学	2009.09.28 ~ 2010.11.27	樋口一葉の日記・作品における女性のイメージ
26	RUSU, Renata Maria	バベシュボヨイ大学 博士課程	ルーマニア	浜松学院大学	2009.07.05 ~ 2010.09.04	日本の神話や祭事における世界軸
27	KOROLEVA, Maria	モスクワ大学 博士課程	ロシア	早稲田大学法学学術院	2010.05.10 ~ 2011.02.09	現代日本における過去の構築と脱構築：日本の戦争残虐の集合的記憶の形成
28	LEBEDEVA, Ekaterina	ロシア極東国立人文大学 専任講師	ロシア	大阪大学大学院・言語文化研究科	2010.07.01 ~ 2011.08.31	日本語における慣用表現の発生と発達（通時的研究）—6～8世紀の歴史的記録と文学作品を焦点に—

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
29	TYZHINOVA, Natalia Alexandrovna	バイカル国立経済法科大学 博士課程	ロシア	京都大学大学院経営管理研究部	2009.08.28 ~ 2010.08.27	日本における生命保険
30	DOTAN, Oshrat	テルアビブ大学 博士課程	イスラエル	多摩美術大学	2009.09.05 ~ 2010.09.04	見えない世界へ：もの派における視覚と知覚の様相、1968～1971
31	ZWIGENBERG, Ran	ニューヨーク市立大学大学院センター 博士課程	イスラエル	広島市立大学国際学部	2009.06.26 ~ 2010.06.25	沈黙の記憶：広島平和祈念館
32	ATAY, Aysegul	アンカラ大学文学部日本語日本文学科 助手	トルコ	国立国語研究所	2009.05.31 ~ 2010.05.30	日本語のタ形とトルコ語の過去形
33	SAHIN, Esra-Gokce	ハーバード大学文学部社会人類学部 博士課程	トルコ	東京大学総合文化研究科	2010.09.01 ~ 2011.10.31	ユーモアの観点から見る社会事情
34	YAVUZ, Nilgun	アンカラ大学社会科学研究所言語学科外国語教育科 博士課程	トルコ	東京外国語大学	2010.08.15 ~ 2011.02.14	第二言語としての日本語及びトルコ語におけるスクランブル性習得の比較研究
35	EBEID, Ehab Ahmed	カイロ大学文学部日本語日本文学科 准講師	エジプト	京都大学大学院文学研究科	2009.07.17 ~ 2010.09.16	日本語とアラビア語の「トコロ性」
36	ELNOBY, Mohamed Hassan Mohamed	芸術アカデミー演劇高等研究所演劇批評学部 講師	エジプト	九州大学	2009.10.02 ~ 2010.12.01	1960年代の日本とエジプト演劇の比較研究：別役実とアルフレッド・ファッラーク
37	NOUR, Safaa Mahmoud Mohamed	カイロ大学文学部日本語日本文学科 助講師	エジプト	東京大学	2010.10.01 ~ 2011.11.30	日本とエジプトにおけるフェミニズム
38	SIALI, Nabila	モハメド5世大学法学部社会科学学科 博士課程	モロッコ	札幌学院大学	2010.06.08 ~ 2010.12.07	日本開発モデルにおける文化的様相

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェロシップ(学者・研究者 短期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 13,072,341 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
1	NEGRI, Carolina	ナポリ大学「オリエンターレ」	イタリア		2011.01.27 ~ 2011.03.12	紫式部日記の翻訳と研究
2	LLOYD, Fran	キングストン大学 教授	英国		2010.09.01 ~ 2010.10.01	ダムタイプ：介入の芸術
3	MAUDE-ROXBY, Alice	キングストン大学写真学科 コースディレクター	英国		2010.06.22 ~ 2010.07.15	美学校－1969年以降の日本の前衛芸術教育の影響に関する調査

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ
4	FERNANDEZ ENGUITA, Mariano	サラマンカ大学	スペイン		2010.06.16 ~ 2010.07.15	変化する社会の教育システム：日本とスペインのケース比較
5	SHIRAISHI, Minoru	バルセロナ自治大学	スペイン		2010.07.01 ~ 2010.08.28	日本美術における東アジア美術の影響
6	DIETCH, Marcel	オックスフォード大学政治・国際関係学部 博士課程	ドイツ		2010.09.20 ~ 2010.10.24	天然ガス製造協力の政治経済：カルテル化と市場力
7	SCHULZ, Evelyn	ミュンヘン大学日本センター 教授	ドイツ		2011.03.01 ~ 2011.04.27	現代日本における都市論—スローシティとコンパクトシティの発想を中心に
8	GALAN, Christian	トゥールーズ・ル・ミライユ大学	フランス		2010.09.08 ~ 2010.10.08	日本における学区制と教育改革
9	MARQUET, Christophe	国立東洋言語文化学院 (INALCO) 日本語・日本文化学部 学部長	フランス		2010.07.13 ~ 2010.09.09	大岡春卜（おおおか・しゅんぼく）の草稿本と肉筆絵画の研究
10	KITSNIK, Lauri	タリン大学	エストニア		2010.10.19 ~ 2010.12.12	日本文学の映画化
11	HANOVA, Marketa	プラハ国立美術館アジア館 学芸員	チェコ		2010.07.03 ~ 2010.07.25	チェコにおける浮世絵の見立について
12	MATOUSEK, Roman	ロンドンメトロポリタン大学 主任講師	チェコ	横浜国立大学経営学部	2010.07.18 ~ 2010.08.27	日本の銀行の効率性と金融政策態度について
13	GUREVICH, Tatiana Mikhailovna	モスクワ国立国際関係大学 主任教授/日本語学科長	ロシア		2010.10.28 ~ 2010.12.25	日本語で表す世界
14	DALIOT-BUL, Michal	ハイファ大学 准教授	イスラエル		2010.08.01 ~ 2010.09.28	トライバル・メディア、高まった現実性、観桜と親密：携帯小説のケース
15	ESENBEL, Selcuk	ボガジチ大学 教授	トルコ		2010.06.15 ~ 2010.08.12	山田寅次郎の研究

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 / (4) 知的リーダー交流 (招へい) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 20,487,057 円

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ・事業内容
1	TRYPOLSKA, Galyna	ウクライナ国立科学アカデミー付属経済予測研究所 研究員	ウクライナ	京都大学大学院農学研究科	2010.05.31 ~ 2011.03.31	日本の農業セクターの潜在的エネルギーの利用：ウクライナ、バイオマス産業政策への教訓
2	RAKHIMOV, Mirzokhid	ウズベキスタ科学アカデミー歴史学研究所現代史・国際関係部 部長	ウズベキスタン	北海道大学スラブ研究センター	2010.03.03 ~ 2010.04.28	日本と中央アジア～多国間協力の現状と展望
3	SAIDKHODJAEVA, Malika Anvarovna	ウズベキスタン共和国科学アカデミー経済研究所投資・革新部 博士課程	ウズベキスタン	財団法人貿易研修センター	2010.07.15 ~ 2010.08.27	ウズベキスタンにおける省エネ戦略のマクロ経済的アспект (日本の省エネ戦略の調査：現行プログラムの発展と計画の経験)
4	BAKYTZHANOVA, Zhuldyz Mukhtarovna	教育科学省経済研究所 研究者	カザフスタン	中央アジア・コーカサス研究所	2010.07.31 ~ 2010.08.30	カザフスタンと日本の協力関係：グローバルな経済統合のもとでの発展の方法
5	JAVAKHISHVILI, Nino	トビリシ国立大学社会政治学科 心理学教授	グルジア	早稲田大学文学学術院	2010.09.25 ~ 2010.11.24	日本とグルジアの若者民族・宗教・政治姿勢に関する異文化比較
6	VISTOROPSKI, Nika	デロ出版社 記者	スロベニア	朝日新聞社	2010.10.16 ~ 2010.12.15	日本における女性の日常
7	MITROVIC, Dragana	ベオグラード大学政治学部 教授	セルビア	同志社大学	2010.06.11 ~ 2010.07.22	現代日本の政治経済
8	KRUDY, Tamas Geza	『ELLE HUNGARY』 編集者	ハンガリー	名古屋大学大学院教育発達科学研究科	2010.05.27 ~ 2011.07.18	現代日本社会における家族の役割—家庭と社会における女性の役割に焦点をあてて
9	TARROSY, Istvan	ペーチ大学アフリカ研究センター 准教授	ハンガリー	籠谷大学法学部	2010.11.07 ~ 2010.12.14	21世紀における国際的秩序の変化とアフリカ・アジアの協力を踏まえた日本とアフリカの関係
10	DUL, Robert Andrzej	ワルシャワ民族博物館 シニアキュレーター	ポーランド	国立文化財機構 東京文化財研究所	2010.09.21 ~ 2010.11.16	日本の現代文化、文化教育政策における無形文化遺産の役割
11	NAZARKO, Lukasz	ビャウイストック工科大学 研究・教育助手	ポーランド	東京大学生産技術研究所	2010.08.15 ~ 2010.09.30	イノベーションにおける科学技術予測法のインパクト
12	AHMETOVIC, Emina	エコボット トゥズラプロジェクトアシスタント兼コーディネーター	ボスニア・ヘルツェゴビナ	神戸大学大学院経済学研究科	2010.07.05 ~ 2010.08.29	日本の環境政策とその経済発展への影響
13	SPRUDS, Andris	リガ・ストラディン大学 ヨーロッパ学部 准教授	ラトビア	財団法人日本エネルギー経済研究所	2010.10.02 ~ 2010.11.14	ロシアのエネルギー政策の比較評価：ヨーロッパとアジアのベクトルから
14	PANZARU, Ioan	ブカレスト大学 学長	ルーマニア		2011.01.01 ~ 2011.03.31	日本の文化・教育機関の訪問、関係者との意見交換を実施



欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	所属国	受入機関	期間	研究テーマ・事業内容
15	POPA, Viorel	ルーマニア国立地震災害 軽減センター 所長	ルーマニア	日本建築防災協会	2010.07.06 ~ 2010.08.16	日本における地震災害予防
16	ZAHID, Hidayatullah	大統領府 官房長顧問	アフガニスタン	財団法人日本エネルギー 経済研究所中東研究セン ター	2011.02.14 ~ 2011.02.25	日本の議会と行政システムの研究
17	SWIDAN, Rajaa	ナジャーハ大学 助教授	イスラエル	北海道大学大学院教育学 研究科	2010.10.24 ~ 2010.12.09	日本の人材開発：初等、中等、高等教育を統合 することで生じる影響について
18	AL-MANSHI, Hayder Mohammed Abdul-Hameed	バグダッド大学 講師	イラク	広島大学大学院国際協力 研究科開発科学専攻	2010.06.25 ~ 2010.08.24	環境状況・基準・態度の改善と整備に対する日 本の経験と実践的手順
19	POUR ROSTAMI, Nahid	テヘラン大学世界研究部 日本研究科 教授	イラン	拓殖大学国際学部	2010.07.15 ~ 2010.08.12	制度改革に伴う日本の経済分野における挑戦。 第二次世界大戦後の日本経済レビュー
20	ALJABER, Khalid Jamal	文化・芸術省青年総合課 付属文化・創造センター 理事	カタール	一橋大学	2010.09.14 ~ 2010.10.14	日本の文化と教育システム
21	HILMI, Hind Abbas	ハルツーム大学 准教授	スーダン	神戸大学大学院国際協力 研究科	2010.06.15 ~ 2010.07.15	南北包括和平合意（CPA）後のスーダンにおけ るメディアパフォーマンス
22	CORNELISSEN, Scarlett	ステレンボッシュ大学 准教授	南アフリカ	一橋大学大学院社会学研 究科	2010.07.19 ~ 2010.09.06	21世紀における日本の対南アフリカ経済政治協 力：動きと展望

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議 (主催) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議、セミナー、ワークショップ等) を開催する。

合計額 29,186,157 円

	事業名	対象国	共催機関	期間	事業内容
1	シンポジウム「新しいMuseology—文化遺産と現代文化の融合を求めて」	英国	セインズベリー 日本芸術研究所	2010.09.13	マンガを活用して効果的に文化遺産を紹介した大英博物館の「縄文土偶展」や文化遺産を活用した「まちおこし」を進める青森県立美術館の事例を紹介するシンポジウム「新しいMuseology—文化遺産と現代文化の融合を求めて」を東京にて開催。美術館・博物館における展示手法のイノベーション、文化遺産と現代文化の融合、そして美術館・博物館の社会的に果たすべき役割やMuseology (美術館・博物館学) の新たな方向性について議論
2	ブリティッシュ・カウンシルとの社会起業に関する共同事業	英国	ブリティッシュ・カウンシル	2010.11.15 ~ 2010.11.17	「社会起業家支援『東アジア地域国際シンポジウム』(於:バンコク)への参加者派遣事業」として、ブリティッシュ・カウンシルとの共催で、日本の若手社会起業家15名をバンコクに派遣
3	国際シンポジウム「女性のエンパワーメント」	スペイン	セルバンテス文化センター東京  在日オランダ大使館  在日ノルウェー大使館	2010.06.12	女性のエンパワーメントについて、英国(1名)、オランダ(2名)、スペイン(3名)、ドイツ(1名)、ノルウェー(2名)から識者が集まり、日本側参加者(6名)と、経験と意見を交換するシンポジウムを実施
4	デザインの地方力	ドイツ	ベルリン日独センター  ヴィトラ・デザイン美術館	2010.05.22	日本とドイツにおける近・現代工業デザインにおける「地方」の力に注目し、首都/地方、ハイテク/ローテク、工業/工芸といった一見対立するものの調和を考え、地方の底力について今後の可能性を模索する会議を、ドイツ、ヴァイル・アム・ラインにあるヴィトラ・デザイン美術館の協力を得て開催
5	外交の再考:新たな方法論と挑戦	ドイツ	コンラート・アデナウアー財団	2010.08.31	ドイツのコンラート・アデナウアー財団と共催し、東京にて非公開討論および公開シンポジウム「外交の再考:新たな方法論と挑戦」を開催。韓国、中国、シンガポール、タイ、ドイツから各1名、日本から3名の専門家が参加
6	国際会議「異文化交流の視点から見た人間とロボットのインターフェース」	ドイツ	ベルリン日独センター	2010.12.07 ~ 2010.12.08	少子高齢化が進む日本とドイツにおいて、ロボットを生かした介護、看護に注目し、ロボット工学の可能性を検証。機械と人間のインターフェース、ロボットが高齢化問題に果たしうる役割の可能性、日常生活におけるロボット受容の成功例などを、日独比較の視点から議論する会議「異文化交流の視点から見た人間とロボットのインターフェース」を、ベルリンで開催。工学系の学者、研究者をはじめ、行政、社会科学系の学者、牧師など、ドイツから12名、日本から8名の参加者が討議

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	共催機関	期間	事業内容
7	平和のための文化イニシアティブの役割	西欧地域区分困難	ゲーテ・インスティトゥート	2010.05.28 ~ 2010.05.29	平和構築のために文化及び文化関連事業が果たしうる役割について、国際交流基金とゲーテ・インスティトゥートの事例を持ち寄り戦略的な対話を開催。国際交流基金による事例研究をもとに、双方の事業の紹介などを海外拠点職員やアーティストを交えて実施。2011年5月にゲーテ・インスティトゥートのサラエボ事務所開設10周年記念行事の一環としてサラエボにて開催
8	アルザス日欧知的交流事業／明治セミナーII	西欧地域区分困難	アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)	2010.09.24 ~ 2010.09.25	欧州域内若手日本研究者による合宿形式のセミナー。アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)との共催事業。欧州内の若手日本研究者のネットワーク構築と当該テーマにおける汎領域的研究の深化を目指す事業。広範な分野、専門性を持った有識者が参加しうるテーマとして前年に引き続き「明治」を設定し、御厨貴(東京大学教授)を講師として派遣
9	ソーシャル・ファーム／欧州関係者招へい及びシンポジウム	西欧地域区分困難		2011.01.30	欧州よりソーシャル・ファーム(社会的企業の一つであり、障害者など就業に不利のある人々の雇用を目的としながらも、一般の市場で活動する企業)関係者を招へいし、地方都市を視察後、東京にてシンポジウム「ソーシャル・ファームを中心とした日本と欧州の連携」を開催。英国(2名)、スウェーデン(1名)、デンマーク(1名)、フィンランド(1名)、セルビア(1名)及び日本から4名のパネリストが参加した。 欧州におけるソーシャル・ファームを国内に紹介するとともに、今後の連携の可能性を探る事業として実施
10	「多文化共生都市」セミナー	西欧地域区分困難		2011.01.19	2010年10月に実施されたスイスとイタリアの「インターカルチュラル・シティ(多文化共生都市)」視察の報告を行い、インターカルチュラル・シティの取り組みを参考に、東京における自治体の多文化共生の取り組みの現状と今後の課題を探るセミナーを実施。西川太一郎(荒川区長)、中山弘子(新宿区長)等が登壇
11	インターカルチュラル・シティと多文化共生	西欧地域区分困難	欧州評議会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	平成21年度に実施した事業「インターカルチュラル・シティと多文化共生」のフォローアップとして、報告書『インターカルチュラル・シティと多文化共生』の増刷及び報告会を実施
12	講演会「後藤新平と日露関係のイメージ」	ロシア		2010.07.21	ワシーリー・モロジャコフ(MOLODIKOV, Vasiliĭ: 拓殖大学教授)を講師に招き、日露協調推進者としての後藤新平の知られざる業績と、日露関係のイメージ形成における貢献について講演会を実施
13	ロシア若手日本研究者短期グループ招へい	ロシア		2011.03.06 ~ 2011.03.13	ロシア国内の20~30代の日本研究者、日本でキャリアを積みロシア人研究者及び、日本人の若手研究者の三者による研究交流を行う目的で、ロシア国内の若手日本研究者計10名を招へい。訪日研修を実施。日本研究を将来の道として考えるロシアの若手研究者支援
14	マグレブ知的交流巡回セミナー	モロッコ、フランス		2011.01.31 ~ 2011.02.07	深川由起子(早稲田大学教授)、園部哲史(政策研究大学院大学)をモロッコ、フランスに派遣し、人材育成協力における日本のモデルについて両国でセミナーを実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	共催機関	期間	事業内容
15	公開シンポジウム「中東の今と日本： 私たちに何ができるか」	中東地域区分困難	東京外国語大学	2010. 11. 23	日本人ジャーナリストの拘束事件も起きた混迷が続くアフガニスタン、協議が再び始まった中東和平交渉、エネルギー及び環境分野で日本と交流ある湾岸諸国との関係をテーマに研究者・実務者計11名による公開シンポジウムを開催

欧州・中東・アフリカ交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業 (国際会議等) に対し、経費の一部を助成する。

合計額 58,232,371 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	第20回日本語・韓国言語学会議	英国	オックスフォード大学	2010.04.01 ~ 2011.03.31	毎年行われている日本語・韓国言語学会議の第20回目を英国・オックスフォード大学にて開催。これまで米国で行われてきたが、今回初めて欧州にて実施
2	国際会議「日本—国際的な役割の増加」	英国	ウィルトン・パーク	2010.06.01 ~ 2010.11.30	英国外務省の外郭団体であるウィルトンパークの主催にて、国際会議「日本—国際的な役割の増加」を英国のウェスト・サセックスにて実施。日本の新政権の外交政策をテーマにした会議
3	英国「ビッグソサエティ」にみる社会イノベーションのアライアンス先端事例とは? ~ 英国の実例から社会イノベーションを加速する社会的仕組みを構想する 英国視察ミッション ~	英国	ブリティッシュ・カウンスル	2011.03.15 ~ 2011.03.23	社会イノベーションを目指す日本の企業・NPO・行政関係者等が英国の関係機関を視察訪問し、今後の協働に向けてコミュニケーションのプラットフォームを形成すべく、プレゼンテーションや意見交換等を実施
4	第10回記念災害危機管理会議~異なる文化環境の経験から	オーストリア	ウィーン農業科学大学水文・水力工学研究所	2010.04.01 ~ 2010.12.31	例年ウィーン農業科学大学と国際応用システム分析研究所が開催する災害リスクマネジメントに関する会議に、京都大学防災研究所が参画し、大規模国際会議をウィーンにて開催
5	グローバルヴィレッジのグローバル都市: 都市、国家及び国際システム	オーストリア	オーストリア国際問題研究所	2010.08.02 ~ 2010.12.31	グローバル化に伴う都市の役割について、国際関係、安全保障、政治等、多角的に検証。都市が国際関係のアクターとして勃興する現在、新たな「中世都市国家」への回帰か否かを検証する会議をウィーンにて開 (2010.10)
6	21世紀のアジアの安全保障の未来	オーストリア	ザルツブルク・グローバル・セミナー	2010.11.28 ~ 2010.12.03	国際交流基金が積極的に企画参画型助成をしているセミナーの平成22年度セッション。アジアの安全保障を広い分野 (国境紛争、災害、伝染病等) から捉える会議をザルツブルクにて開催
7	東アジア国際社会における統治権と人道的介入—歴史的遺産と新しいダイナミクス	オランダ	ライデン大学現代東アジア研究センター	2010.05.01 ~ 2010.09.12	欧州最古の日本学の伝統を持つ大学において、日本と中国圏を中心に扱う東アジアセンター (2006年設立) が当該地域の歴史と現在を扱うセミナーをハーグにて開催
8	国際ワークショップ「文化としての翻訳」	スウェーデン	ヨーテボリ大学文学部言語文学学科日本語科	2010.04.01 ~ 2010.12.31	日・独・北欧から10名の研究者をヨーテボリ大学に招へいし、2日間のワークショップを実施。比較文化、比較文学、翻訳の諸視点から文化・文学・翻訳部門の研究を発表

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
9	エコ（ロジカル）	スペイン	アジア・ヨーロッパ財団大学卒業生ネットワーク (ASEFUAN AISBL)	2010. 04. 01 ～ 2010. 09. 30	エコロジーと持続可能性に焦点を当てながら、アジアと欧州の共通関心問題について議論する会議を東京にて開催
10	2つの海の出会うところ—多元的な中東理解を求めて	スペイン 中東地域区分困難	日本中東学会	2010. 04. 15 ～ 2010. 12. 15	2010年7月にスペインにて行われる第3回中東研究世界大会へ、富田広士（慶應義塾大学教授）、ムハンマド・マグラーウィー（ムハンマド5世大学教授/モロッコ）、マルク・トゥタン（社会科学研究院研究員/フランス）ら日本・中東・欧米を含む中東研究者11名を派遣し、「スペインから北アフリカにまたがる世界の統一性と多様性」「日本における中東現代文学の受容」等、4パネルからなる総合部会にて研究成果を発信
11	インターカルチュラル・クロスオーバー、トランスカルチュラル・フロー：漫画	ドイツ	ケルン大学	2010. 04. 01 ～ 2011. 01. 31	日本研究の一環として日本の漫画を取り上げた会議。ケルン大学、京都精華大学が中心となり、NARUTOワークショップ、Ph.Dワークショップなど特定の関心層をターゲットとした企画も実施
12	MISHIMA! 三島由紀夫の知的ルーツと国際的インパクト	ドイツ	ベルリン自由大学	2010. 11. 01 ～ 2011. 01. 31	前年に支援した国際会議の記録集である『MISHIMA! 三島由紀夫の知的ルーツと国際的インパクト』の購入
13	国際会議「東アジアにおけるグローバリゼーション、アイデンティティと地域統合、1861～2011年：グローバル化の影響の再評価と東アジアの将来」	ドイツ	ハイデルベルク大学日本研究学科	2011. 01. 01 ～ 2011. 03. 31	日本・韓国・中国・米国・オーストリア・ベルギー・ドイツから研究者が集い、東アジアにおけるグローバリゼーション・アイデンティティと地域統合について議論する国際会議を開催
14	国際シンポジウム「高技能労働者の日本・ドイツへの国際移住、その現状と将来」	ドイツ	ハンブルク大学アジアアフリカ研究所	2011. 01. 01 ～ 2011. 03. 31	日独両国が高齢化社会を迎え人口減少や労働力不足に直面する中、海外からの高技能労働者受入のモデル・政策・法的枠組み、またその課題や将来について国際シンポジウムにて議論
15	ドイツ日本研究者会議—成果と展望	ドイツ	社団法人ドイツ東洋文化研究協会 (OAG)	2011. 03. 18 ～ 2011. 03. 20	日独修好150周年にあたる2010年にドイツ語圏日本研究者会議を明治大学において開催し、日独双方の学者がこれまでのドイツ語圏における日本研究の批判的総括を実施
16	村上春樹フェスティバル	ノルウェー	文学の家	2010. 06. 01 ～ 2010. 10. 01	村上春樹(作家)を日本から招へいし同氏自身による講演を行った他、村上作品に影響を受けた北欧の作家・アーティストによるレクチャー、映画上映、ステージトーク等のイベントからなるフェスティバルを実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
17	「異文化間都市：多様性ある将来」に関する会議	フランス	欧州評議会	2010.01.01 ～ 2010.12.31	2008年から始まった「異文化間都市」プログラム（異なる文化的背景を持つ住民の社会統合を目指す試み）の中間報告でもある参加都市の会議と視察を2010.10.20-10.23にイタリア、スイスにて実施。西川太一郎（荒川区長）山脇啓三（明治大学教授）ら、日本からは多文化共生に関わる7名の研究者・実務家が参加
18	森と景観	フランス	地方と景観文化協会	2010.04.01 ～ 2010.12.30	日本における森林と映画（黒沢清・河瀬直美・宮崎駿）の関係を分析することにより、その森林のイメージがひとびと、特に森林保護政策にどのような影響を与えてきたかを日仏の研究者とともに検討し、日仏の環境科学について議論する会議を2010.08.10-08.14にかけて実施
19	第2回日仏自治体交流会議	フランス	第2回日仏自治体交流会議実務準備委員会	2010.04.01 ～ 2011.03.31	姉妹・友好都市となっている日本とフランスの地方自治体が一堂に会し、「地方ガバナンスと持続可能な発展」をテーマとする会議を開催
20	「映画と写真連携の凍りついた枠」シンポジウム	フランス	文化人類学及び映像研究センター (PHANIE)	2010.04.01 ～ 2011.03.31	2010.04.09-04.10の2日間に渡り、パリのケ・ブランリー民族学博物館にて実施。社会学と文化人類学の研究において、いかに写真と映画が取り扱われるべきかについて議論
21	危機に面する若者一日欧比較	フランス	フランス国立社会科学高等研究院 (EHESS) 日仏財団	2011.03.14 ～ 2011.03.19	日・仏・欧の若者が置かれている雇用環境などの現状比較をテーマとするシンポジウム、ワークショップ等の実施。日本からは講師として、玄田有史（東京大学教授）や荻谷剛彦（オックスフォード大学教授）など社会学系の第一線で活躍する研究者が参加
22	川俣正 東京トークシリーズ 「東京を考える、語るII」	西欧地域区分困難	一般社団法人 CIAN (Center for Interlocal Art Network)	2011.02.13 ～ 2011.03.31	東京という都市の有り様について、国内・海外からイーデン・コーキル（ライター）など専門家を招き、計3回にわたる対談を実施
23	国際シンポジウム「支援対象国の自主性を尊重した法整備支援の経験と展望：ウズベキスタンに対する日本の法整備支援を素材に一」	ウズベキスタン	タシケント国立法科大学	2010.05.01 ～ 2011.03.31	日本ウズベキスタン両国で法整備支援に携わってきた研究者・実務家が集まり、日本による法整備支援の目的、手法、成果と課題についての議論をタシケントにて実施
24	日本文学からの批評理論—記憶・想起・亡霊	エストニア	タリン大学	2010.06.01 ～ 2010.12.01	日本文学をフィールドとして、日本文学発の批評理論を発進する事業。2007年8月ハーバード大学イエンチン研究所における国際会議「日本文学からの批評理論」の継続企画
25	第6回ECPD国際会議「バルカン半島における国民和解、民族的・宗教的寛容と人間の安全保障」	セルビア	国連平和大学欧州平和発展研究所 (The European Center for Peace and Development : ECPD)	2010.01.01 ～ 2010.12.31	2005年より開催されている国連平和大学欧州平和発展研究所 (ECPD) 主催の国際会議の第6回目

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
26	日本研究に関する国際会議 ー日本21世紀の新しい挑戦ー	ポーランド	アダム・ミツキェヴィチ大学	2010.05.01 ～ 2011.03.31	ポーランドの日本研究者を中心とする会議。人文から社会科学まで多岐にわたるテーマの研究成果を発表
27	日本の言語的及び文化的アイデンティティ	ルーマニア	ブカレスト大学日本研究センター	2011.01.01 ～ 2011.03.31	2010年に開設されたブカレスト大学日本研究センターにて国際会議「日本の言語的及び文化的アイデンティティ」を開催
28	21世紀日ロ学長国際フォーラム	ロシア	特定非営利活動法人日本・ロシア協会	2010.06.20 ～ 2011.03.31	日本およびロシアを代表する大学の学長が集い、知のグローバル化時代における教育・研究面での協力関係構築と、相互理解の促進を目的に意見交換を実施。ロシア側21世紀委員会との共催により、モスクワにて開催。ロシア側はヴィクトル・A・サドーフニチ（モスクワ国立大学総長）が基調報告を行った他、計24機関が参加、日本側は濱口道成（名古屋大学総長）が基調報告を行った他、計25機関から参加があった
29	第2回日露セミナー「ロシアにおける資源開発、人口、環境：日本との関係における現在と未来」	ロシア	ロシア科学アカデミー地理学研究所	2010.07.01 ～ 2010.09.15	資源開発と環境、社会、経済との関連に関する新しい戦略に関する共同研究
30	レフ・トルストイ没後百年記念国際会議及びフォーラム	ロシア	日本ロシア文学会	2010.10.01 ～ 2011.03.31	レフ・トルストイ没後100周年を記念して、「クロスボーダーのトルストイ」をテーマに国際シンポジウムを世田谷区にて、市民フォーラムを熊本市にて実施(2010.11.6～10)。アメリカ・ロシア及び国内から気鋭の若手研究者を招き、研究者間の国際交流を図る一方、市民フォーラムは一般読者を対象に、演奏・朗読・映像なども交えた
31	ユーラシア回廊における都市成長と歴史性をめぐる国際政策フォーラム	トルコ	イスタンブール歴史都市会議実行委員会	2010.05.20 ～ 2010.05.23	日本建築学会が過去7年間にわたり実施してきた「東中アジア歴史都市会議」の成果を踏まえ、「ユーラシア回廊」における都市発展と持続性、歴史性と環境保全に関する国際会議をイスタンブールにて開催(2010.05)。日本・トルコを軸に、周辺国も交えた多国間会議。トルコ側協力者はイスタンブール市首都圏計画局。「2010年トルコにおける日本年」参加事業
32	第一回アフリカ日本研究学会	アフリカ地域区分困難	モロッコアジア研究協会	2010.04.01 ～ 2010.12.31	モロッコにて日本研究学会を開催。日本とモロッコ、日本と中東・アフリカの関係を、文化的、歴史的、経済的、技術的な側面から論じた



欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
33	アフリカ×日本×世界～暴力を平和に変える空間～	アフリカ地域区分困難	金沢工業大学未来デザイン研究所	2010.05.01 ～ 2010.12.10	モザンビークの元文化相で建築家のジョゼ・フォルジャズ、ザンビア共和国の作家職人ムビータ・ムビータを招へいし、「暴力を平和化する新しい空間」をテーマにワークショップを実施。両氏は2010.10.31から2010.11.15にかけて京都・石見銀山・広島・兵庫を訪問し、各地で視察やワークショップを実施し、地元住民ら合計約300名が参加
34	第76回国際ペン東京大会2010記念・文学フォーラム・セミナー「環境と文学ーいま、何を書くか」	全世界区分困難	社団法人日本ペンクラブ	2010.09.30 ～ 2010.11.30	マーガレット・アトウッド (Margaret Atwood /カナダ) など世界各地より著名な作家が東京で一同に介し、「環境と文学」をテーマに、講演及びパネルディスカッションを実施。申請者は国際ペンの日本支部であり、本会議は国際ペンが毎年各国で行う会議の76回目
35	国際シンポジウム「都市の世紀を拓く」	全世界区分困難	大阪市立大学 (都市研究プラザ)	2010.11.01 ～ 2011.02.28	アートによる包摂型都市マネジメントに関する国際シンポジウム。基調講演はシャロン・ズーキン (ニューヨーク市立大学教授)、リリー・コン (シンガポール国立大学副学長/教授)、町村敬志 (一橋大学教授)

3. 催し等事業費 / (3) 人材育成グラント [欧州・中東・アフリカ]

日本と海外の市民青少年の相互理解を促進するため、日本の団体が実施または参加する事業に対し、旅費の一部を助成する。

合計額 3,828,823 円

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
1	カカオ産業における児童労働撤廃に向けた意見交換	オランダ ガーナ	特定非営利活動法人ACE (Action against Child exploitaion)	2010.05.18 ～ 2010.05.29	児童労働の撤廃を目指すACEのスタッフ2名が、世界カカオ財団のパートナーシップ・ミーティングに参加。併せて、カカオ生産地ガーナに赴き、ガーナの児童労働の現状を確認するほか、児童労働国際会議にも参加
2	手で見る絵画	フランス	視覚障害者芸術活動推進委員会	2010.07.31 ～ 2010.08.04	フランスより、視覚障害者のための絵画鑑賞教育に従事し先駆的な開発を続けている研究者アニタ・デル・ヴィット (Anita Del Vitto) 女史を招へいし、現代美術を含め鑑賞がもっとも難しいとされている絵画を視覚障害者が手で鑑賞する方法とフランス・ボンビドーセンターで実践しているワークショップなどについて講演会を開催

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	助成対象機関	期間	事業内容
3	アルザス盛岡文化交流事業「鉄文化セミナー」	フランス	盛岡アルザス交流委員会	2010.12.02 ～ 2010.12.07	アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）と盛岡地域の市民団体が協力し、日仏それぞれの地方中核都市である盛岡市、ストラスブール市、コルマル市とそれを取り巻く地域固有の風土と文化について、若い世代を中心とした研究成果の発表と意見交換を行うセミナーを開催
4	第8回 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議	イスラエル パレスチナ	日本・イスラエル・パレスチナ学生会議	2010.08.08 ～ 2010.08.23	現地では交流の機会を持つことが難しいイスラエル・パレスチナ人学生を日本に招へいし、合宿形式による会議を開催。共同生活の中で、イスラエル・パレスチナの問題や日本国内の問題を議論することにより、三者間の相互理解を深め、「平和構築に貢献できる人材」の育成を目指す事業
5	大谷光瑞とブルサの交流―日土友好の一齣―	トルコ	特定非営利活動法人日本トルコ交流協会	2010.09.14 ～ 2010.09.19	「2010年トルコにおける日本年」の一環として、オスマン帝国の最初の首都ブルサにおいて、西本願寺の宗主であり、アジアとの友好関係にも尽力した大谷光瑞が絹工場を建設し産業協力を行った事績について、市民向けのシンポジウム・講演会・展示会を実施
6	日本・トルコ学生FORUM	トルコ	フォーラム・フォー・ザ・フューチャー	2010.09.20 ～ 2010.09.25	「2010年トルコにおける日本年」を機に、日本とトルコの学生が多岐分野にわたる交流プログラムを通じて相互理解を深め、今後同様のフォーラムを定期的で開催することも見据えて、両国の長期的な関係発展の基礎となる青少年間の信頼関係を築く事業
7	日本ルワンダ学生会議 第5回本会議 日本開催	ルワンダ	日本ルワンダ学生会議	2010.12.22 ～ 2011.01.06	日本の経済発展の歴史、現在の産業、文化、人々に関する会議を実施するとともに、技術先進国日本の経済を支える自動車・IT企業等を訪問。広島では平和都市として、都市再建に成功した歴史を紹介

## 日本研究・知的交流事業に必要な経費

### 日米センター運営管理費

1. ニューヨーク日米センター事業費
  - (1) 知的交流小規模助成
  - (2) 教育アウトリーチ支援小規模助成
  - (3) 地域・草の根交流小規模助成
  - (4) 日米協会支援

日米センター運営管理費

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (1) 知的交流小規模助成

米国内の新たなニーズに対応した先駆的事业や、米国内の大学・シンクタンク・政府・財団関係のアジェンダ・セッティングやネットワーク会合などに機動的に対応し、通常の助成事業の企画開発へとつなげていくために小規模の助成を実施。

合計額 9,679,303 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	グローバル・レジリエンス・イニシャティブ・イン・アジア：流行性インフルエンザをケース・スタディとして	東西センター	2010.07.01 ~ 2010.10.31	鳥インフルエンザをケース・スタディとしつつ、あらゆる災害リスクに適用可能な「事前の」リスクマネジメントの在り方についてレジリエンス（抵抗力）の考え方を基本に据えつつ検証。2日間（2010.08.11-12）、ハワイの東西センターにて清水美香（東西センター客員研究員）及びCLARK, Allen（同主席研究員）によるワークショップを実施
2	全米アジア研究プログラム：西海岸シンポジウム	全米アジア研究所	2010.09.01 ~ 2010.11.30	アジア関係政策研究の重要性の再確認、及び学术界と政策コミュニティの相互作用を高めることを目的とする向こう3年間の事業「NARP（National Asia Research Program）」の一環として西海岸での会議（2010.10）を実施
3	アジア各都市における都市環境一東・東南アジア各国における気候変動緩和のための都市建築政策	コーネル大学	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。急速に都市化が進むアジア地域において、政治経済学的見地から気候変動等環境問題をいかにして軽減しうるかにつき議論
4	日本における、経済危機への対応と改革の政治学	コロンビア大学	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。2008年の世界経済危機が、バブル崩壊後の長期低迷に喘ぐ日本の政策にどのような変化をもたらし、それが他国の政策にどのような示唆を与えるかを検証
5	アジアにおける教育革新—民間セクターの成長、政府の改革とベスト・プラクティスの伸張	デュポール大学	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。アジア各国の教育政策と実行における革新的アプローチについての政策対話
6	日本の対高齢化政策—社会・国民に対するインパクト	ノースカロライナ農業技術州立大学	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。世界に類を見ない速さで進む高齢化社会を抱える日本の、対高齢化政策について検証
7	荒廃からの復興：アジア地域における災害後の復興について	パーデュー大学	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。世界各地で大規模な災害が発生する中、災害後の復興をより効率的・効果的に行う方法について社会科学的見地から議論
8	現代日本の社会的・人口動態的变化とそれへの政策対応	バード・カレッジ	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。社会経済的・人口動態的に変化の時代を迎えている日本について、少子・高齢化問題、ホームレスの問題などに対する政策の有効性を検証
9	移行期の日本政治	バルーク・カレッジ	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会（2011.03）におけるパネル会議の一つとして実施。2009年の民主党の勝利が日本政治にもたらした地殻変動と、歴史的背景を検証

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
10	東アジア地域における安全保障と地域構造の制度化について	南カリフォルニア大学	2010.11.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会(2011.03)におけるパネル会議の一つとして実施。中国の台頭に伴う東アジアのパワーバランス・地域構造の変化と今後について、ASEAN、日米同盟、ロシアの役割等に注目しつつ議論
11	不景気の時代における市民権の確立ー日本における市民、国家、経済危機	ジョンズホプキンス大学	2010.12.01 ~ 2011.05.31	ハワイで実施された全米アジア研究学会の70周年記念年次総会(2011.03)におけるパネル会議の一つとして実施。不景気の中で、いかに市民権、市民としての意識が確立・再確立されていくかについて日本を例として検証
12	徒歩通学：日米における政策の相違点	バージニア大学	2011.01.01 ~ 2011.05.31	子供の通学方法に関し、昨今日米で逆の現象(日本：徒歩通学から「通学バス」へ/米国：家族による送迎から徒歩・自転車での通学へ)が起こりつつあることに着目し、双方が過去の経験から学び合い、よりよい政策に結び付けるための意見交換を、日本で実施

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (2) 教育アウトリーチ支援小規模助成

米国内で開催される日本理解に資する教育アウトリーチ事業(日本講座や教育向けセミナー等)に対し、小規模の助成を実施。

合計額 8,541,216 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	日本の映画音楽とアニメ主題曲の紹介	オーケストラ・インソニカ	2010.05.01 ~ 2010.05.31	米国で活躍する日本人指揮者の久保田昌一が、米国の高校生によるオーケストラで日本の映画音楽とアニメ主題曲の演奏会を開催する事業。プロジェクトを通じて、米国の高校生は日本の文化や社会についても併せて学習
2	シェア・ザ・ワールド・イン・ニューヨーク	ジャパNDER	2010.05.01 ~ 2010.06.30	日本を代表するジャズ奏者である渡辺貞夫が、ジャパNDERでニューヨーク周辺の児童合唱団や児童演奏団とセッションを行うプロジェクト。同氏とのセッションを通じて、参加した子供たちが日本のジャズに触れるとともに日本文化理解を深める企画
3	侍と着物：日本文化サマーキャンプ	文化人類学博物館	2010.06.01 ~ 2010.07.31	ウェイク・フォレスト大学附属文化人類学博物館が、侍と着物をテーマに周辺の児童・生徒を対象に日本文化を紹介する3週間のサマーキャンプを実地。子供達は、サマーキャンプ期間中、着付け、剣道、折り紙などを体験し、また日本の文化・社会に関する講義を受講
4	クリエイティブ・リソース上での日本美術公開プロジェクト	デンバー美術館	2010.06.01 ~ 2011.05.31	同美術館が運営するクリエイティビティ・リソース・ウェブサイト上で、所蔵する日本美術作品(仏像や茶器、硯箱など)12点を紹介するプロジェクト。単に日本の美術作品を紹介するのみならず、この作品を通じて、児童・生徒が日本の文化や社会を理解できるように教材・カリキュラムを開発する。また、周辺地域200名の教師を対象とした教授法ワークショップも開催
5	ミドルトン・コミュニティ折り紙壁画プロジェクト	ミドルトン公立図書館友の会	2010.07.01 ~ 2011.01.31	折り紙専門家、ミドルトン公立図書館において、児童・生徒・一般を対象に、20回に渡る折紙ワークショップを実地。最終的には、ワークショップを通じて制作された折り紙作品を利用し、ミドルトン公立図書館に折り紙の壁画を設置するプロジェクト

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
6	ユース・プログラム	一戸小枝子ダンス・カンパニー	2010.08.01 ~ 2010.08.31	一戸小枝子ダンス・カンパニーが、ニューヨークのNGOユナイテッド・ネイバーフッド・ハウスの協力を得て、ニューヨーク周辺の6つの公立学校や青少年団体で、ダンス公演と日本文化に関するワークショップを開催。併せて日本の伝統舞踊や日本の遊びについてもワークショップを実施
7	ジャパン・イン・ザ・クラスルーム：セント・ルイス教師研修プロジェクト	国際教育推進協議会コンソーシアム	2010.08.01 ~ 2011.05.31	セント・ルイスの教師を対象に、日本に関する教授法トレーニング・ワークショップを4回に分けて開催。約100名の教師が参加したワークショップでは、それぞれ日本映画、日本の漫画・アニメ、現代日本人のライフ・スタイルなどのテーマが取り上げられ、参加教師が生徒の関心をひきつけながら親しみやすく日本についての授業を行なう工夫を紹介
8	祝日本：スクール・デイとファミリー・フェスティバル	メンフィス熱帯植物園	2010.09.01 ~ 2010.09.30	メンフィス熱帯植物園において、日本フェスティバルを開催（2010.09.10-11）し、それにあわせて児童・生徒向けのイベントやファミリー・フェスティバルを行うプロジェクト。生花インターナショナルバンブー支部開設50周年にあわせて日本庭園に生花インスタレーションを行なった他、日本の伝統芸能公演、茶道、折り紙や紙芝居のデモンストレーション、日本食の試食なども実施
9	日本フェスティバル	サギノー日本文化センター	2010.09.01 ~ 2010.10.31	サギノー日本文化センターの茶室及び日本庭園を使って、半日間の日本フェスティバルを開催（2010.09.19）。フェスティバルでは、和太鼓、邦楽、日本舞踊、剣道などのパフォーマンスを行うと共に、茶道のデモンストレーションや折り紙、書道、生花などのワークショップを実施
10	日本の口承芸能：落語と活弁	フィンドレー大学	2010.09.01 ~ 2010.10.31	ウェスト・ミシガン及びオハイオの大学や高校において、日本の口承芸能を紹介するため、落語と活弁のレクチャー・デモンストレーションを実施（2010.09.26）。参加者は、落語と活弁の観覧他、ワークショップ参加を通じて実際に体験
11	アジア探求：今日のアートと日本—奈良美智と漫画に関する教育プログラム	アジアソサエティー	2010.09.01 ~ 2011.01.31	アジア・ソサエティにおいて、奈良美智の展覧会を開催するのに併せて、ニューヨーク周辺の学校児童を対象に教育ワークショップを開催する。また、同時期に開催されるニューヨーク子供映画祭の日本アニメ上映会で漫画ワークショップを開催
12	ピッツバーグ太鼓	ペンシルベニア日米協会	2010.10.01 ~ 2011.03.31	ピッツバーグ太鼓が現地の学校で、児童・生徒向けにワークショップ及び公演を行なうプロジェクト。ワークショップでは、プラスチック製のバケツなど日用品を使った太鼓作りからはじめ、本格的な太鼓演奏技法を伝えることで、各校が持続的に和太鼓サークルを運営できるようにサポート
13	日本の文化・芸術教育プロジェクト	マーキース・スタジオ	2010.12.01 ~ 2011.03.31	ニューヨークのスタッテン島の学校を対象に、日本理解のためのワークショップを10回シリーズで開催する。プログラムは、和太鼓演奏の理論と実践を中心とし、折り紙や文楽、日本語なども加える。プロジェクトの最後には、生徒達による和太鼓セッションと折り紙作品の展示会を開催

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
14	わら紙による照明インスタレーション	ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン	2010.12.01 ~ 2011.03.31	日本人建築家アキ・イシダが、ロードアイランド・スクール・オブ・デザインの学生と共に、わら紙を使った照明家具を設計・製作するプロジェクト。プロジェクトを通じて、学生達は、わら紙の特性のみならず、日本的な照明や空間設計についても学ぶ。プロジェクトの成果は、ジャパン・ソサエティが開催するJ-cationというイベントの際にインスタレーション作品として展示
15	日本の肖像：教師トレーニング・プログラム	ワールド・アフェアーズ・カウンセラー・オブ・ダラス/フォートワース	2011.01.01 ~ 2011.01.31	ダラス・フォートワース周辺の学校で日本についての理解教育を行っている50名の教師を対象としたトレーニング・プログラムを開催。特に、恵まれない地域の学校を優先。プログラムでは、日本の歴史と文化に対する理解を深めるため、8時間にわたるレクチャーを実施
16	アクセス・トゥ・ジャパン	テキサス大学サンアントニオ校東アジア研究所	2011.01.01 ~ 2011.02.28	テキサス文化インスティテュートで「世界遺産写真展」が開催されるのに併せて、現地の児童・生徒を対象に、総合的な日本文化紹介イベントを開催。プロジェクトは、禅に関する講演会と、半日間のファミリーデーからなり、ファミリーデーでは、周辺の学校の児童・生徒・父兄を対象に、日本語入門、書道、茶道、和紙人形の制作、墨絵、童謡、ポップカルチャーなどの多様な日本文化に触れる機会を提供
17	パシフィック・ハーモニー	ホノルル・フェスティバル財団	2011.01.01 ~ 2011.04.30	第17回ホノルルフェスティバルに、日本のアイヌ、アラスカのネイティブ・アメリカン、オーストラリアのアボリジニーを招き、ハワイ先住民との交流事業を開催。それぞれ伝統芸能・工芸・アートなどの共有を通じて相互理解を深める事業
18	オレゴン州農村地域におけるレジデンス・プログラム	ポートランド太鼓	2011.01.01 ~ 2011.12.31	米国を代表する和太鼓グループの一つであるポートランド太鼓が、日本文化に触れる機会の少ないオレゴン州の農村コミュニティを4つ選び、各地で、滞在型のワークショップを開催する。ワークショップでは、和太鼓の演奏技法のみならず、日本の文化社会についても総合的に紹介
19	記憶・収集：ロジャー下村と日系人収容所	ローレンス芸術センター	2011.02.01 ~ 2011.03.31	日系人アーティストであるロジャー下村の展覧会を同センターで開催するのに併せて、日系人収容キャンプでの生活やアメリカにおける日系移民の歴史についてのレクチャーを行う。関連企画として、8週間にわたる日本の木版画コースを開設し、さらに、日本映画の上映会も開催して総合的な日本理解を促進
20	文楽を通じた日本理解	ウェイク・フォレスト大学東アジア言語文化学部	2011.03.01 ~ 2011.03.31	ウェイク・フォレスト大学が、コミュニティ・レベルでのアジア理解促進を目的にアジア春祭りを開催するのに併せて、米国在住のグループである文楽ベイを招待し、一般向けの公演を行うと共に、近隣の児童・生徒を対象に、レクチャー・デモンストレーションを実施する事業
21	実践漫画教室	ウェスタン・ミシガン大学	2011.03.01 ~ 2011.03.31	日本のデジタル漫画制作ユニット木ノ花さくやをウェスト・ミシガンに招き、ウェスト・ミシガン大学や現地のコミュニティで1週間にわたり漫画制作ワークショップを開催。ワークショップは、大学のみならず、現地の小学校や公立図書館、アート・インスティテュートなどの会場で開催され、児童・生徒からシニア世代に至るまでコミュニティの幅広い層が対象

日米センター運営管理費

事業名	助成対象機関	期間	事業内容
22 折り紙を通じた日本文化・社会の理解	エロン大学	2011.03.01 ~ 2011.03.31	K-12のチャータースクールにて、25名の先生を対象に、折り紙を通じて、日本の文化と歴史を教える教授法のワークショップを開催。教授法を学んだ教師達は、父兄・生徒との交流日に、ワークショップで学んだ教授法を使って折り紙ワークショップを開催
23 春祭り	北東部日本語教師会	2011.03.01 ~ 2011.03.31	ニューヨークの国連インターナショナル・スクールを会場に、北東部日本語教師会主催により、春祭りを開催する。春祭りには、周辺の学校で日本語を学んでいる児童・生徒約450名が参加し、日本の伝統芸能や武道のデモンストレーションを鑑賞すると共に、書道、生花、着物着付け、和食などの日本文化を総合的に体験
24 日本へのパスポート	ワン・トゥ・ワールド	2011.03.01 ~ 2011.03.31	ニューヨークの日本人留学生をボランティアとして、ニューヨーク周辺の恵まれない地域の学校に派遣し、日本の文化、歴史、地理について教える機会を設けるプロジェクト
25 玉川大学太鼓&ダンス・ツアー	フィラデルフィア日米協会	2011.03.01 ~ 2011.06.30	フィラデルフィア日米協会が主催するスバル桜祭りの開催に合わせて玉川大学太鼓&ダンス・グループを招き、ワークショップと公演を行う事業。グループは、桜祭りで公演すると共に、周辺の大学・高校でワークショップを開催し、現地の生徒・学生と交流

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (3) 地域・草の根交流小規模助成

米国内で開催される日米間の地域・草の根レベルでの交流事業に対し、小規模の助成を実施。

合計額 2,701,793 円

事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1 日米両国における海洋環境保護促進	ハーバード・メディカル・スクール保健・地球環境センター	2010.04.01 ~ 2011.09.30	ハーバード・メディカル・スクール保健・地球環境センターが、海洋環境保護をテーマに、日米両国の高校生を対象としたワークショップを開催し、最終的にその成果を映像作品化しようというプロジェクト。日本の地球映像ネットワークが協力
2 「生存者の叡智」会議	ニューヨーク市立大学ジョン・ジェイ・カレッジ テロリズム・センター	2010.05.01 ~ 2010.05.31	ニューヨーク市立大学テロリズム・センターが、国連で核不拡散条約定期レビュー会合の開催に合わせて会議を開催。会議では、広島・長崎の被爆者と9.11同時多発テロの生存者が出席し、それぞれの体験を共有し、原爆やテロの悲惨さをいかに次世代に継承していくかについて議論
3 威臨丸シンポジウム：日米関係の将来	北カリフォルニア日本協会	2010.05.01 ~ 2010.12.31	威臨丸来航150周年事業の一環として、日米関係の将来をテーマにしたシンポジウムを開催。シンポジウムでは、日米両国における社会企業や社会的投資をテーマとして取り上げ、日本からパネリストとしてソーシャル・ベンチャー・パートナーズ東京代表の井上英之が参加し、日本の現状を紹介



日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
4	革新的フィランソロピー教育モデルの共有：コモン・センツ設立者を招いた日本ラウンドテーブル	日本国際交流センター（米国）	2011.03.15 ～ 2011.04.30	ペニー・ハーベストという児童向けのフィランソロピー活動教育・促進プログラムを立ち上げた、米国NGOコモン・センツ代表ティディ・グロス(Teddy Gross)を日本に招き、関係団体との対話・交流を行なうことにより、日本における同プログラム推進の可能性を検討するプロジェクト。日本フィランソロピー協会が受入団体

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (4) 日米協会支援

日米における日米協会のネットワーク化とキャパシティ・ビルディングを図り、日米間の地域・草の根交流の担い手としての日米協会を育成するために支援を実施。

合計額 8,429,775 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	2010 CGP・NAJAS日米協会支援ワークショップ	全米日米協会連合（NAJAS）	2010.05.01 ～ 2010.09.30	全米日米協会連合の年次総会開催時（2010.08）に日米協会関係者が集う機会を利用して、常勤職員が2名に満たない程度の小規模の日米協会を対象に、組織基盤強化（マネジメント・スキル、ファンドレージング等）のための研修会を開催
2	事業開発ディレクター確保を通じたキャパシティ・ビルディング（3年事業の2年目）	ジョージア日米協会	2010.07.01 ～ 2011.06.30	事業開発ディレクターを新規に採用することで、キャパシティ・ビルディングの強化を図るプロジェクト。同協会が位置するアトランタ市以外のジョージア州広域に事業を展開し、会員と収入の拡大を目指して活動
3	地域アウトリーチ及び活動センター設立を通じたキャパシティ・ビルディング（3年間事業の3年目）	テネシー日米協会	2010.07.01 ～ 2011.06.30	テネシー日米協会の活動を広域化するため、協会本部のあるナッシュビル以外の都市に、新たに活動拠点を設立するプロジェクト。3年目は、メンフィス支部の活動を安定化させると共に、ナッシュビル本部の基盤強化を実施
4	キャパシティ・ビルディング（2年事業の2年目）	ウェスト・ミシガン日米協会	2010.09.01 ～ 2011.08.31	非常勤事務局長を常勤化して経営基盤の安定を図るプロジェクト。プログラム対象地域を広域化すると共に、文化・教育・娯楽・ビジネス向けのそれぞれのプログラムの拡充を実施
5	会員拡大及びマーケティングキャンペーン（2年事業の2年目）	ダラス・フォートワース日米協会（テキサス州）	2010.09.01 ～ 2011.08.31	アシスタント・ディレクター1名の体制から、常勤のプログラム・ディレクターと非常勤の事務アシスタントを雇用して会員拡大やマーケティングキャンペーンを実施するプロジェクト。2年目は、会員拡大に向けたプログラム開発を実施
6	TRIAJE：日本語教育アウトリーチ・イニシアティブ（3年事業の3年目）	ペンシルバニア日米協会	2010.09.01 ～ 2011.08.31	日本語弁論大会やジャパン・イン・スクール・プログラムなどのプログラムを強化するための専属コーディネーターを雇用し、活動する事業。3年目は、サステナビリティの確保を目指すと共に、メンバーシップ拡大に向けて重点的に活動

日米センター運営管理費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
7	ケンタロウがワシントン州へ行く（2年事業の2年目）	ワシントン州日米協会	2010. 10. 01 ～ 2011. 09. 30	「ケンタロウ」、「ハナコ」などの親しみやすいキャラクターを用い、日本の子供たちの日常生活を米国の学校で紹介する教育プログラム「ジャパン・イン・スクール」を通じて、アウトリーチ活動の強化とキャパシティ・ビルディングを目指すプロジェクト。常勤プログラム・コーディネーターを雇用し、2年目は、特に州南部でのプログラム展開を強化

# 日本研究・知的交流事業に必要な経費

## 日米交流推進費

### 1. 人物交流事業費

- (1) 安倍フェロシップ
- (2) 市民交流支援（日米草の根交流コーディネーター派遣／JOI）

### 2. 催し等事業費

- (1) 日米交流支援（助成）
- (2) 日米交流支援（主催）

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (1) 安倍フェローシップ

社会科学・人文科学の分野における質の高い政策研究を促進し、日米の専門家間の新しい協働関係とネットワーク形成を推進するため、学術研究者、各分野の専門家に対しフェローシップを供与する。

合計額 148,731,649 円

	氏名	現職	研究テーマ
<b>■安倍フェロー（12名）</b>			
1	芦澤 久仁子	オックスフォード・ブルックス大学国際関係学 上級講師	アフガニスタンにおける平和構築：日米欧の比較研究
2	池上 英子	ニュースクール大学社会学 教授	バーチャル・コミュニティと市民社会：日米におけるソーシャルネットワーキング・メディアとコミュニティ形成のエスノロジー
3	池上 雅子	ストックホルム大学政治学部 教授	日米同盟核戦略再考：増大する核の脅威と国際的核軍縮機運のパラドックスにいかに対処するか
4	岡田 亜弥	名古屋大学大学院国際開発研究科 教授	グローバリゼーションとスキル・ディベロップメントの変化—アメリカ、中国、インドの比較研究
5	粕谷 祐子	慶応義塾大学法学部政治学科 助教授	『開かれた政府』のグローバル化：情報公開法の政治学
6	川端 英二	ミネソタ州立大学マンケイト校政治学 准教授	日本、オーストラリア及び韓国におけるプライバシーの政治：アジア太平洋における複雑な政策収束
7	塩路 悦朗	一橋大学経済学部 教授	2008～2009年の世界的貿易・生産急減：日本の経験に基づく国際比較
8	KEHL, Jenny Rebecca	ラットガース・ニュージャージー州立大学政治学・国際開発学部 助教授	水不足と食料安全保障
9	ROBERTSON, Jennifer	ミシガン大学人類学 教授	安全、安全保障と利便性：日本のサービスロボットの政治経済
10	CARMIN, JoAnn	マサチューセッツ工科大学環境政策・計画学 准教授	都市の気候変動適応計画の比較評価
11	根本 宮美子	西ケンタッキー大学社会学 助教授	日本、米国、中国における日系グローバル企業の雇用均等構造の比較
12	BLUSTEIN, Paul	ブルッキングス研究所 客員研究員	オフ・バランス：国際機関と世界金融危機
<b>■安倍ジャーナリスト・フェロー（4名）</b>			
1	GREEN, Elizabeth	GOTHAM SCHOOLSエディター	学び方を教える：アメリカは日本における公立学校教育のアプローチから何が学べるか
2	NARANG, Sonia	フリーランス・ビデオ・ジャーナリスト	沖縄：軍事基地政治と女性主導の活動家グループ
3	竹内 幸史	フリーランス・ジャーナリスト	米印原子力協力と世界の核不拡散体制への影響（パキスタン、中国、日本への影響を中心に）
4	PENDERGRAST, Mark	フリーランス・ライター	日本のエコ・モデル都市：そこから何が学べるか

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (2) 市民交流支援 (日米草の根交流コーディネーター派遣/JOI)

日本との交流の機会が比較的少ない米国南部・中西部地域における対日関心の喚起や日本理解の促進、草の根交流の担い手育成を目的に、ボランティアの草の根交流コーディネーターを派遣する。コーディネーターは、主に日米協会や大学等の地域交流活動の拠点に配置され、学校やコミュニティで、日本の文化、社会、生活、日本語に関する知識や情報を提供し、また日米交流を深めるための活動を展開する。

合計額 33,457,434 円

	氏名	派遣先機関	期間
1	第7期：荻島 光男	南フロリダ大学国際センター	2008.08.01 ~ 2010.07.31
2	第7期：服部 聖	ジョージア大学アジア研究センター	2008.08.01 ~ 2010.07.31
3	第7期：福崎 恵子	ケンタッキー大学アジアセンター	2008.08.01 ~ 2010.07.31
4	第8期：青木 真子	ウェイク・フォレスト大学東アジア言語文化学部	2009.08.01 ~ 2011.07.31
5	第8期：木幡 陽子	アーカンソー大学フォート・スミス校	2009.08.01 ~ 2011.07.31
6	第8期：森下 佳南	ウェブスター大学	2009.08.01 ~ 2011.07.31
7	第8期：吉本 道子	ウェスタンミシガン大学曾我日本センター	2009.08.01 ~ 2011.07.31
8	第8期：米倉 夏江	フィンドレー大学	2009.08.01 ~ 2011.07.31

日米交流推進費

2. 催し等事業費 / (1) 日米交流支援 (助成)

公募助成においては(1) 平和で安定的かつ公正な国際秩序の形成に向けた、多様な利害関係者による対話の促進、および(2) グローバル化が世界各地のコミュニティにもたらす様々な影響を克服するための、多様な境界を越えた連携の促進、を募集対象とする。このほか、日米間の連携・パートナーシップ構築の推進、日米間の基盤強化や知日層の育成・拡大を目的とする事業を企画参画助成にて支援する。

合計額 360,215,949 円

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
1	中国・広東省の持続可能な発展に向けた教育 (3年計画事業の3年目)	インスティテュート・フォー・サステイナブル・コミュニティーズ	2009.12.01 ~ 2010.11.30	中国における持続可能な発展に向けた教育 (Education for Sustainable Development) の開発・普及を目的とする3年間プロジェクト。日米のNPOが主体となり、相互訪問・相互学習を通じて日米中のネットワークを形成し、広東省に適したカリキュラムを開発・試行し実践モデルを提案する協働事業
2	グローバル経済の開放性と日米間のパートナーシップ (2年計画事業の2年目)	ランド研究所	2010.03.01 ~ 2011.11.30	地球規模の信用収縮に直面する世界経済において、特に多角的開放性 (multilateral openness) という観点から、開かれた貿易・投資政策を構築する為の日米の環境整備や、ワールドワイドにも有益な両国の協力体制につき研究提言を行なう事業
3	第20回日米草の根交流サミット2010・サンフランシスコ/ベイエリア大会 記念シンポジウム	財団法人ジョン万次郎ホイツフィールド記念 国際草の根交流センター	2010.04.01 ~ 2010.10.31	節目の第20回を迎える「日米草の根交流サミット大会」では数百人規模のシンポジウムを開催し、併せて臨海丸のサンフランシスコ湾到着150周年のイベントと絡め、地域・草の根レベルでの交流や日米相互理解の促進を一層進めることを目指す事業
4	ビジネスと社会セクターの融合による社会的価値創造の可能性	一般社団法人 DSIA	2010.04.01 ~ 2011.03.30	ビジネスセクターと社会セクターの役割を改めて問い、双方のアイデア、リソース、マネジメントの融合によってもたらされる解決手法の可能性を探ること、及び、それによって企業自体と社会に創出される価値について明らかにすることを目的に実施
5	アフリカにおける保健医療従事者の育成と定着に関する日本と米国の役割：日本と米国の市民社会からの提言	特定非営利活動法人アフリカ日本協議会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本政府の「アフリカにおける10万人の保健医療専門家及びコミュニティ・ヘルス・ワーカーの育成」誓約、米国政府の「14万人の保健医療従事者育成」誓約それぞれについて包括的かつ現地のニーズに即した形で実施されるように、文献調査及び現地調査を通じて政策提言を作成し、国際円卓会議やアウトリーチ活動を通じて政策決定者に対する働きかけを実施
6	中国における日米浄水ネットワーク構築 (2年事業の2年目)	ウッドロー・ウィルソン国際学術センター	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国の水質汚染の改善に向け、日米中の企業、NGO、調査機関、政府のネットワークを構築するプロジェクト。中国における水質汚染防止機関の設立を支援し、他の発展途上国にも有用な日米水質改善協力モデルを促進する計画
7	クリーン・エネルギー市場の拡大に向けた日米中3カ国協力の可能性	財団法人環日本海経済研究所 (ERINA)	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本と米国が中国のエネルギー・環境問題の解決について政策提言をまとめる。世界3大エネルギー消費国 (日米中) による政策協定の達成のための専門家対話を促進。世界最高水準の省エネルギー技術やエネルギーのクリーン利用技術を有する日本が国際社会において主導的役割を果たす方向性を明示

## 日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
8	日米ジャーナリスト交流（2年間事業の2年目）	東西センター	2010.04.01～2011.03.31	日米のジャーナリストがそれぞれ相手国を訪れ、市民社会や地域コミュニティとの対話の機会をもった後、ホノルルで意見交換会を実施。日米関連情報のメディアでの取り上げの強化と両国の市民社会同士の新しいパートナーシップの可能性を探る事業
9	アジアをつなぐ：アジアにおける協調的フレームワークのための米日戦略（3年計画事業の3年目）	米国戦略国際問題研究所（CSIS）	2010.04.01～2011.03.31	アジア太平洋諸国の地域秩序と日米関係について分析、政策提言を目指す。広範なコンセンサスや将来の組織的枠組み議論の推進、地域枠組み及びモデルを提案。日・印・米3カ国戦略対話のアイデアを紹介し、アジア政治の安定、経済開放、民主主義、法の支配、グッド・ガバナンス、アジアにおける民主主義の機能形成の鍵となる行動指針を提案
10	日米“ヒロシマ”プロジェクト：失われた文化の疑似体験による伝承に関する共同研究と和平提言	早稲田大学理工学術院総合研究所 早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所	2010.04.01～2011.03.31	原爆投下1週間前に空撮されていた広島記録や、当時の様子を知る数少ない証言者の情報を手がかりに、先進的技術により、原爆投下前の当時の町並みを高画質3次元CG映像として復元する事業を進め、ヴァーチャル・リアリティ技術を駆使した、より「体験的な」形で歴史を伝承する方法を研究する。国連NPT再検討会議で映像展示をし、日米有識者会議を開催
11	グローバル・ヘルス&グローバルエイジングと移民問題	グローバル政策イニシアティブ	2010.04.01～2011.05.31	日米両国のパートナーシップによる取り組みが期待される最優先課題の一角を占めるグローバルヘルス（公衆衛生）及びグローバルエイジング（高齢化問題）の二つの政策課題において、両政策課題に共通する優先的政策課題である複雑な移民問題に焦点を当てながら、日米両国で実施するワーキングセミナーを通して現状と課題を明らかにし、具体的な政策の道筋作りと政策実施モデルについて提言
12	新時代の難民保護～米国における難民の定住から学ぶ～	特定非営利活動法人難民支援協会	2010.04.01～2011.05.31	日本政府が2010年から試験的に「第三国定住」制度を導入する現状を踏まえ、様々なステークホルダーが参画し、先立って「第三国定住」制度を実施している米国の難民支援プログラムを学び、日本において適した難民支援プログラムが実施できるよう、ワークショップやシンポジウムの実施や難民定住支援の施策を検討する事業
13	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター・運営強化事業	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター	2010.04.01～2013.03.31	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの事業運営強化に必要な経費支援を行う3年事業の第1年目。主な支援内容は学生奨学金
14	グローバルショックウェーブ：アジアの不況と金融危機後の分断	ノース・カロライナ大学チャペル・ヒル校	2010.05.01～2012.02.29	アジアにおける不況と金融危機をテーマに、 <i>Global Shock Wave</i> と <i>Two Asias: The Emerging Postcrisis Divide</i> の2つの著作を刊行することを目的として、公開シンポジウムを開催
15	平成22年度安全保障研究奨学プログラム	財団法人平和・安全保障研究所	2010.05.20～2010.08.08	国際関係論の重要領域である安全保障研究がまだまだ発展の途上にある日本の現状を踏まえ、若手の安全保障専門家の育成を目的として実施するプロジェクト

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
16	サステイナブルコミュニティーツーリズムの創出とネットワーク形成へ	新宮市姉妹都市親善協会	2010.06.01 ~ 2011.03.31	各国・各地域が直面する状況は多様だが、根底にある一つの共通現象として地域コミュニティの存在意義の変質と崩壊という顕著な兆候が見られ、これを解決する為の手段として新しい訪問形態、旅行概念である「サステイナブルコミュニティーツーリズム」の手法を探る事業。和歌山県新宮市で国際フォーラムを開催(2010.08)
17	排出量取引が国際競争力と温暖化国際交渉に与える影響(3カ年事業の2年目)	上智大学	2010.06.01 ~ 2011.05.31	温室効果ガスのリーケージ問題(排出源を他国・地域に移動させることで地球規模での削減が進まないこと)と国境税(新興国からの輸入に課し温暖化対策を促す税金)が日本、新興国及び国際関係に与える影響を、欧米での聞き取り調査や経済理論を用いて分析する3年間のプロジェクト
18	中央アジア、アフガニスタンにおける日米協力	センター・フォー・ナショナル・インタレスト	2010.06.01 ~ 2011.05.31	日米両国の中央アジア地域に対する外交政策や開発戦略の協力の可能性を探求し、またこれらの戦略がアフガニスタンや中央アジアや南アジア全域の安全保障と安定化への貢献策を提案することを目指すプロジェクト
19	21世紀の日米韓中関係	パシフィックフォーラム(Pacific Forum CSIS)	2010.06.01 ~ 2011.05.31	アメリカ、日本、韓国、中国の四カ国の協調関係を巡る実用的な提言とアプローチの探求を目指し、2010年秋に上海で4カ国による対話を行い、その成果を2011年の冬にかけてソウル、北京、東京でそれぞれ小規模の会合を実施する。人材育成を兼ねて「ヤングリーダー」の若手研究者も参加
20	アジアの統合化:理論・実践・政治	ワシントン大学	2010.06.01 ~ 2011.05.31	アジアにおける統合の足並みが揃ってきたにも関わらず、アジア地域全体を巻き込んだ制度設計がフォーカスされないままである。このプロジェクトは貿易、金融、投資、安全保障、エネルギー、保健、環境、人権等の様々な分野においてアジア統合の理論的方法を明示し、書籍を出版することが目的
21	移民は必要か?—日米労働市場政策と戦略の観点から—	カリフォルニア大学サンディエゴ校	2010.06.01 ~ 2011.09.30	日米を含めた先進国が労働市場を補うために移民を必要としているのかを調査し、また、移民受入に対する政策変化の可能性を調査することで労働力としての移民の方向性を提示する。日米専門家とアジア移民を集め、労働市場の役割を互いに理解するための会議開催と研究成果をまとめた書籍の出版が目的
22	アジア太平洋地域における4カ国協調の推進	全米外交政策委員会(NCAFP)	2010.06.01 ~ 2012.01.31	アメリカ・日本・中国・韓国の4カ国が地域的及び全世界的な課題への対話の促進と戦略的展望の発展を目指すプロジェクト。テロ対策、気候変動と環境問題、経済問題、北朝鮮の平和的非核化などのいくつかの主要な課題を取り上げて、ワシントンD.C.、東京、北京、ソウル各都市で会議を開催
23	日米同盟の使命としての平和構築—相補的なWhole-of-Allianceアプローチの推進	外交政策分析研究所(IFPA)	2010.06.01 ~ 2012.05.31	日米がアフガニスタンやソマリア地域における平和構築への貢献に向けた新たな方策を検討する時機において、平和構築分野における日米協働のアジェンダを模索する研究プロジェクト



日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
24	日本・米国で活躍する非営利団体業界のパイオニアによる講演会	ぱれっと	2010.06.20 ~ 2010.12.20	米国より日野紀子 (NY deVolunteer) と Paul Golin (Jewish Outreach Institute) を招いて、ボランティア人材の活用方法や、ステークホルダーとの関係構築をテーマとしたシンポジウムを東京、大阪、茨城で8月下旬から9月上旬にかけて開催した。さらに、企業経営者等を対象に、戦略的な社会貢献マーケティングの手法に関する講演会を東京 (2010.09.03) で開催
25	通商・伝統的安全保障及び人間の安全保障の関係性：欧米の教訓とアジアへの示唆	カリフォルニア大学バークレイ校	2010.07.01 ~ 2011.06.30	アジアや欧米において、伝統的安全保障ならびに「人間の安全保障」がそれぞれ二国間あるいはグローバルな通商政策及び通商協定への相互の影響や効果を研究するプロジェクト
26	日米加3極会議 (3年間事業の2年目)	ジョンズ・ホプキンス大学	2010.07.01 ~ 2011.06.30	日本、米国、カナダの国際問題専門家が共同で世界が直面する平和安全保障について研究及び会議を行う3年プロジェクト。テーマは地球温暖化、エネルギー安全保障、アジア太平洋地域の平和構築等。今年度は東京で会合を実施 (2010.08)
27	エネルギー安全保障イニシアチブ (3年計画事業の3年目)	ブルッキングス研究所	2010.07.01 ~ 2011.06.30	G-Cubedという8千本の方程式で構成される経済計量モデルを用いて、日米共同で主要国のエネルギー利用による温室効果ガスの排出に伴う気候変動を分析。年1回 (3年間) 日本でワークショップ開催。中国の急速な経済成長に焦点を当て、エネルギー資源の確保と温室効果ガス排出抑制のために中国が果たすべき役割と政策を提言
28	NPOの素晴らしさの基準日本版作成	社団法人まちづくり国際交流センター	2010.07.01 ~ 2012.02.29	米国のMaryland Association of Nonprofit Organization (MANO)、メリーランド政府、メリーランドボランティアセンター等を訪問し、Standard for Excellence (SFX)の導入の状況や課題について知識を深める。また、MANOからSFXの担当者を招へいして (2011.02)、日本のNPOの状況を理解してもらい、日本版SFXを作成するほか、講演会を奈良で開催 (2011.03.19)
29	名古屋アメリカ研究夏期セミナー	南山大学	2010.07.24 ~ 2010.07.27	グローバル化が急速に進展する今日的な問題の共有と解決の共同作業、また来るべきグローバル社会で真に共有されるべき倫理構築の共同作業の必要性に鑑み、日米を機軸に好ましい国際関係を築き得る人材育成を急務と捉え、米国、アジア・オセアニア諸国の研究者及び大学院生による討論、発表会を通じ米国研究の国際化と将来の指導的人材の国際的ネットワークを構築
30	市民社会の財政基盤強化のための日米対話促進事業	社会福祉法人中央共同募金会	2010.08.01 ~ 2011.03.31	NPOと企業のパートナーシップによるファンドレイジングの展開に関係する専門家3名を、米国のNPO団体United Way Worldwideを通して日本に招聘し、専門家、NPO、企業との対話を実施する事業
31	ワークショップ：島嶼地域の産業エコロジーと持続可能性	エール大学	2010.08.01 ~ 2011.07.31	閉鎖系の島嶼地域をモデルケースとして、産業生態学の研究を行うプロジェクト。日米に加えアジアやヨーロッパの研究者による分野横断的なテーマで大陸部を含めた地域への応用可能性を探索するワークショップをハワイで実施する。成果や研究者による記事を『Journal of Industrial Ecology』誌に掲載
32	イリノイ日本舞台芸術ネットワーク (IJAPN)	イリノイ大学東アジア言語文化学部	2010.08.01 ~ 2013.07.31	イリノイ大学東アジア言語文化部が中心となりNYのジャパンソサエティ、慶応大学と協力して舞台芸術関係者間のネットワークを図る3年事業の第1年目

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
33	日本グローバルスカラー事業	オレゴン大学	2010.08.01 ~ 2013.07.31	学部を卒業するまで一環した日本語イマージョン教育を行うコースを新設し高度な日本語能力を有する専門家育成を目指す3カ年事業の第1年目
34	比較・グローバル保健医療研究への日本の融合	ユタ大学	2010.08.01 ~ 2013.07.31	日本の保健医療政策の比較研究を扱う教員のポストを新設するとともに調査・コース・資料拡充等の関連事業を行う3年事業の1年目
35	平成22年度RIPS日米パートナーシッププログラム	財団法人平和・安全保障研究所	2010.08.09 ~ 2012.08.08	日本と米国との協力関係の維持・発展に学問的、実務的な面から携わり、将来的にリーダーシップを發揮することが期待される人材を集中的に育成することを目的として、通年で各種のセミナーやフィールドトリップ、論文作成のための指導を行なう。2年間のプログラム終了時に、各フェローは論文を提出するとともに、プログラムの一環として公開セミナーを開催し、広く一般に知見を普及
36	日米青年政治指導者交流プログラム(訪日プログラム)	財団法人日本国際交流センター	2010.09.01 ~ 2010.12.31	「日米青年政治指導者交流プログラム」は、日米両国の若手政治家、政策秘書、政党スタッフ等、両国関係の将来に影響を有する人材を対象に、超党派訪問団を組織して相互交流を行い、政策形成過程と密接な関わりを持つ政界関係者の対話と理解を促進することにより、長期的観点で両国の関係基盤を整備することを目的とした事業
37	地域経済成長のための推進力(2カ年間事業の2年目)	ペンシルバニア州立大学	2010.09.01 ~ 2010.12.31	APEC等によって進められている「地域標準化戦略」のプロセスと成果を認知させることを目指す。標準化戦略の本質、日本の役割、APEC内での日米相互利益を通じた日米関係の強化等を探り、実施可能な政策提言を実施
38	デザインの力：地球的課題への取り組み	ジャパン・ソサエティ	2010.09.01 ~ 2011.03.31	デザイナーズ・アコード、コモングラウンド・コミュニティ等との共同により、ソーシャルデザイナーや社会企業家らを日米及びインドネシア、タイからニューヨークに招き、地球的課題への取り組みにおけるデザインの価値について対話を行う事業。ブルックリン区のブラウンズビル地区への視察、公開フォーラム、対話を通じて、同地区の中長期的な社会変革にむけたデザインの有用性について議論
39	経済危機がアジア及び米国市民社会とフィランソロピーに与える影響	ジョンズホプキンス大学国際第3セクター研究会	2010.09.01 ~ 2011.08.31	アジア及び米国において経済危機が市民社会とフィランソロピー活動に与える影響をテーマに日米中を中心に調査研究を行うプロジェクト。調査報告書や論文の執筆を英語・日本語・中国語で行った。東京でシンポジウムを実施(2011.05)
40	米国ジャーナリズム大学院生招へい事業	エマーソン・カレッジ	2010.10.01 ~ 2011.03.31	将来ジャーナリストとして活躍が期待される米国のジャーナリズムを専攻するコロンビア大学、ニューヨーク大学、メリーランド大学、エマーソン大学の大学院生6名を招へいし、10日間滞日する間、日本の大学院生との交流、メディア関係者、学者、研究者、政治家、財界人、文化人との懇談、関係機関視察を実施

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
41	紛争後の安全保障と外交の強化：日米の平和構築戦略における資源管理・インフラ再整備（3カ年計画事業の3年目）	エンバイロメンタル・ロー・インスティテュート	2010.10.01 ～ 2011.09.30	紛争収拾後の、関係当事者間による天然資源マネジメント及びインフラ整備事業を融合させることで平和構築プロセスにどのように効果的に寄与するか、ケーススタディに基づき共同研究・政策提言を行う3年間のプロジェクト。ニューヨークと東京で研究成果や提言をテーマにした国際シンポジウムを開催
42	NPOなどの社会的成果に関する測定方法の開発及び普及啓発プロジェクト	特定非営利活動法人 パブリックリソースセンター	2010.10.01 ～ 2011.09.30	NPO等が行う事業の社会的成果の測定方法の開発を目的とし、欧米の先進的な手法に学びながら日本型の測定方法を開発し、同手法の普及活動を行う事業
43	USJIセミナー・ウィーク	U.S.-Japan Research Institute (USJI)	2010.11.01 ～ 2011.03.31	米国、日本、中国、韓国等から専門家を招へいしてワシントンDCにて連続セミナーを開催する事業（2011.02.07-11）。主なテーマは「東アジアの安全保障と日米同盟の将来」「新グローバル知識基盤社会における高等教育の役割の改革」「エネルギーと食糧安全保障の軋轢の防止に向けた気候変動の代替政策の役割」「Yesと言える日本：米国等における日本のプレゼンスの維持」「世界金融危機の現状と、米国、日本、アジア太平洋地域に与える影響」等
44	グローバル化する世界のCSR：効果的なグローバルCSRに向けて（2カ年事業の2年目）	ミシガン大学	2010.12.01 ～ 2011.11.30	グローバル企業活動のネガティブ・インパクト（環境汚染や人権侵害等）の改善策やグローバルなCSRフレームワークでの解決策について、日、米、シンガポール、タイ等の企業の社会貢献活動（CSR）を促進する「グローバル・フレームワーク」への参加パターンを分析する事業
45	日・米・韓対話：東アジアにおける軍事抑止と安全保障	センター・フォー・ザ・ナショナル・インタレスト（旧ニクソン・センター）	2010.12.01 ～ 2012.11.30	日・米・韓3国の安全保障及び外交分野の専門家らによる対話事業。中国や北朝鮮に対する外交政策などをテーマに安保分野における3国同盟の重要性についての相互理解を深めることを目的とし、ワシントンと東京で半年ごとの対話セッションを交互に開催
46	APECと未来に向けたアジア太平洋地域の協力について	東西センター	2010.12.15 ～ 2011.05.31	日米がそれぞれAPEC議長国を務める2010～11年、域内経済貿易パートナーシップを巡る議論が注目を浴びている中、多くのアジア研究者が集う全米アジア学会において、日米、中国、韓国、インドネシアの研究者がラウンドテーブル形式のパネルで、未来に向けたアジア太平洋地域の協力関係構築について討議
47	日米の持続可能性に関する対話	ビジネス・フォー・ソーシャル・レスポンスイビリティ（BSR）	2011.01.01 ～ 2011.03.31	日米両国において、企業の社会的責任（CSR）に従事する実務者、研究者、関連団体のネットワーク構築を目的に、日米間の対話事業、CSR分野における日米共同事業の企画開発等を検討するプロジェクト
48	理想と現実の架け橋	ヘンリー・スティムソン・センター	2011.01.01 ～ 2011.12.31	拓殖大学海外事情研究所と共同で小規模なワーキング・グループを形成し、北朝鮮やイランの核問題などを背景に、日米両国が、軍事的抑止力を損なうことなく核軍縮や核不拡散を実現する方法について検証し、研究論文を執筆する事業。日米の政府関係者なども招いて、ワークショップやパネルディスカッションを実施

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
49	日本伝統芸能インフォメーション・ディレクター	ファイブ・カレッジ東アジア研究センター	2011.01.01 ~ 2012.12.31	米国在住の日本伝統芸能アーティストの名鑑を作成し、これをウェブサイト上で公開することにより、米国の地域・草の根レベルでの日本文化紹介活動を促進しようというプロジェクト。2011年に名鑑を作成し、マサチューセッツ大学アムハースト校において、ディレクターの紹介及び教育分野での利用方法に関する会議・ワークショップを開催（2012.10）し、名鑑を普及
50	国際教育リーダーシップ&交流プログラム	アイダホ人権教育センター	2011.01.01 ~ 2013.12.31	アイダホ、ユタ、ワイオミングの山間部の諸州と日本との交流を促進するため、米国の教育関係者の訪日研修・ワークショップ及び日米両国の学生交流を行う。教育関係者の交流にあたっては、中等教育での日本理解のためのレッスン・プランの開発を目標とする。また、学生交流では、特にリーダーシップ育成、市民教育、市民参加、文化財保護、異文化交流などのテーマについて学習
51	日米社会イノベーションフォーラム	アイリーブ(iLeap)	2011.01.15 ~ 2012.01.14	「日米社会イノベーションフォーラム」は、当該分野における日米交流の深化を目的として、日米双方が抱える社会的課題の解決に向けて創造的に取り組むビジネス、NPOセクターの関係者を、日米7名ずつの合計14名選抜し、日本側関係者のシアトル訪問、米側関係者の東京（首都圏）訪問（各10日間）の2度の交流機会を提供し、サイトビジットや座学、グループ討論などを行なうプロジェクト
52	新・下田会議：激動する国際社会と日米戦略的パートナーシップの再構築	財団法人日本国際交流センター	2011.02.01 ~ 2011.03.31	アジア太平洋地域は劇的な変化を遂げつつあり、この地域と世界が直面する喫緊の課題に対応するためにも、確固たる日米関係を築く必要があるという認識が高まっている。新・下田会議は、日米両国社会の変遷に着目し、発展するアジアにおいて日米関係の在り方を再定義するための手立てを見出し、アプローチの仕方を検討するとともに、日米パートナーシップの再活性化と深化の方策を探ることを目的とする
53	日米姉妹都市交流ネットワーク	シスター・シティーズ・インターナショナル	2011.02.01 ~ 2011.11.30	日米姉妹都市交流の再活性化を目的に、ジャパン・リサーチ・フェローを採用し、ベスト・プラクティスを調査して、ブックレットを作成する。また、公募で米国内の姉妹都市交流を募り、20名を日本に派遣するためのコーディネートをを行う。年次総会や地域大会で報告会を開催し、姉妹都市モデルを通じた持続可能性や経済的イニシアティブに関してディスカッションを行う。特に若者の参加を奨励
54	幹細胞研究における知的所有権の諸課題：アジアでのコンテキストにおける科学革新とグローバルな法正義	ジョンズ・ホプキンス大学	2011.02.01 ~ 2012.01.31	幹細胞研究における知的所有権の諸課題について、特にアジア（日本・中国）におけるコンテキストでの評価・分析を実施。具体的には日米中の幹細胞研究、法律、経済学、生命倫理学等の分野から専門家が参加する会議を実施、幅広い分野の専門家が参加して総会及び分科会での議論を重ね、さらにその後複数の小規模なミーティングを継続的に実施することで課題の共有と具体的な政策提言への進化を目的

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
55	国際環境ガバナンスにおける多様な行為主体の効果的参加のための制度設計	国際環境ガバナンス制度設計研究実行委員会	2011.03.01 ~ 2013.03.31	グローバルな取組みが必要とされている国際環境ガバナンスについて、議論や知見を収斂することを通じて科学的コンセンサスの範囲を導き、効果的制度の方向性を示す2年間計画事業。1年目は日米で計2度の国際ワークショップ開催を通じて政策担当者、NGO、企業・経済団体等の多様なステークホルダーとの対話・議論を実施。2年目には2012年5月の「持続可能な発展に関する国連会議（Rio+20）」に成果を反映させるための提案を行い、出版物を刊行
56	ジャパン・コネクション（2カ年事業の1年目）	全米舞台芸術ネットワーク（NPN）	2011.03.01 ~ 2013.06.30	日本コンテンポラリー・ダンス・ネットワークと共同で、日米間の幅広い舞台芸術関係者の交流促進のために、相互訪問・視察・意見交換を行うと共に、ウェブサイトやメールマガジンなどの多様な媒体を通じて日米間での情報共有を図る事業
57	北米日本庭園ネットワーク	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校アール・バーンズ・ミラー日本庭園	2011.03.01 ~ 2013.12.31	北米日本庭園連合（NPO）を設立して北米地域の約200の日本庭園のネットワーク化及び日本庭園の活動やベストプラクティス等を共有することを目的とする事業。カリフォルニア州立大学アール・バーンズ・ミラー日本庭園がポートランド日本庭園と共同で、(1)ネットワーク形成のための全国・地域会議の開催(2)日本庭園に関する調査(3)ウェブサイト上での日本庭園情報の共有等の活動を実施
58	東アジアの国際関係を左右する国内情勢	エール大学	2011.03.01 ~ 2014.02.28	東アジア諸国（特に日本、韓国、台湾）における政権交代等の国内政治事情が、各国の外交政策や国際関係に与える影響を比較研究するプロジェクト。研究者、政府関係者及び一般を対象とした公開シンポジウムを行なうほか、複数言語による報告書を出版
59	日米協会ネットワーク支援事業	全米日米協会連合（NAJAS）	2011.03.01 ~ 2014.02.28	特に中小規模の日米協会の支援及び日米協会全体の経営基盤の安定と活動の促進を目的として、各事務局長を対象としたトレーニング・ワークショップ、新任事務局長へのオリエンテーション、理事会メンバーへのサポート等を実施
60	良質な日本の情報リソースへのグローバルなアクセスへの保証	北米日本研究資料調整評議会（NCC）	2011.03.01 ~ 2014.02.28	(1) 日本研究が実施されていながら、日本研究専門の司書が不在な大学を対象に、教授と司書のペアによるトレーニングを目的とするワークショップを開催する。(2) 横浜での図書館総合展（2012.11）にあわせた国際会議“Global Access to Japan”に参加し、日本関連資料のデジタル化などをテーマに話し合う。(3) NCCのウェブサイトの改修を通じた、クリアリング・ハウスとしての役割を強化
61	青少年オンライン国際交流プロジェクト	ジャパン・ソサエティ	2011.03.01 ~ 2014.03.01	ソーシャル・ネットワークを通じた新たな青少年交流モデルを確立するため、日本、米国、パキスタンの3カ国の高校生を対象とした交流を実施する事業。プロジェクトを通じて蓄積されたカリキュラムや教材は、ジャパン・ソサエティのウェブサイトを通じて広く共有
62	ボランティア・リーダーズ・スクエアプログラム（3カ年事業の1年目）	ユナイテッド・プラネット	2011.03.01 ~ 2014.03.30	将来のNPOリーダーや社会企業家の育成につながるよう、日本とのボランティア交流プログラムを新たに立ち上げ、米国からのボランティア派遣と日本から米国へのボランティア受入を行うプロジェクト

日米交流推進費

	事業名	助成対象機関	期間	事業内容
63	日本を身近に：教育関係者に対するオンラインを活用したリソース提供プロジェクト	プライマリー・ソース	2011.03.01 ～ 2014.03.31	K-12レベル（幼稚園から高等学校を卒業するまで）で日本に関する授業を行なう教師を対象としたオンライン・カリキュラムを開発し、2012年よりネット上の教育コースを開講する。また、授業で日本について教える際の基本資料をオンライン上で提供する他、日米両国から10名ずつの教師が日米間の教育を通じた相互理解についてネット上のフォーラムを開催
64	J-Center：中西部地域における日米関係強化事業	米国市民外交センター	2011.03.01 ～ 2014.03.31	米国中西部地域10州と日本の市民レベルでの交流を強化するため、申請機関内に「日本センター」を設置し、日米交流ディレクター作成及び関係団体のネットワーク化、日米交流プログラムの調査及びベスト・プラクティスの共有、アドバイザー・カウンシルの設立とアドバイザーの訪日及び日米両国における会議開催、などを実施
65	東アジアにおける多角的安全保障とガバナンス一次の半世紀に向けて	2011年5大学連合国際共同研究準備委員会	2011.03.15 ～ 2012.03.31	本プロジェクトは、アジア太平洋を主導する五大学の第一級の研究者と実務家を集め、その連携によって次の半世紀における東アジア国際政治の課題を明らかにするとともに、今後半世紀の間に実現すべき具体的かつ建設的な提案を、実務家との協議を踏まえつつ展開。既に過去2年にわたり予備的な共同作業が進められており、また本申請が網羅する2011年度以後も、2013年度まで合計三年間のプロジェクトを予定
66	『京の町屋ウェブサイト』プロジェクト	ボストン子供博物館	2011.03.15 ～ 2014.06.30	K-12レベルを中心に、広く日本理解を深めるため、同博物館が保存・展示する「京の町屋」に関する資料をカタログ化、またこれに関する映像資料やドキュメンタリー映画等の素材を活用し、これをウェブサイト上で日本理解のためのリソースとして公開するプロジェクト。ウェブサイトを通じてバーチャルに京の町屋を体験して日本理解を深めることができ、教師はウェブ上のリソースを授業に活用となる。プロジェクトの成果は学会等を通じて広く教育関係者に共有

日米交流推進費

2. 催し等事業費 / (2) 日米交流支援 (主催)

日米間の知的交流を推進するために、セミナー・シンポジウム等を開催する。

合計額 33,822,753 円

	事業名	共催・協力機関	期間	事業内容
1	日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク事業	マンスフィールド財団	2009.04.01 ~ 2012.03.31	将来、米国の政策・世論形成に関与することが期待される中堅・若手の日本研究者、実務家に、日米グローバル・パートナーシップの多様なアジェンダについて幅広い理解を得、また彼らが相互に緊密なネットワークを形成することを目的として3か年にわたって継続中の事業
2	米国国際関係専攻大学院生招へいプログラム	国際関係大学院協会 (APSIA)	2010.08.15 ~ 2010.08.24	米国の国際関係論を専攻する大学院生15名を招へいし、日本の学者、研究者、政治家、財界人、NPO、文化人との懇談、関係機関への視察を通じて、日本の外交や社会政策の背景にある文化的・歴史的経緯にも触れる機会を供することで、参加者の日本理解を促進し、より強固で多角的な日米関係の発展に寄与することを目指す事業。2010年度は東京、広島、京都を訪問
3	日本一日系人交流促進プロジェクト		2010.04.01 ~ 2011.03.31	多様な分野で活躍する日系米国人 (主として3世・4世) を日本に招へいし、各界との対話、公開シンポジウム、報告書等出版を通じて、日米相互理解の深化と米国日系人コミュニティとの長期的関係を強化する事業
4	米国CSR調査：報告書作成		2010.04.01 ~ 2011.03.31	これまで中国・インド・フランス等各国で実施・分析・報告・発刊し、好評を得てきたCSR調査に関し、平成20年度から米国でも調査を開始。結果報告・分析及びその他加筆も完了し、報告書が完成した。前例同様、米国版も報告書を製本化し、現地及び日本国内に配布